

大阪湾圏域広域処理場整備
事業に係る環境監視結果

平成28年度報告書

平成29年9月

大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る

大阪府域環境保全協議会

はじめに

人口、産業が集中する近畿圏において、廃棄物の最終処分場の確保が極めて困難な状況にあることから、大阪湾に最終処分場を確保し広域の廃棄物を処理するため、昭和 57 年 3 月に「大阪湾広域臨海環境整備センター」（以下「大阪湾センター」という。）が設立され、大阪湾圏域広域処理場整備事業が進められることになった。

大阪府域においては、平成 4 年 1 月に泉大津沖処分場の供用が開始されて以降、大阪、堺、泉大津の 3 基地の施設整備が順次行われ、廃棄物埋立処分事業が本格的に実施された。

さらに、大阪沖処分場については、平成 11 年 12 月に環境アセスメント手続きが終了し、公有水面埋立免許が平成 13 年 7 月に認可された。同年 10 月に着工され、平成 21 年 10 月より廃棄物の埋立処分を行っている。

「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」は、当該事業の実施にあたって、最終処分場、積出基地周辺（和歌山基地を除く）の環境監視及び環境保全対策の実施に関し、大阪湾センターを指導することにより、地域住民の生活環境の保全を図ることを目的として、平成元年 7 月に設置された。また、大阪沖処分場の着工に伴い、同処分場を本協議会の監視対象施設に加えるとともに、協議会の効率的な運用を図るため、平成 14 年 5 月に設置要綱の改正を行った。

泉大津沖処分場の環境監視については、大阪湾センターが「処分場及び積出基地の供用に係る環境監視計画」に基づき、また、大阪沖処分場の環境監視については大阪湾センター、大阪市及び近畿地方整備局が「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画書」に基づき、水質、大気質等についての調査を実施し、各事業による環境影響の未然防止に努めている。

本報告書は、大阪湾センター等が実施した平成 28 年度の環境監視調査結果について府、市の調査結果と比較するなど環境保全上の見地から検討し、とりまとめたものである。

平成 29 年 9 月

大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る
大阪府域環境保全協議会会長
大阪府環境農林水産部環境管理室
環境保全課長 片山 雅英

目次

第1章 協議会の活動状況

1-1 会議の開催等	1
1-2 環境監視結果の評価	2

第2章 監視対象事業の実施状況

2-1 大阪沖処分場埋立事業	3
2-2 泉大津沖処分場埋立事業	6
2-3 積出基地の受入状況	9

第3章 環境監視結果の評価

3-1 大阪沖処分場	11
3-1-1 環境監視の実施状況	11
3-1-2 環境監視結果	14
(1) 水質	14
(2) 底質	25
(3) 大気質	26
(4) 騒音・低周波音	27
(5) 悪臭	28
3-2 泉大津沖処分場及び泉大津基地	30
3-2-1 環境監視の実施状況	30
3-2-2 環境監視結果	33
(1) 水質	33
(2) 底質	47
(3) 海生生物	48
(4) 交通量	50
(5) 大気質	53
(6) 騒音・振動	55
(7) 悪臭・発生ガス	56
(8) アスベスト	58
3-3 大阪基地	59
3-3-1 環境監視の実施状況	59
3-3-2 環境監視結果	61
(1) 交通量	61
(2) 大気質	64
(3) 騒音・振動	66
(4) 悪臭	67
3-4 堺基地	68
3-4-1 環境監視の実施状況	68
3-4-2 環境監視結果	70
(1) 交通量	70
(2) 大気質	73
(3) 騒音・振動	75
(4) 悪臭	76
3-5 まとめ	77

参考資料

「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」設置要綱

第 1 章 協議会の活動状況

平成 28 年度の協議会の活動状況は次のとおりである。

1-1 会議の開催等

平成 28 年 5 月 18 日 大阪沖処分場埋立事業の現場視察を実施した。

平成 28 年 5 月 20 日 泉大津沖処分場埋立事業の現場視察を実施した。

平成 28 年 8 月 31 日 事業者がとりまとめた「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書（年報）（平成 27 年度）」及び泉大津沖処分場等に係る「平成 27 年度環境監視調査（大阪府域）報告書」を協議会構成員に送付した。

平成 28 年 9 月 14 日 大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会を開催し、事業者が行った環境監視結果（平成 27 年度）の内容を評価した「環境監視結果平成 27 年度報告書(案)」について検討を行い、報告書を取りまとめた。

平成 28 年 9 月 21 日 事業者がとりまとめた「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査報告書（年報）（平成 27 年度）」及び泉大津沖処分場等に係る「平成 27 年度環境監視調査（大阪府域）報告書」を府政情報センター等において公開した。

「環境監視結果平成 27 年度報告書」を府政情報センター及び府ホームページ等において公開した。

平成 28 年 10 月 3 日 「環境監視結果平成 27 年度報告書」を事業者に手交し、引き続き環境保全に万全を期すよう申し添えた。

1-2 環境監視結果の評価

大阪湾広域臨海環境整備センター（以下「大阪湾センター」という。）等から、毎月報告された測定結果について、環境監視計画に定められている監視基準値との比較を行うとともに、環境基準値との対比、経月変化、大阪府及び関係自治体を実施している測定結果との比較検討を行い評価した。

図 1-2-1 にその作業フローを示す。

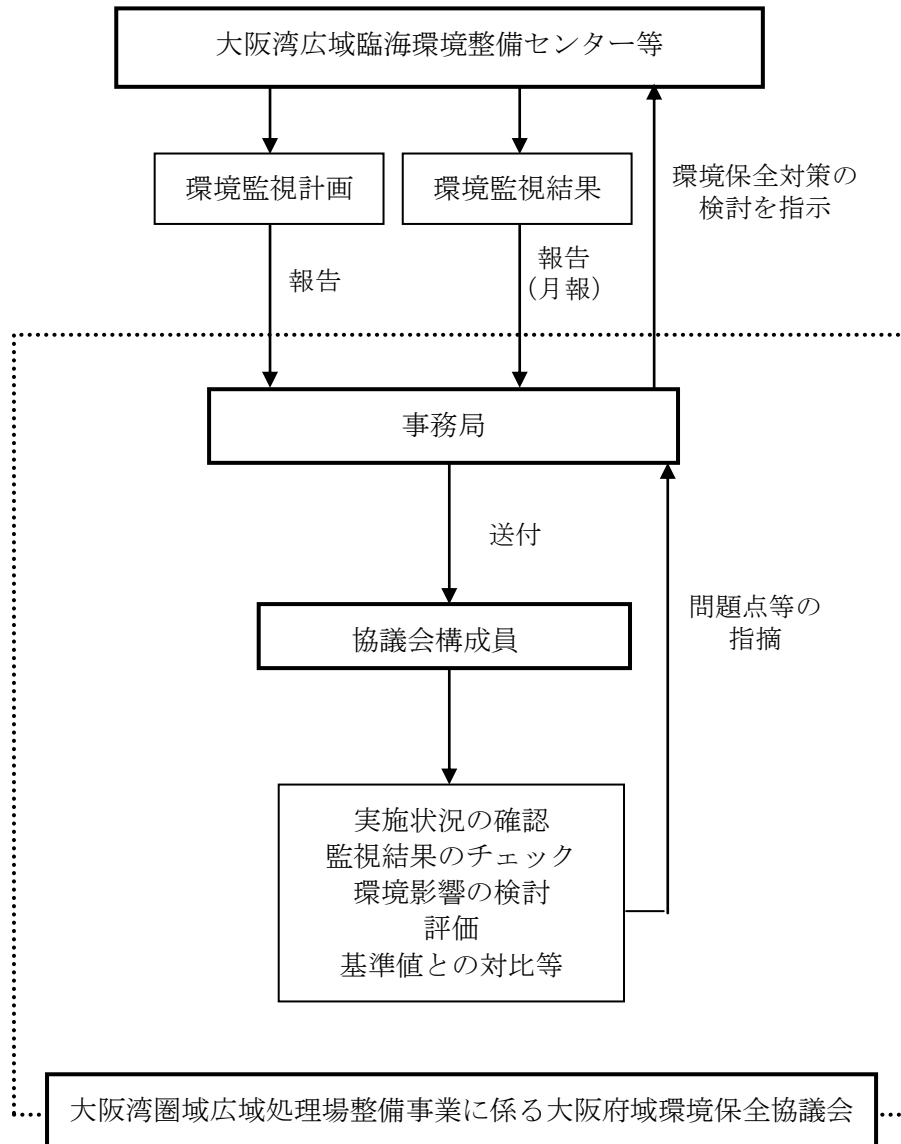


図 1-2-1 環境監視結果の評価・作業フロー

第 2 章 監視対象事業の実施状況

2-1 大阪沖処分場埋立事業

(1) 廃棄物等種類別の受入状況

- 平成 13 年 10 月の着工後、平成 21 年 8 月に護岸工事が終了し、同年 10 月より廃棄物の受入を行っている。
- 平成 28 年度の大阪沖処分場の受入量は 58.7 万 t であり、その構成割合は図 2-1-1 に示すとおりで一般廃棄物が 49.5% (約 29 万 t) と最も多く、次いで、産業廃棄物 43.2% (約 25 万 t)、陸上残土 7.3% (約 4 万 t) であった。

産業廃棄物の内訳では、汚泥が 47.7% (約 12 万 t) と最も多く、次いで鉱さい 26.1% (約 7 万 t)、燃え殻 9.8% (約 3 万 t)、がれき類 8.3% (約 2 万 t) であった。

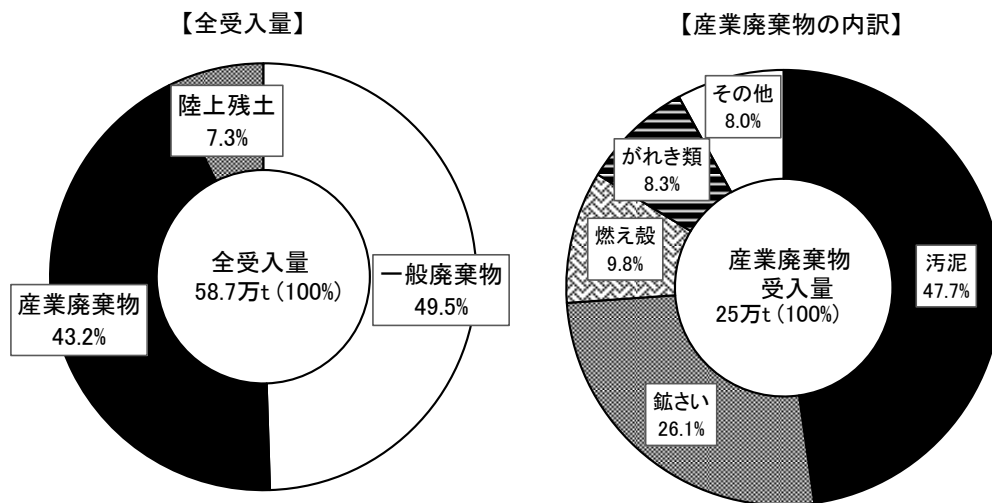


図 2-1-1 平成 28 年度受入廃棄物等の種類別割合

(埋立開始以降の累積受入状況)

- 埋立開始から平成 28 年度末までの大阪沖処分場の受入量は 566.7 万 t であり、その構成割合は図 2-1-2 に示すとおりであり、産業廃棄物が 45.9% と最も多く、次いで一般廃棄物 42.7%、陸上残土 11.5% であった。

産業廃棄物の内訳では、汚泥が 47.4%、鉱さいが 27.7%、燃え殻が 9.7%、がれき類が 5.8% であった。

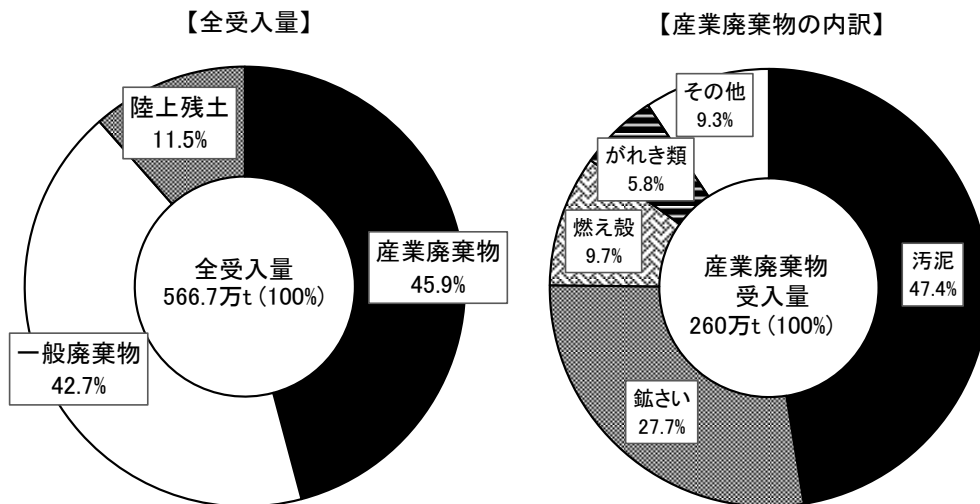


図 2-1-2 累積受入廃棄物等の種類別割合 (平成 21 年 10 月～平成 29 年 3 月)

(2) 受入状況の推移

○ 大阪沖処分場での月別受入状況は図 2-1-3 のとおりであり、各月の受入量は年間を通して約 4～6 万 t であった。

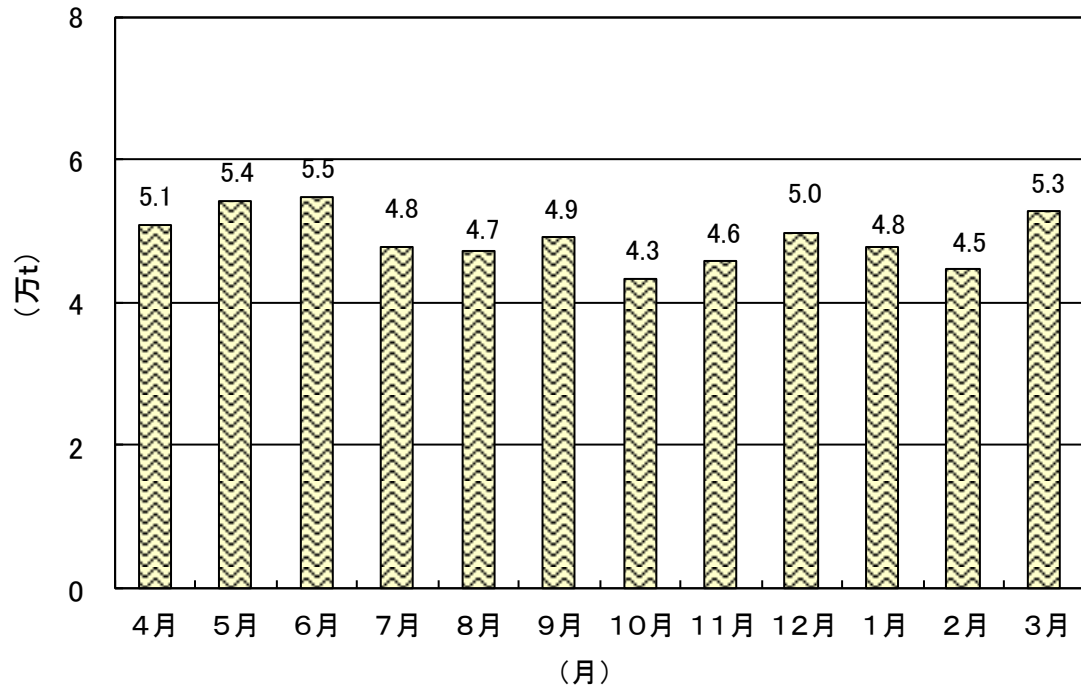
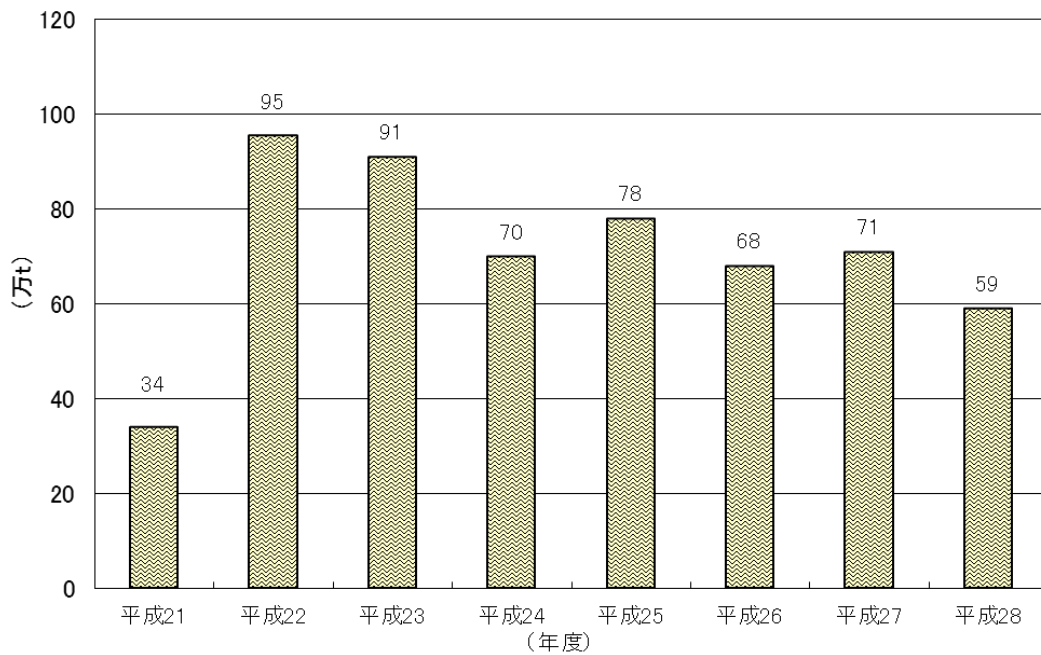


図 2-1-3 廃棄物等の月別受入状況 (平成 28 年度)

○ 受入開始してからの年度毎の受入量は図 2-1-4 に示すとおりであり、平成 22 年度以降は 59 万 t から 95 万 t で推移していた。



注: 平成21年度の受入れは平成21年10月から開始している。

図 2-1-4 廃棄物等の年度別受入量

(3) 埋立の進捗状況

平成 29 年 3 月末現在の埋立の進捗状況は下図のとおりである。

埋立容量から埋立進捗率を見ると、計画容量 (1,397.5 万 m³) の 29.1%であった。

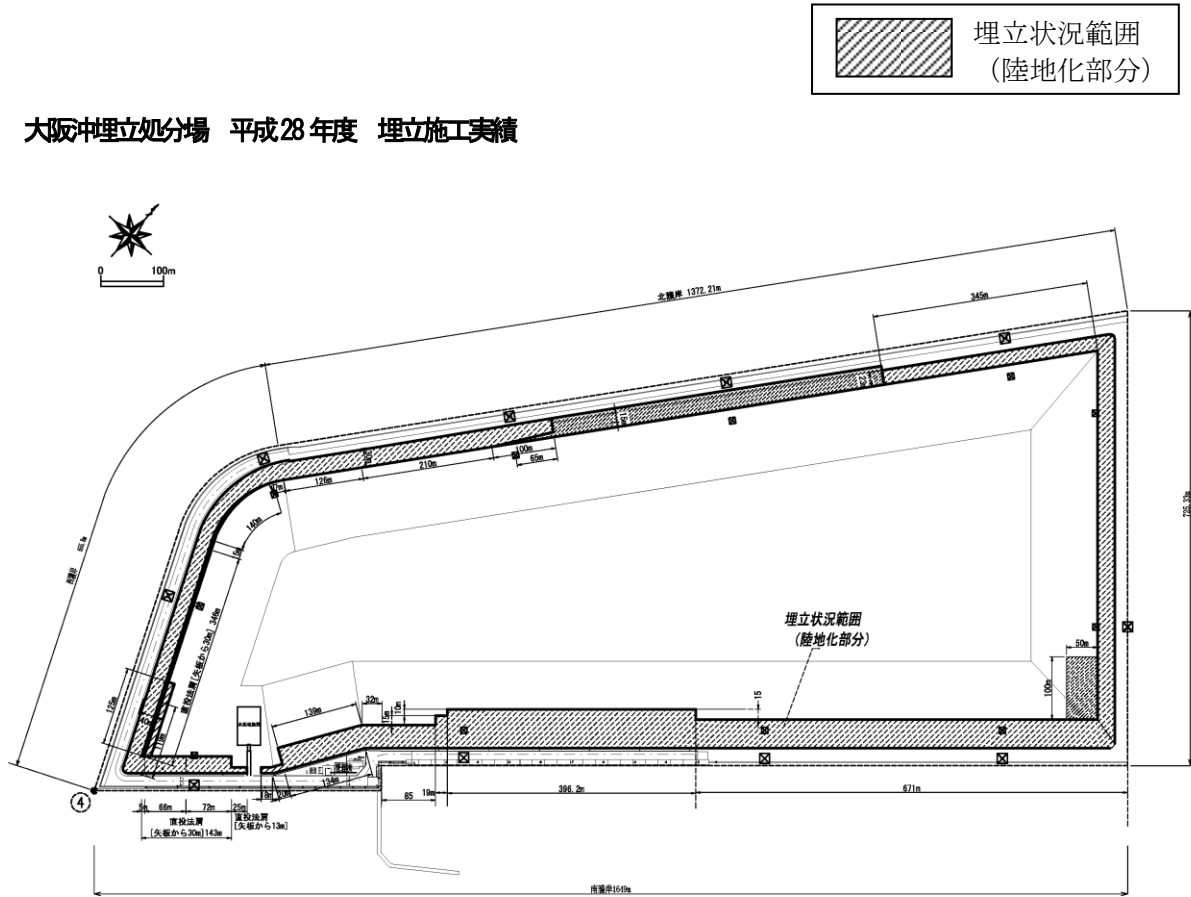


図 2-1-5 埋立の進捗状況 (平成 29 年 3 月末現在)

2-2 泉大津沖処分場埋立事業

(1) 廃棄物等種類別の受入状況

○ 平成 28 年度の泉大津沖処分場の受入量は 41.7 万 t であり、その構成割合は図 2-2-1 に示すとおりで、浚渫土砂が 51.2% (約 21 万 t) と最も多く、次いで陸上残土 32.5% (約 14 万 t)、産業廃棄物 16.3% (約 7 万 t) であった。

産業廃棄物の内訳では、がれき類が 94.3% (約 6 万 t) で最も多かった。

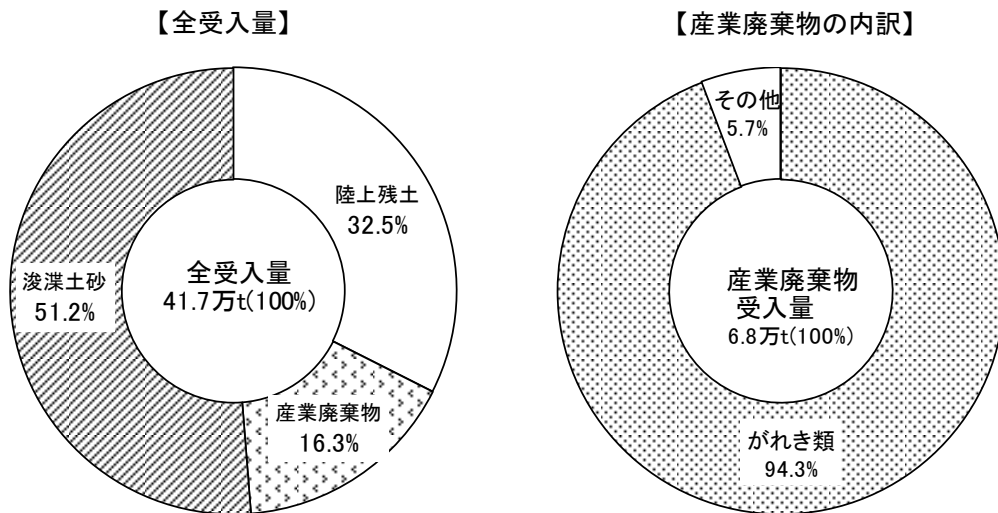


図 2-2-1 平成 28 年度受入廃棄物等の種類別割合

(埋立開始以降の累積受入状況)

○ 埋立開始から平成 28 年度末までの泉大津沖処分場の受入量は 4,884 万 t であり、その構成割合は図 2-2-2 に示すとおりであり、陸上残土が 43.5% と最も多く、次いで産業廃棄物 22.9%、浚渫土砂 21.4%、一般廃棄物 12.1% であった。

産業廃棄物の内訳では、がれき類が 41.0% と最も多く、次いで汚泥 29.9%、鉱さい 21.8% であった。

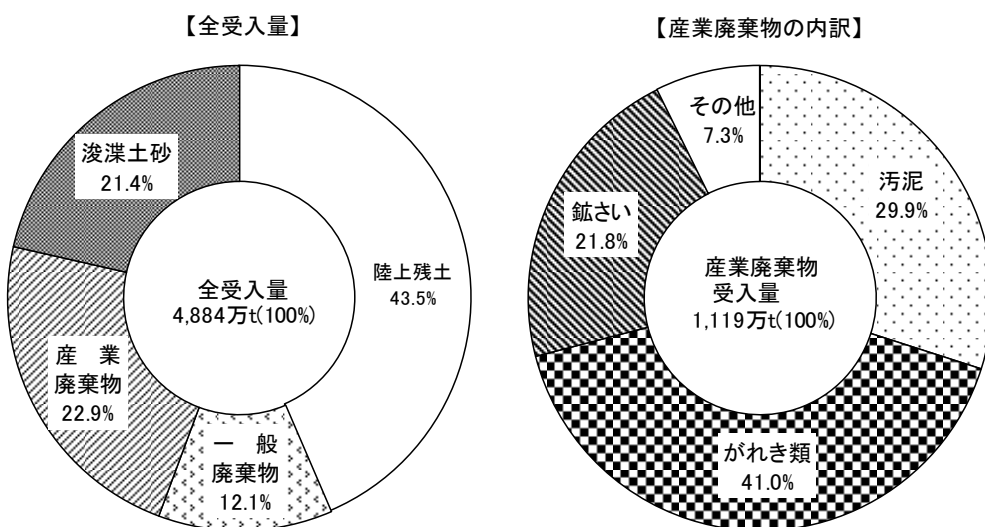


図 2-2-2 累積受入廃棄物等の種類別割合 (平成 4 年 1 月～平成 29 年 3 月)

(2) 受入状況の推移

○ 泉大津沖処分場での月別受入状況は図 2-2-3 のとおりであり、各月の受入量は約 1～6 万 t で推移していた。なお、平成 28 年度は管理型区画への受入はなかった。

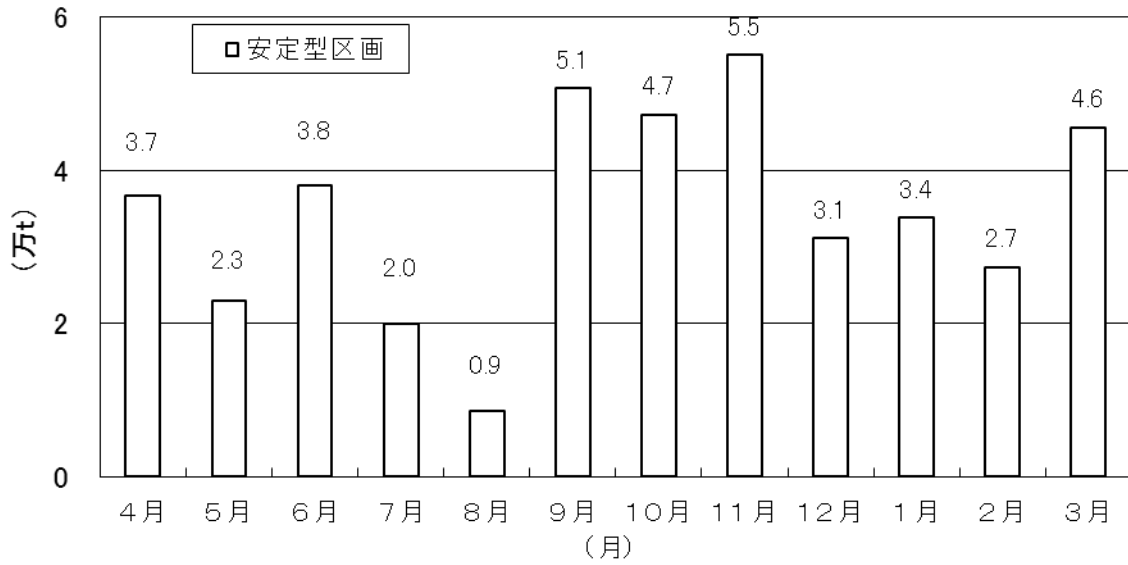
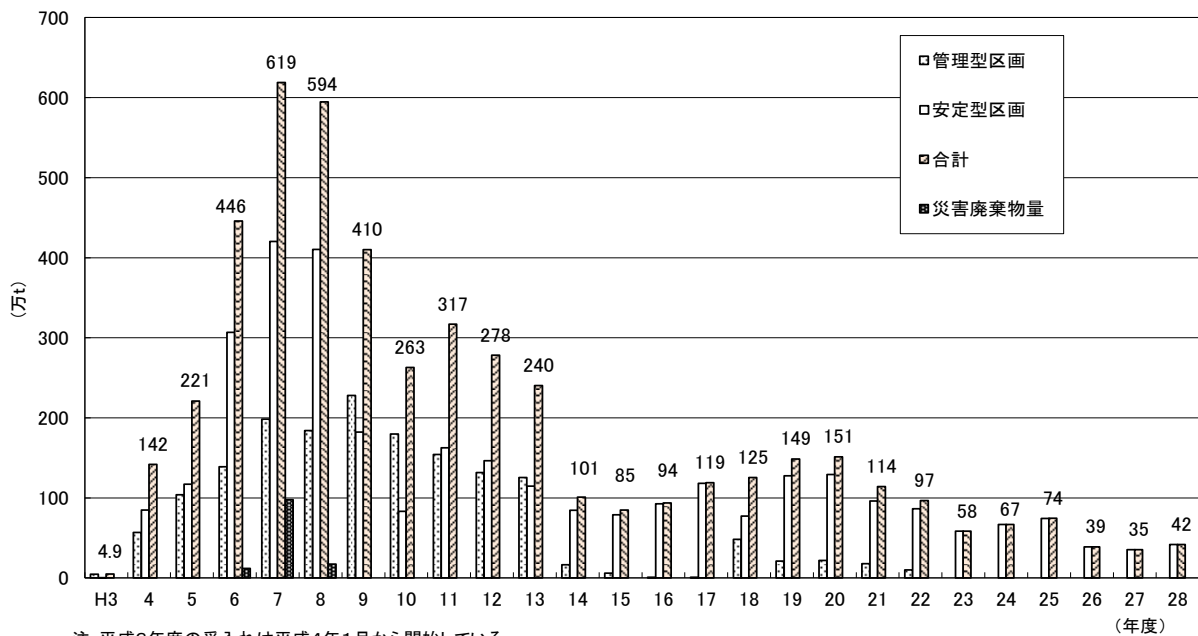


図 2-2-3 廃棄物等の月別受入状況 (平成 28 年度)

○ 受入開始してからの年度毎の受入量は図 2-2-4 に示すとおりであり、平成 7 年度をピークとして減少し、平成 14 年度から平成 22 年度は約 90～150 万 t 程度で推移していたが、平成 23 年度以降はさらに減少し、約 40～70 万 t 程度となった。



注:平成3年度の受入れは平成4年1月から開始している。
災害廃棄物の受入れは平成6年度から8年度まで行われた。

図 2-2-4 廃棄物等の年度別受入量

(3) 埋立の進捗状況

平成 29 年 3 月末現在の埋立の進捗状況は下図のとおりである。

埋立容量から埋立進捗率を見ると、管理型区画では計画容量 (1,080 万 m³) の 96.1%、安定型区画では計画容量 (2,000 万 m³) の 93.9%であった。

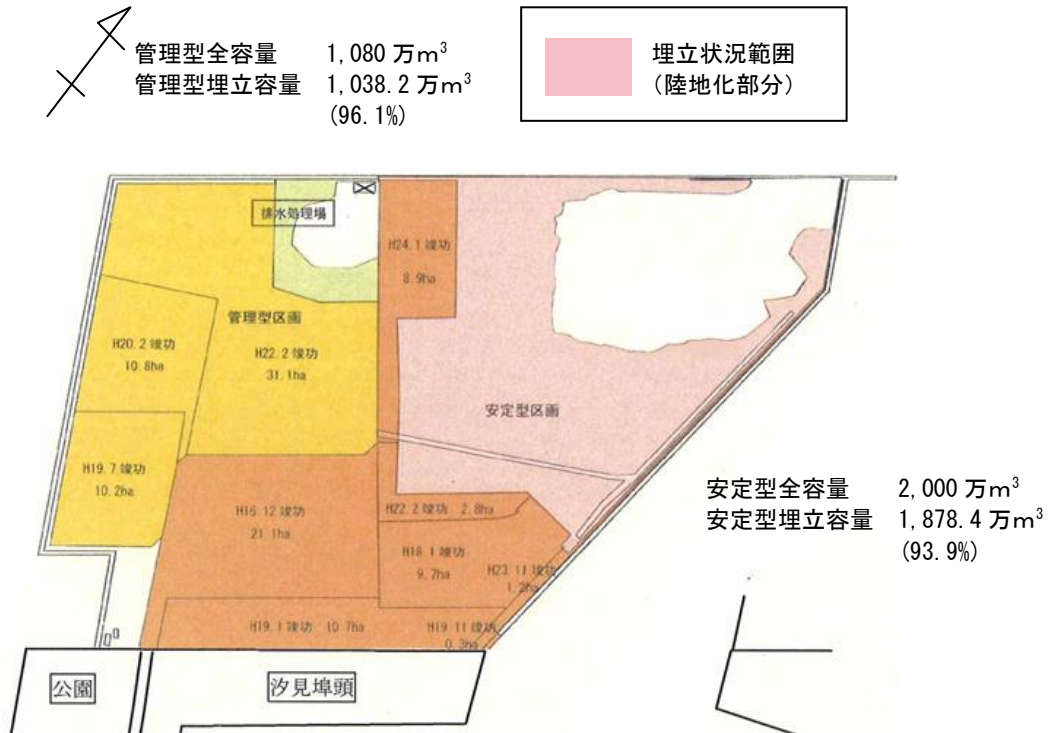


図 2-2-5 埋立の進捗状況 (平成 29 年 3 月末現在)

2-3 積出基地の受入状況

- 積出基地の廃棄物種類別の受入状況を表 2-3-1 に、受入状況の推移を表 2-3-2 に示す。
- 平成 28 年度の積出基地別の受入量は、大阪基地が約 15 万 t（搬入台数は約 2 万台）、堺基地は約 31 万 t（搬入台数は約 4 万台）、泉大津基地は約 11 万 t（搬入台数は約 2 万台）、和歌山基地は約 11 万 t（搬入台数は約 1 万台）であった。

平成 27 年度と比較すると大阪基地では約 6 万 t、堺基地で約 3 万 t、泉大津基地で約 5 万 t、和歌山基地で約 3 万 t の減少であった。

表 2-3-1 積出基地別、廃棄物種類別の受入状況(平成 28 年度)

(単位：t、台)

廃棄物等の種類		平成 28 年 度						処分量		累積処分量		
		大阪 基地	堺 基地	泉大津 基地	和歌山 基地	大阪沖 直接投入量	泉大津沖 直接搬入量	大阪沖	泉大津沖	大阪沖	泉大津沖	
												大阪沖
1.	一般廃棄物	72,779	189,235	0	28,802	0	0	290,816	0	2,417,303	5,913,928	
2.	汚 泥	①上水汚泥	3,388	4,714	0	4,606	0	0	12,708	0	196,821	978,296
		②下水汚泥	4,656	18,328	0	959	0	0	23,943	0	180,239	351,879
		③汚泥(①②を除く)	17,751	65,738	0	900	0	0	84,389	0	855,604	2,020,672
		汚泥小計	25,795	88,780	0	6,465	0	0	121,040	0	1,232,664	3,350,847
	④燃えがら	11,678	12,873	0	325	0	0	24,876	0	252,927	155,616	
	⑤鉱さい	9,647	8,900	0	47,591	0	0	66,138	0	720,852	2,435,482	
	⑥ばいじん	4,104	7,644	0	8	0	0	11,756	0	81,445	57,753	
	⑦廃プラスチック類、ゴムくず	38	0	283	133	0	0	171	283	7,259	24,768	
	⑧金属くず、ガラスくず、 陶磁器くず	4,992	0	3,622	1,797	0	0	6,789	3,622	67,031	292,097	
	⑨がれき類	0	0	64,142	21,103	0	0	21,103	64,142	151,482	4,590,416	
⑩その他の産業廃棄物	1,540	124	0	0	0	0	1,664	0	86,687	285,369		
	産業廃棄物小計	57,794	118,321	68,047	77,422	0	0	253,537	68,047	2,600,347	11,192,348	
3.	陸上残土 ^{※1}	19,409	2,687	40,622	0	20,740	94,845	42,836	135,467	649,458	21,266,079	
4.	浚渫土砂	0	0	0	0	0	213,923	0	213,923	0	10,468,593	
	合計 ^{※2}	149,982	310,243	108,669	106,224	20,740	308,768	587,189	417,437	5,667,108	48,840,948	
	搬入台数	18,659	37,905	17,353	13,235	-	-	-	-	-	-	

※1：陸上残土の直接搬入量は、購入した土砂（覆土用）を含む。

※2：合計欄は四捨五入の関係で必ずしも各廃棄物量の合計値とは合わない。

表 2-3-2 積出基地別の受入状況の推移

(単位：t、台)

年度	大阪基地		堺基地		泉大津基地		和歌山基地		大阪沖 直接投入量	泉大津沖 直接投入量	処分場埋立処分量		
	受入量	搬入台数	受入量	搬入台数	受入量	搬入台数	受入量	搬入台数			大阪沖	泉大津沖	
平成3	46,199	3,829	1,290	85	345	24	0	0	—	1,450	—	49,284	
平成4	239,433	19,504	426,816	29,729	354,877	26,026	0	0	—	396,119	—	1,417,245	
平成5	705,977	53,185	698,830	52,687	632,419	49,769	0	0	—	171,340	—	2,208,566	
平成6	1,551,381	145,720	1,077,469	101,417	1,406,232	141,280	0	0	—	422,747	—	4,457,829	
平成7	1,779,696	160,731	1,145,454	104,090	1,044,555	106,645	0	0	—	2,216,954	—	6,186,659	
平成8	1,230,579	120,339	1,168,827	109,161	963,136	101,222	260,680	27,852	—	2,321,475	—	5,944,697	
平成9	1,240,698	122,553	1,009,507	96,003	953,766	101,888	430,159	46,110	—	464,633	—	4,098,763	
平成10	666,695	69,190	761,364	71,899	636,072	69,707	339,069	38,264	—	225,695	—	2,628,895	
平成11	868,122	86,106	1,038,411	96,232	650,617	71,134	232,853	25,827	—	378,587	—	3,168,590	
平成12	684,944	70,298	906,530	84,969	436,854	50,819	165,566	18,614	—	587,736	—	2,781,630	
平成13	704,063	72,368	794,690	75,869	440,016	49,321	172,756	18,654	—	291,139	—	2,401,799	
平成14	506,623	53,151	494,418	53,423	709,834	71,150	115,227	13,334	—	299,439	—	1,009,273	
平成15	530,696	57,203	478,313	52,583	548,548	56,059	123,943	14,389	—	299,792	—	848,340	
平成16	520,223	59,591	483,112	53,475	634,865	76,711	134,560	14,951	—	301,893	—	936,758	
平成17	508,746	56,136	497,155	56,054	789,324	90,008	178,690	18,760	—	400,192	—	1,189,516	
平成18	515,482	56,964	545,190	60,236	915,612	105,461	218,061	22,139	—	242,925	—	1,254,537	
平成19	557,719	59,204	533,903	62,313	957,370	110,502	212,026	24,076	—	528,011	—	1,485,386	
平成20	527,200	57,020	558,497	62,846	781,021	91,953	234,906	25,965	—	730,678	—	1,511,700	
平成21	315,231	36,965	494,765	57,427	632,220	73,853	157,026	17,507	21,240	508,205	339,733	1,140,428	
平成22	312,418	38,277	442,788	51,889	424,038	51,588	193,145	21,675	5,918	541,355	954,266	965,396	
平成23	359,379	45,063	407,276	48,200	265,342	34,961	139,592	16,258	0	319,085	906,247	584,427	
平成24	200,118	25,409	386,252	48,051	238,818	34,452	116,394	15,345	0	429,032	702,759	667,855	
平成25	168,609	21,358	392,968	47,807	227,006	31,687	125,438	16,388	97,348	517,805	784,351	744,823	
平成26	161,573	20,442	374,879	45,596	124,934	19,655	125,103	16,517	23,137	262,862	684,673	387,815	
平成27	207,834	25,935	338,170	41,544	156,065	22,682	139,602	17,467	22,284	197,235	707,890	353,300	
平成28	4月	12,625	1,603	26,967	3,321	9,678	1,461	8,768	1,097	2,440	27,007	50,800	36,685
	5月	15,550	1,915	27,093	3,304	12,503	1,865	9,052	1,129	2,440	10,500	54,135	23,003
	6月	18,815	2,290	26,324	3,226	5,090	967	8,292	1,043	1,220	32,940	54,651	38,030
	7月	11,713	1,487	25,320	3,158	7,133	1,148	9,533	1,194	1,220	12,876	47,786	20,009
	8月	11,206	1,404	25,814	3,168	6,491	1,080	7,624	970	2,440	2,126	47,084	8,617
	9月	10,821	1,379	26,377	3,187	5,356	904	10,632	1,309	1,220	45,387	49,050	50,743
	10月	9,779	1,260	24,358	2,997	5,190	988	6,652	862	2,440	42,106	43,229	47,296
	11月	11,857	1,480	24,891	3,026	9,863	1,674	8,923	1,104	0	45,207	45,671	55,070
	12月	13,983	1,648	26,570	3,222	13,698	2,067	7,988	990	1,220	17,464	49,761	31,162
	1月	11,349	1,399	24,840	2,993	12,085	1,778	10,222	1,223	1,220	21,754	47,631	33,839
2月	10,167	1,276	22,530	2,787	9,312	1,534	9,606	1,170	2,440	18,066	44,743	27,378	
3月	12,117	1,518	29,159	3,516	12,270	1,887	8,932	1,144	2,440	33,335	52,648	45,605	
計	149,982	18,659	310,243	37,905	108,669	17,353	106,224	13,235	20,740	308,768	587,189	417,437	
累積	15,259,620	1,555,200	15,767,117	1,601,490	15,032,555	1,655,910	3,921,020	443,327	190,667	13,365,152	5,667,108	48,840,948	

第3章 環境監視結果の評価

3-1 大阪沖処分場

3-1-1 環境監視の実施状況

大阪沖処分場における平成28年度の環境監視の実施状況の概要を表3-1-1に示す。また、調査地点を図3-1-1(1)(2)に示す。

表3-1-1 廃棄物等埋立中に係る環境監視の実施状況の概要

項目		調査項目	調査頻度	調査点数
水質	周辺海域 (一般項目)	COD等一般項目	1回/月	5
	処分場周辺	COD等一般項目	4回/年	6
		健康項目等	2回/年(8・2月)	
	護岸外周	COD等一般項目	4回/年	3
		健康項目等	4回/年	
		ダイキソ類	1回/年(8月)	
	放流水 及び内水	pH, COD, DO, 水温, 濁度	連続測定	1(放流水のみ)
		SS, FSS	1回/週	2
		pH, COD, T-N	1回/月	2
		T-P, n-ヘキサン抽出物質, 大腸菌群数	4回/年	2
		健康項目等	4回/年	2
		ダイキソ類	4回/年	1(放流水のみ)
	周辺海域 (自主調査項目)	ニルフェノール, LAS	2回/年(8・2月)	1(内水のみ)
底質	COD等一般項目	1回/年(8月)	5	
	有害項目	2回/年(8・2月)	1	
大気質	SO ₂ , NO, NO ₂ , SPM 風向, 風速	通年	1	
騒音 低周波音	騒音レベル, 低周波音圧レベル	2回/年(4・10月)	1	
悪臭	臭気強度, 臭気指数, 特定悪臭物質濃度	2回/年(8・9月)	1	

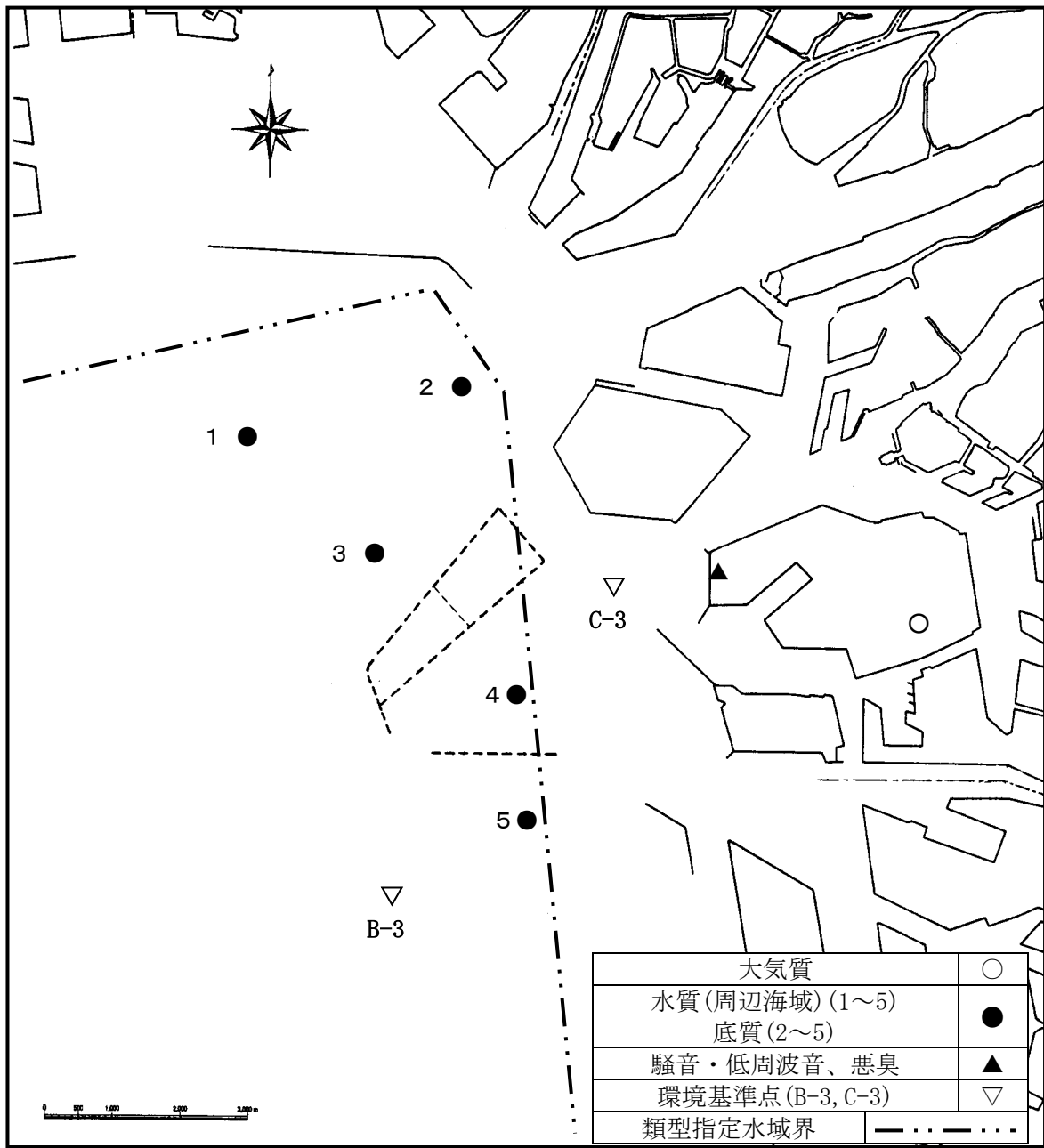
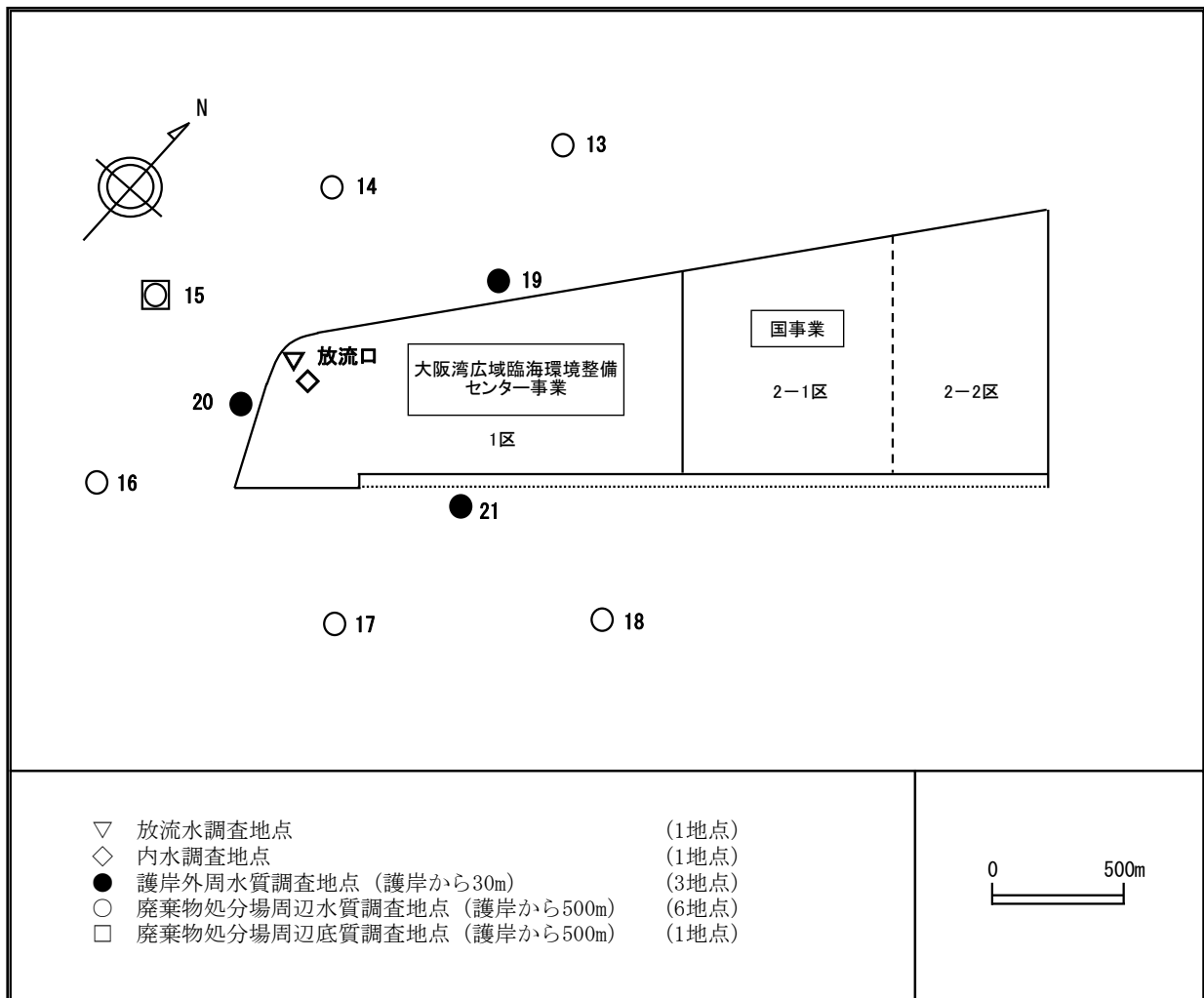


図 3-1-1(1) 調査地点



3-1-2 環境監視結果

(1) 水質

ア) 環境監視結果の評価

環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-1-2 環境監視結果の概要及び評価（水質）

	監視結果の概要	評価
周辺海域 (1~5) 〔一般項目〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ SS 濃度（監視点の平均値）の経月変化を近隣 B、C 海域の大阪府所管監視点 B-3、C-3 の測定値と併せて図 3-1-2 に示す。同様に、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を図 3-1-3～図 3-1-6 に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 監視点（1～5）における SS 濃度、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を本事業地に近接する大阪府所管監視点（B-3、C-3）と比較した結果、概ね同様の傾向を示しており、特に問題ないと考えられる。 ○ 本事業地は環境基準の達成が厳しい海域にあることから、今後も周辺海域も含め、COD、DO、T-N 及び T-P の濃度の推移をみていく必要がある。
内水及び放流水	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内水及び放流水の COD 濃度、T-N 濃度及びダイオキシン類濃度の経年変化を図 3-1-7 に示す。また、放流水の監視結果の概要を表 3-1-3 に示す。 ○ 内水及び放流水の調査は、埋立が開始された平成 21 年 10 月から開始されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 内水及び放流水の COD 濃度及び T-N 濃度の経年変化では管理目標値以下であるが、引続き増加傾向がみられた。 ○ 放流水のダイオキシン類濃度は管理目標値を大きく下回って推移していた。 ○ 放流水の調査結果について、管理目標値等の範囲内であり、特に問題ないと考えられる。
処分場周辺 (13~18)	<ul style="list-style-type: none"> ○ SS 濃度（監視点の平均値）の経月変化を近隣 B、C 海域の大阪府所管監視点 B-3、C-3 の測定値と併せて図 3-1-2 に示す。同様に、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を図 3-1-3～図 3-1-6 に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 監視点（13～18）における SS 濃度、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を本事業地に近接する大阪府所管の監視点（B-3、C-3）と比較した結果、概ね同様の傾向を示しており、特に問題ないと考えられる。

	監視結果の概要	評価
護岸外周 (19 ～ 21)	<ul style="list-style-type: none"> ○ SS 濃度（監視点の平均値）の経月変化を近隣 B、C 海域の大阪府所管監視点 B-3、C-3 の測定値と併せて図 3-1-2 に示す。同様に、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を図 3-1-3～図 3-1-6 に示す。 ○ 健康項目の調査の概要を表 3-1-4 に示す。 ○ T-P 濃度の調査結果を表 3-1-5 に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 監視点（19～21）における SS 濃度、COD 濃度、DO、T-N 濃度及び T-P 濃度の経月変化を本事業地に近接する大阪府所管の監視点（B-3、C-3）と比較した結果、概ね同様の傾向を示しており、特に問題ないと考えられる。 ○ 監視点（19～21）での健康項目の調査結果について、全ての調査地点で環境基準値以下であり、特に問題ないと考えられる。 ○ T-P 濃度について大阪府所管の監視点（B-3、C-3）と比較した結果、平成 22 年 8 月に T-P 濃度で高い値が見られたが、それ以降は、大阪府所管の監視点と概ね同程度であった。
周辺海域 (自主調査項目) (1 ～ 5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS) の自主調査結果の概要を表 3-1-6 に示す。 ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS) ともに、すべての地点で定量下限値未満であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主調査の測定点での濃度は小さく、特に問題ないと考えられる。

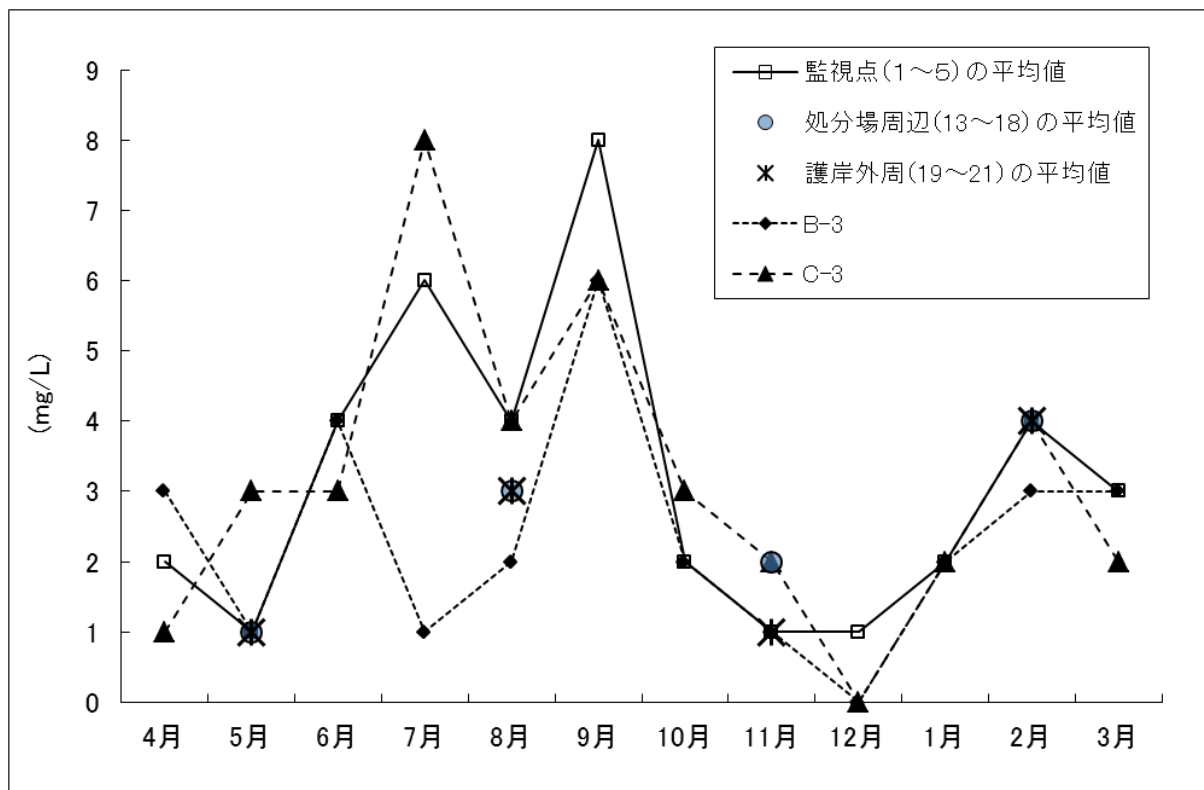


図 3-1-2 SS (上層) の経月変化

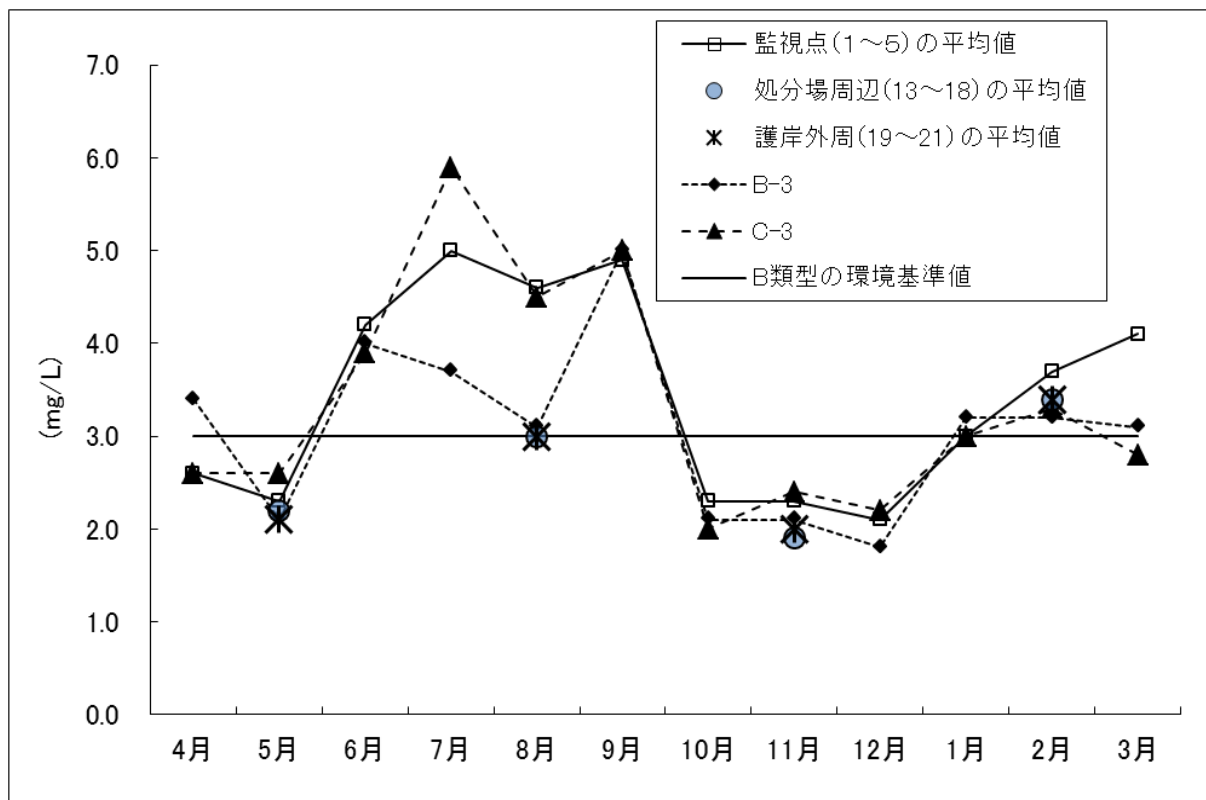


図 3-1-3 COD (上層) の経月変化

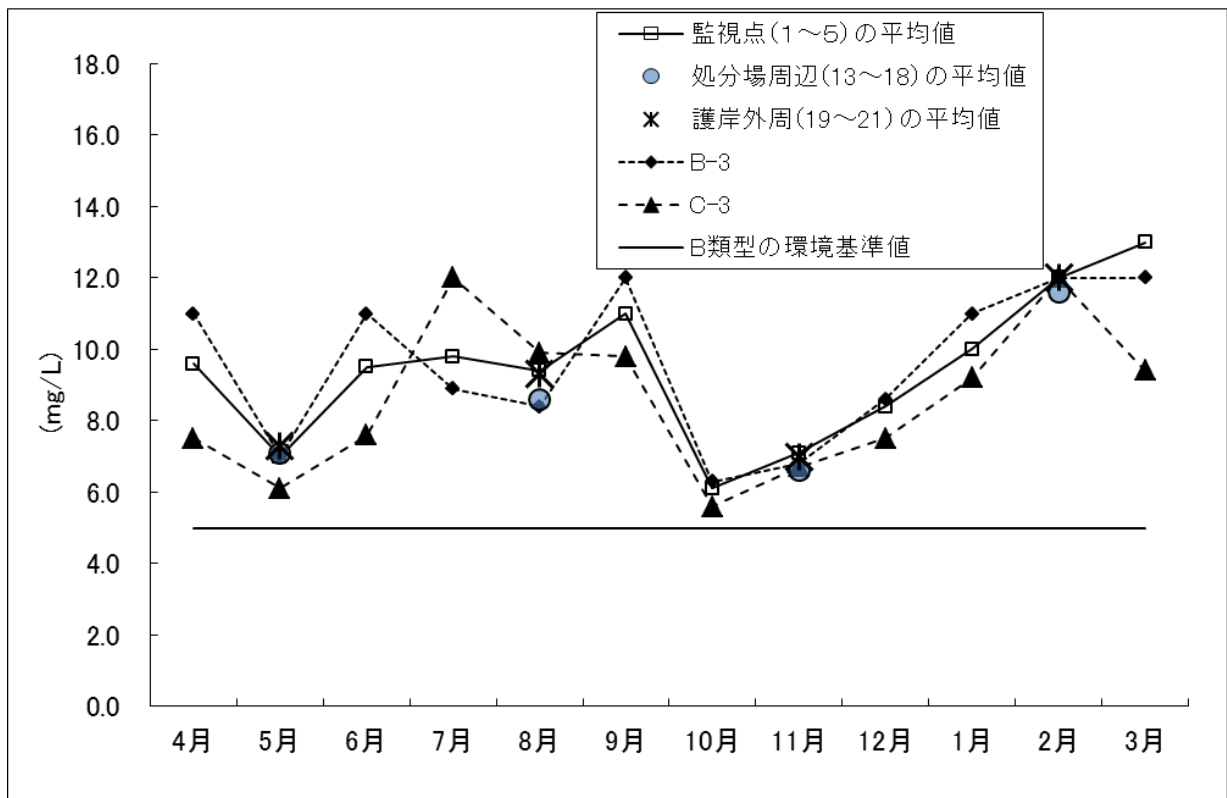


図 3-1-4 DO (上層) の経月変化

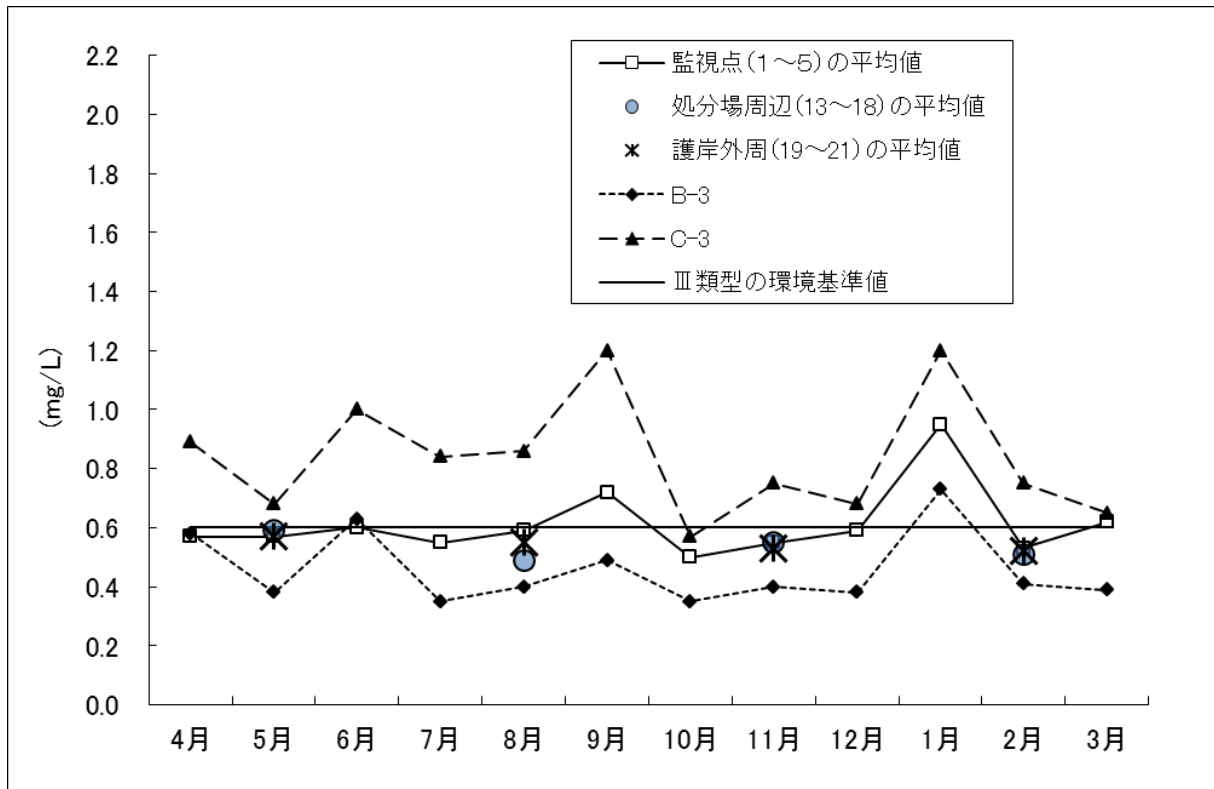


図 3-1-5 T-N (上層) の経月変化

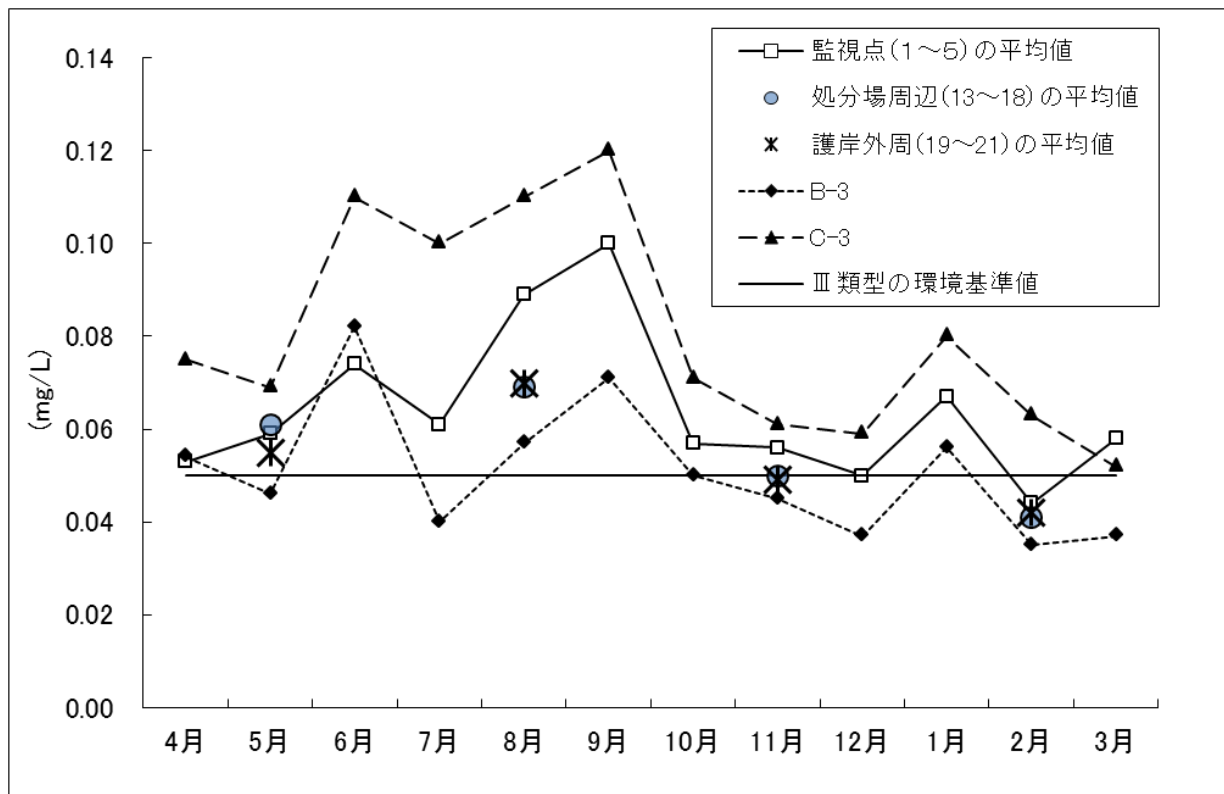


図 3-1-6 T-P (上層) の経月変化

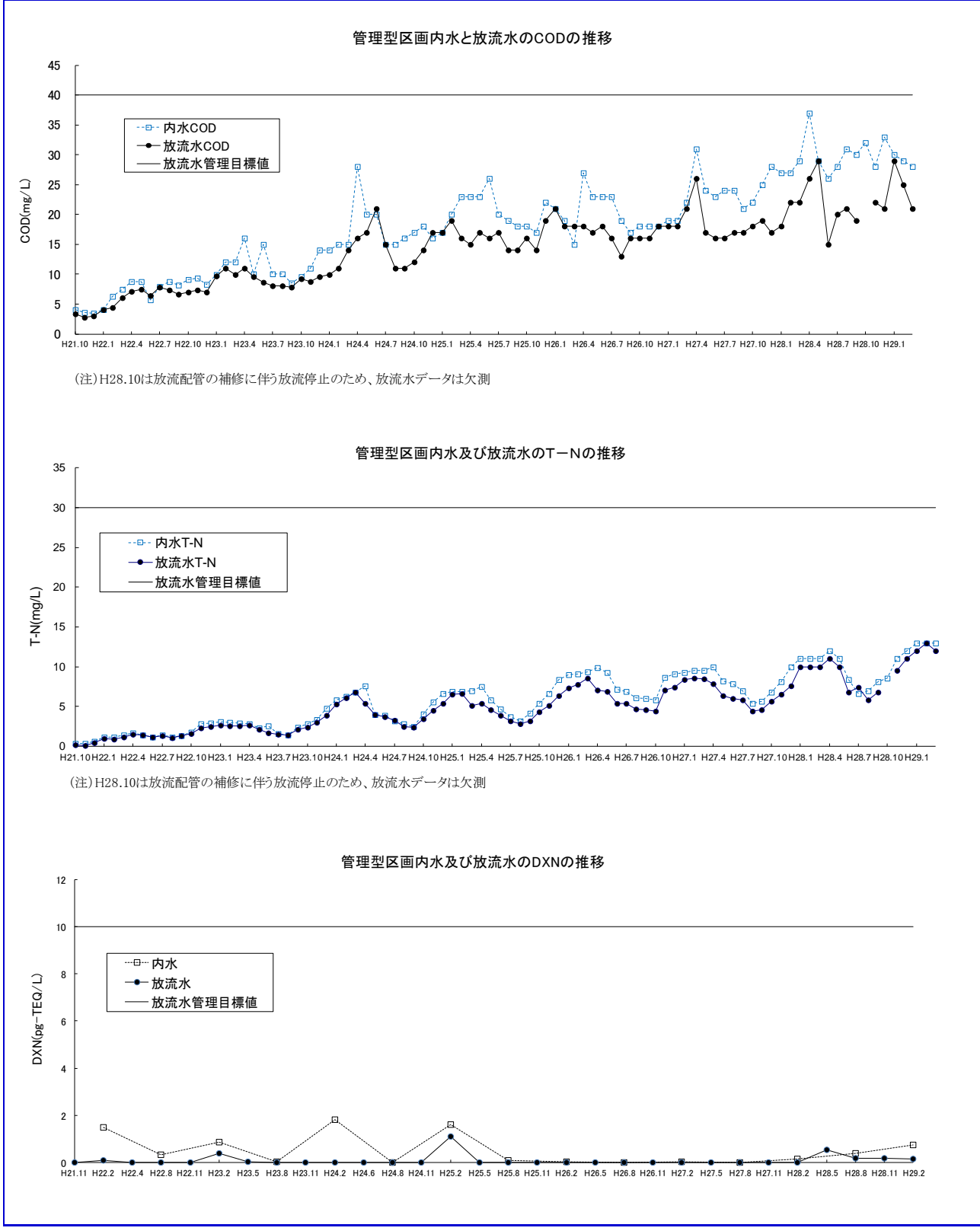


図 3-1-7 内水及び放流水の経年変化の推移

表 3-1-3 排水処理施設からの放流水質の監視結果

項目	測定頻度	監視結果	管理目標値 または排水基準値
水素イオン濃度 (pH)	毎日	6.1~7.6	5.0以上9.0以下
化学的酸素要求量 (COD)	毎日	12.6~30.8mg/L	40mg/L
浮遊物質 (SS)	週1回	<1~5mg/L	50mg/L
n-ヘキサン抽出物質含有量(鉱油類)	年4回	<0.5mg/L	5mg/L
n-ヘキサン抽出物質含有量(動植物油類)			30mg/L
大腸菌群数	年4回	不検出~160個/cm ³	3,000個/cm ³
窒素含有量(T-N)	月1回	5.8~13mg/L	30mg/L
燐含有量(T-P)	年4回	<0.1mg/L	4mg/L
カドミウム	年4回	<0.005mg/L	0.03mg/L
全シアン		<0.025mg/L	1mg/L
鉛		<0.01mg/L	0.1mg/L
六価クロム		<0.02mg/L	0.5mg/L
砒素		<0.005mg/L	0.1mg/L
総水銀		<0.0005mg/L	0.005mg/L
アルキル水銀		<0.0005mg/L	検出されないこと
PCB		<0.0005mg/L	0.003mg/L
ジクロロメタン		<0.002mg/L	0.2mg/L
四塩化炭素		<0.002mg/L	0.02mg/L
1,2-ジクロロエタン		<0.002mg/L	0.04mg/L
1,1-ジクロロエチレン		<0.002mg/L	1mg/L
シス-1,2-ジクロロエチレン		<0.002mg/L	0.4mg/L
1,1,1-トリクロロエタン		<0.002mg/L	3mg/L
1,1,2-トリクロロエタン		<0.002mg/L	0.06mg/L
トリクロロエチレン		<0.002mg/L	0.1mg/L
テトラクロロエチレン		<0.002mg/L	0.1mg/L
1,3-ジクロロプロペン		<0.002mg/L	0.02mg/L
チウラム		<0.006mg/L	0.06mg/L
シマジン		<0.003mg/L	0.03mg/L
チオベンカルブ		<0.02mg/L	0.2mg/L
ベンゼン		<0.002mg/L	0.1mg/L
セレン		<0.005~0.006mg/L	0.1mg/L
フェノール類		<0.025~0.027mg/L	5mg/L
銅		<0.02mg/L	3mg/L
亜鉛		<0.05~0.09mg/L	2mg/L
溶解性鉄		<0.02~0.12mg/L	10mg/L
溶解性マンガン		0.24~0.48mg/L	10mg/L
全クロム		<0.02mg/L	2mg/L
陰イオン界面活性剤		<0.01~0.21mg/L	-
有機燐		<0.05mg/L	1mg/L
ほう素		15~23mg/L	230mg/L
ふっ素	9.1~10mg/L	15mg/L	
アンモニア等 ^{※1}	0.4~6.9mg/L	100mg/L	
1,4-ジオキサン	<0.005mg/L	10mg/L	
ダイオキシン類	0.14~0.52pg-TEQ/L	10pg-TEQ/L	

※1 「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物」を示す。

表 3-1-4 護岸外周監視点 (19~21) における水質 (健康項目) の調査結果 (上層)

項目	測定 頻度	護岸外周監視点			環境基準値
		19	20	21	
カドミウム	年 4 回	<0.0003mg/L			0.003mg/L 以下
全シアン		<0.1mg/L			検出されないこと。
鉛		<0.002mg/L			0.01mg/L 以下
六価クロム		<0.01mg/L			0.05mg/L 以下
砒素		0.001~0.003mg/L			0.01mg/L 以下
総水銀		<0.0005mg/L			0.0005mg/L 以下
アルキル水銀		<0.0005mg/L			検出されないこと。
P C B		<0.0005mg/L			検出されないこと。
ジクロロメタン		<0.002mg/L			0.02mg/L 以下
四塩化炭素		<0.0002mg/L			0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン		<0.0004mg/L			0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン		<0.002mg/L			0.1mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン		<0.004mg/L			0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン		<0.0005mg/L			1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006mg/L			0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン		<0.002mg/L			0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン		<0.0005mg/L			0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン		<0.0002mg/L			0.002mg/L 以下
チウラム		<0.0006mg/L			0.006mg/L 以下
シマジン		<0.0003mg/L			0.003mg/L 以下
チオベンカルブ		<0.002mg/L			0.02mg/L 以下
ベンゼン		<0.001mg/L			0.01mg/L 以下
セレン		<0.002mg/L			0.01mg/L 以下
フェノール類		<0.005mg/L			(0.01mg/L 以下) ※1
銅		<0.005mg/L			(0.02mg/L 以下) ※1
亜鉛		<0.001~0.004mg/L			(0.1mg/L 以下) ※1
溶解性鉄		<0.08mg/L			(0.5mg/L 以下) ※1
溶解性マンガン		<0.01~0.02mg/L			—
全クロム		<0.03mg/L			(1.0mg/L 以下) ※1
陰イオン界面活性剤		<0.01mg/L			(0.1mg/L 以下) ※1
有機燐		<0.1mg/L			—
ほう素		2.5~3.9 mg/L			—
ふっ素	0.8~1.3 mg/L			—	
アンモニア等※2	<0.09~0.5mg/L			—	
1,4-ジオキサン	<0.005mg/L			0.05mg/L 以下	
塩化ビニルモノマー	<0.0002mg/L			0.002mg/L 以下	
1,2-ジクロロエチレン	<0.004mg/L			0.04mg/L 以下	
ダイオキシン類	年 1 回	0.030 pg-TEQ/L	0.034 pg-TEQ/L	0.030 pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L 以下

※1 () の数値は、環境保全目標値を示す

※2 「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物」を示す。

表 3-1-5 護岸外周監視点（19～21）における水質の T-P の調査結果

(mg/L)

測定年月	護岸外周監視点				大阪府所管監視点		環境基準値
	19	20	21	平均	B-3	C-3	
平成 28 年 5 月	0.041	0.038	0.085	0.055	0.046	0.069	0.05 以下
	0.038	0.037	0.050	0.042	0.035	0.053	
平成 28 年 8 月	0.073	0.071	0.066	0.070	0.057	0.11	
	0.045	0.046	0.14	0.077	0.059	0.15	
平成 28 年 11 月	0.040	0.048	0.060	0.049	0.045	0.061	
	0.043	0.048	0.068	0.053	0.036	0.045	
平成 29 年 2 月	0.047	0.042	0.038	0.042	0.035	0.063	
	0.037	0.040	0.047	0.041	0.033	0.048	

(上段：上層、下段：下層)

(参考) 平成 22~27 年度の監視結果

(mg/L)

測定年月	護岸外周監視点				大阪府所管監視点		環境基準値
	19	20	21	平均	B-3	C-3	
平成 22 年 5 月	0.032	0.023	0.057	0.037	0.017	0.079	0.05 以下
	0.064	0.031	0.067	0.044	0.028	0.027	
平成 22 年 8 月	0.46	0.21	0.15	0.27	0.063	0.11	
	0.10	0.13	0.20	0.14	0.039	0.066	
平成 22 年 11 月	0.040	0.042	0.15	0.077	0.037	0.067	
	0.038	0.039	0.046	0.041	0.028	0.037	
平成 23 年 2 月	0.054	0.044	0.049	0.049	0.041	0.063	
	0.035	0.031	0.040	0.035	0.025	0.032	
平成 23 年 5 月	0.024	0.023	0.028	0.025	0.036	0.071	
	0.020	0.035	0.022	0.026	0.028	0.032	
平成 23 年 8 月	0.083	0.046	0.051	0.060	0.038	0.091	
	0.050	0.058	0.092	0.067	0.11	0.12	
平成 23 年 11 月	0.068	0.044	0.042	0.051	0.043	0.069	
	0.048	0.043	0.042	0.044	0.043	0.044	
平成 24 年 2 月	0.013	0.017	0.033	0.021	0.031	0.075	
	0.017	0.015	0.033	0.022	0.031	0.038	
平成 24 年 5 月	0.047	0.040	0.043	0.043	0.049	0.055	
	0.027	0.034	0.029	0.030	0.029	0.041	
平成 24 年 8 月	0.097	0.075	0.110	0.094	0.11	0.14	
	0.092	0.084	0.097	0.091	0.056	0.11	
平成 24 年 11 月	0.032	0.038	0.033	0.034	0.035	0.055	
	0.027	0.028	0.030	0.028	0.032	0.040	
平成 25 年 2 月	0.025	0.025	0.037	0.029	0.034	0.051	
	0.049	0.027	0.026	0.034	0.031	0.034	
平成 25 年 5 月	0.059	0.052	0.086	0.066	0.04	0.065	
	0.031	0.036	0.060	0.042	0.021	0.033	
平成 25 年 8 月	0.13	0.10	0.052	0.09	0.053	0.12	
	0.043	0.13	0.065	0.079	0.038	0.11	
平成 25 年 11 月	0.047	0.049	0.065	0.054	0.045	0.066	
	0.042	0.038	0.039	0.040	0.043	0.054	
平成 26 年 2 月	0.043	0.032	0.024	0.033	0.039	0.069	
	0.037	0.036	0.030	0.034	0.026	0.028	
平成 26 年 5 月	0.027	0.037	0.049	0.038	0.038	0.074	
	0.023	0.035	0.031	0.030	0.023	0.030	
平成 26 年 8 月	0.051	0.055	0.082	0.063	0.10	0.11	
	0.051	0.037	0.11	0.066	0.055	0.069	
平成 26 年 11 月	0.040	0.036	0.056	0.044	0.033	0.064	
	0.034	0.032	0.055	0.040	0.028	0.037	
平成 27 年 2 月	0.029	0.023	0.060	0.037	0.030	0.071	
	0.024	0.023	0.031	0.026	0.028	0.024	
平成 27 年 5 月	0.062	0.049	0.075	0.062	0.042	0.095	
	0.025	0.025	0.041	0.030	0.032	0.041	
平成 27 年 8 月	0.047	0.053	0.07	0.057	0.059	0.10	
	0.091	0.088	0.10	0.093	0.048	0.089	
平成 27 年 11 月	0.040	0.047	0.059	0.049	0.034	0.074	
	0.032	0.034	0.044	0.037	0.034	0.036	
平成 28 年 2 月	0.038	0.041	0.051	0.043	0.044	0.057	
	0.032	0.031	0.052	0.038	0.028	0.041	

(上段：上層、下段：下層)

表 3-1-6 監視点 (1~5) における水質 (自主調査項目) の調査結果

【調査日：平成 28 年 8 月 9 日】

(mg/L)

調査点 項目	1	2	3	4	5	環境基準値
ノニルフェノール	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	<0.00006	0.001 以下
	定量下限値 0.00006					
直鎖アルキルベンゼンスルホン 酸及びその塩 (LAS)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.01 以下
	定量下限値 0.0006					

(2) 底質

環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-1-7 環境監視結果の概要及び評価（底質）

地点	監視結果の概要	評価
監視点 (2~5)	○ 監視点(2~5)の調査結果と周辺の大阪府調査結果を表 3-1-8 に示す。	○ 全ての項目について、周辺海域での大阪府の調査結果と比較すると同程度であり、特に問題ないと考えられる。
監視点 (15)	○ 監視点(15)の調査結果と周辺の大阪府調査結果を表 3-1-8 に示す。	○ 全ての項目について、周辺海域での大阪府の調査結果と比較すると同程度であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-1-8 底質調査結果の概要（年 2 回調査）

項目	監視点 (2~5)	監視点 (15)	大阪府所管監視点 (B-3)
	最小値～最大値 (平均値)	最小値～最大値 (平均値)	最小値～最大値 (平均値)
COD(mg/g 乾泥)	29~35 (32)	32~34 (33)	37~39 (38)
含水率 (%)	67.3~70.7 (69.2)	70.6~70.8 (70.7)	71 (71)
強熱減量 (%)	9.0~9.8 (9.4)	9.0~9.8 (9.4)	9.7~9.8 (9.8)
硫化物(mg/g 乾泥)	0.20~0.40 (0.27)	0.30~0.60 (0.45)	0.31~0.45 (0.38)
T-N(mg/kg 乾泥)	2.3~3.1 (2.8)	2.8~3.1 (3.0)	3.1 (3.1)
T-P(mg/kg 乾泥)	0.62~0.70 (0.65)	0.64~0.68 (0.66)	0.68 (0.68)

(3) 大気質

大気質の環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-1-9 環境監視結果の概要及び評価 (大気質)

地点	監視結果の概要	評価
南港中央公園	<ul style="list-style-type: none"> ○ 測定地点における SO₂、NO₂、SPM の測定結果を表 3-1-10 に示す。 ○ SO₂濃度の日平均値の年間 2%除外値は 0.009ppm であり、環境基準を満足していた (環境基準値 0.04ppm)。 ○ NO₂濃度の日平均値の年間 98%値は 0.044ppm であり、環境基準を満足していた (環境基準値 0.04~0.06ppm)。 ○ SPM 濃度の日平均値の年間 2%除外値は 0.048mg/m³であり、環境基準を満足していた (環境基準値 0.10mg/m³)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SO₂、NO₂及び SPM の各項目とも環境基準を満足しており、特に問題ないと考えられる。

表 3-1-10 大気質調査結果

調査期間	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)	
	月平均値	日平均値の最大値	月平均値	日平均値の最大値	月平均値	日平均値の最大値
平成 28年 4月	0.006	0.011	0.026	0.040	0.027	0.060
5月	0.006	0.012	0.024	0.044	0.038	0.079
6月	0.005	0.007	0.023	0.048	0.028	0.041
7月	0.005	0.008	0.018	0.028	0.032	0.046
8月	0.004	0.006	0.016	0.025	0.030	0.050
9月	0.004	0.007	0.020	0.029	0.024	0.037
10月	0.004	0.006	0.021	0.037	0.023	0.040
11月	0.003	0.004	0.026	0.038	0.019	0.035
12月	0.003	0.007	0.026	0.051	0.016	0.038
平成 29年 1月	0.003	0.007	0.022	0.047	0.015	0.026
2月	0.003	0.007	0.025	0.048	0.015	0.036
3月	0.003	0.008	0.026	0.043	0.020	0.044
年間平均値	0.004		0.023		0.024	
日平均値の年間 98% 値 (又は年間 2% 除外値)	0.009		0.044		0.048	
環境基準達成状況	○		○		○	

(4) 騒音・低周波音

騒音・低周波音の環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-1-11 環境監視結果の概要及び評価 (騒音・低周波音)

地点	監視結果の概要	評価
大阪南港野鳥園	<ul style="list-style-type: none"> ○ 測定地点における騒音・低周波音調査結果の概要を表 3-1-12 に示す。 ○ 騒音レベル(L_{Aeq})は4月が46デシベル、10月が47デシベルであり、環境基準値(60デシベル)以下であった。 ○ 低周波音圧レベル(L_{50})は、4月、10月ともに70デシベルであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騒音レベル(L_{Aeq})については、環境基準値以下であり、特に問題ないと考えられる。 ○ 低周波音圧レベル(L_{50})については、一般環境における通常のレベルであり、特に問題ないと考えられる。

表 3-1-12 騒音・低周波音調査結果の概要

地点	用途地域	地域区分	騒音レベル(L_{Aeq}) (デシベル)			低周波音圧レベル (L_{50}) (デシベル)	
			4月	10月	環境基準値 (昼間)	4月	10月
大阪南港野鳥園	準工	C 類型	46	47	60 以下	70	70

※昼間の主要音源は、港湾作業であった。

(注) 騒音レベルは昼間 (6:00~22:00)、低周波音圧レベルは 9:00~18:00 の値である。

(5) 悪臭

悪臭の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-1-13 環境監視結果の概要及び評価（悪臭）

地点	監視結果の概要	評価
大阪南港野鳥園	<p>○ 測定地点における悪臭の調査結果の概要を表 3-1-14、表 3-1-15 に示す。</p> <p>○ 8月及び9月の調査ともに、臭気指数は<10、臭気強度は1（臭質：弱草臭）であった。</p> <p>また、特定悪臭物質はアンモニア、アセトアルデヒド及びプロピオン酸でわずかに検出されたが、それ以外の項目は定量下限値未満であった。</p>	<p>○ 臭気指数及び特定悪臭物質濃度について、規制基準値を下回っており、特に問題ないと考えられる。</p>

表 3-1-14 悪臭調査結果の概要（臭気指数・臭気強度）

地点名	調査月	臭気指数	臭気指数 規制基準値	臭気強度	臭質	規制基準値に相当する臭気強度 [参考]
大阪南港野鳥園	8月	<10	10	1	弱草臭	2.5
	9月	<10		1	弱草臭	

- (注)・「臭気指数規制基準値」は、悪臭防止法に基づく敷地境界線における規制基準値の下限値である。
- ・「規制基準値に相当する臭気強度」は、悪臭防止法に基づく規制基準値に相当する臭気強度の範囲の下限値（最も厳しい値）である。

表 3-1-15 悪臭調査結果の概要（特定悪臭物質濃度）

（単位：ppm）

項目	測定結果		〔参考〕 規制基準値
	8月	9月	
アンモニア	0.2	<0.1	1
メチルメルカプタン	<0.0005	<0.0005	0.002
硫化水素	<0.001	<0.001	0.02
硫化メチル	<0.001	<0.001	0.01
二硫化メチル	<0.001	<0.001	0.009
トリメチルアミン	<0.001	<0.001	0.005
アセトアルデヒド	0.005	<0.005	0.05
プロピオンアルデヒド	<0.005	<0.005	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	<0.0009	<0.0009	0.009
イソブチルアルデヒド	<0.002	<0.002	0.02
ノルマルバレルアルデヒド	<0.0009	<0.0009	0.009
イソバレルアルデヒド	<0.0003	<0.0003	0.003
イソブタノール	<0.09	<0.09	0.9
酢酸エチル	<0.3	<0.3	3
メチルイソブチルケトン	<0.1	<0.1	1
トルエン	<1	<1	10
スチレン	<0.04	<0.04	0.4
キシレン	<0.1	<0.1	1
プロピオン酸	0.0008	<0.0004	0.03
ノルマル酪酸	<0.0004	<0.0004	0.001
ノルマル吉草酸	<0.0004	<0.0004	0.0009
イソ吉草酸	<0.0004	<0.0004	0.001

（注）「規制基準値」は、悪臭防止法に基づく敷地境界線における規制基準値の下限値である。

3-2 泉大津沖処分場及び泉大津基地

3-2-1 環境監視の実施状況

泉大津沖処分場及び泉大津基地における平成 28 年度の環境監視の実施状況の概要を表 3-2-1 に示す。また、泉大津沖処分場の仮防波堤の建設に伴う環境監視については、表 3-2-2 のとおり実施された。それぞれの環境監視点位置図を図 3-2-1 及び図 3-2-2 に示す。

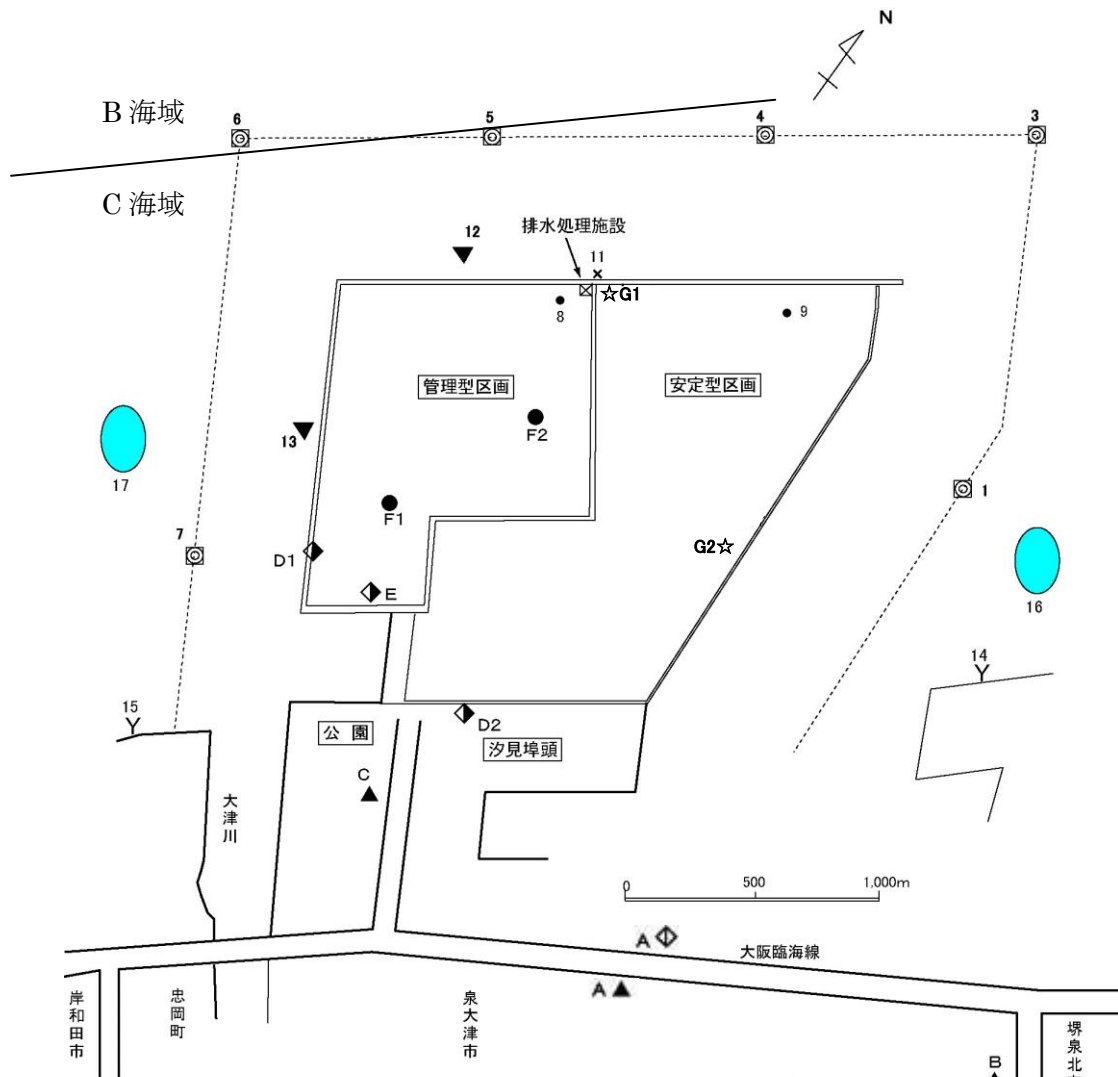
表 3-2-1 泉大津沖処分場及び泉大津基地における環境監視の実施状況の概要

項目	調査頻度	調査地点数	調査項目
水質	項目により連続測定、 1回/週、 1回/月、 4回/年、 2回/年、 1回/年(注)	11	濁度、COD等生活環境項目 14項目 Cd等健康項目 31項目 フェノール類等特殊項目 6項目 ダイオキシン類 1項目
	1回/年(注)	8	ノニルフェノール、LAS 2項目
底質	2回/年 (8、2月)	6	含水率等一般項目 8項目 Cd等健康項目 14項目
海生生物	4回/年 (5、8、11、2月)	6	プランクトン類等 4項目
		2	付着生物 1項目
		2	漁業生物 1項目
交通量	4回/年 (5、8、11、2月)	3	総交通量(大型車、大型車以外) 1項目 廃棄物輸送車数(大型車、大型車以外) 1項目
騒音・振動	2回/年 (5、11月)	2	騒音レベル、振動レベル 2項目
大気質	4回/年 (5、8、11、2月)	2	NO、NO ₂ 、SPM、SO ₂ 4項目
悪臭	2回/年(6、8月) 1回/年(8月)	2	臭気濃度、臭気指数、臭気強度 3項目
		1	悪臭物質 22項目
発生ガス	2回/年(8、2月)	2	メタン濃度 1項目
アスベスト	4回/年 (5、9、11、2月)	2	大気中アスベスト濃度 1項目

- (注) ・水質調査頻度は調査項目により異なる。
 ・4回/年の調査は、5月、8月、11月、2月に実施
 ・2回/年の調査は、8月、2月に実施
 ・1回/年の調査は、8月に実施

表 3-2-2 泉大津沖処分場における特別監視の実施状況の概要

項目	監視点	監視項目	監視頻度	採水層
水質	仮防波堤の近傍2点 (両側 50m)	濁度, SS, COD, FSS	毎月1回 1回/日	中層 (海面下 3m)



凡 例	
◎	水質基本監視点
□	底質、海生生物(付着生物及び漁業生物を除く)
●	付着生物基本監視点
●	水質補助監視点(内水)
×	排水処理施設
×	放流水監視点(放流口に設定)
◇	悪臭、悪臭物質監視点
●	発生ガス監視点
▼	水質補助監視点(護岸から30m)
●	漁業生物監視点
▲	交通総量・廃棄物車数、騒音・振動監視点 (但し、Cは交通総量・廃棄物車数監視のみ)
◇	大気監視点
☆	アスベスト監視点

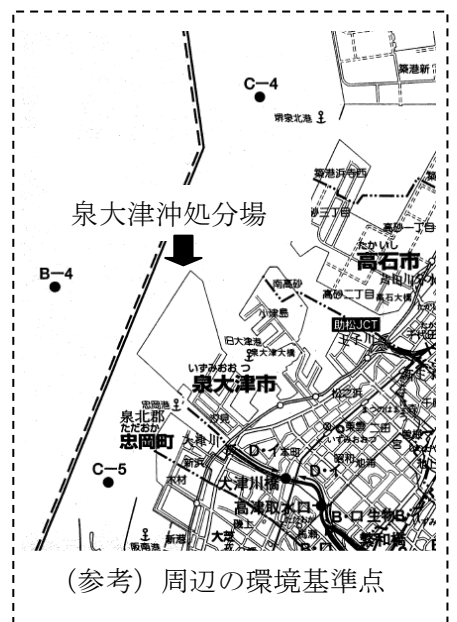


図 3-2-1 環境監視点位置図

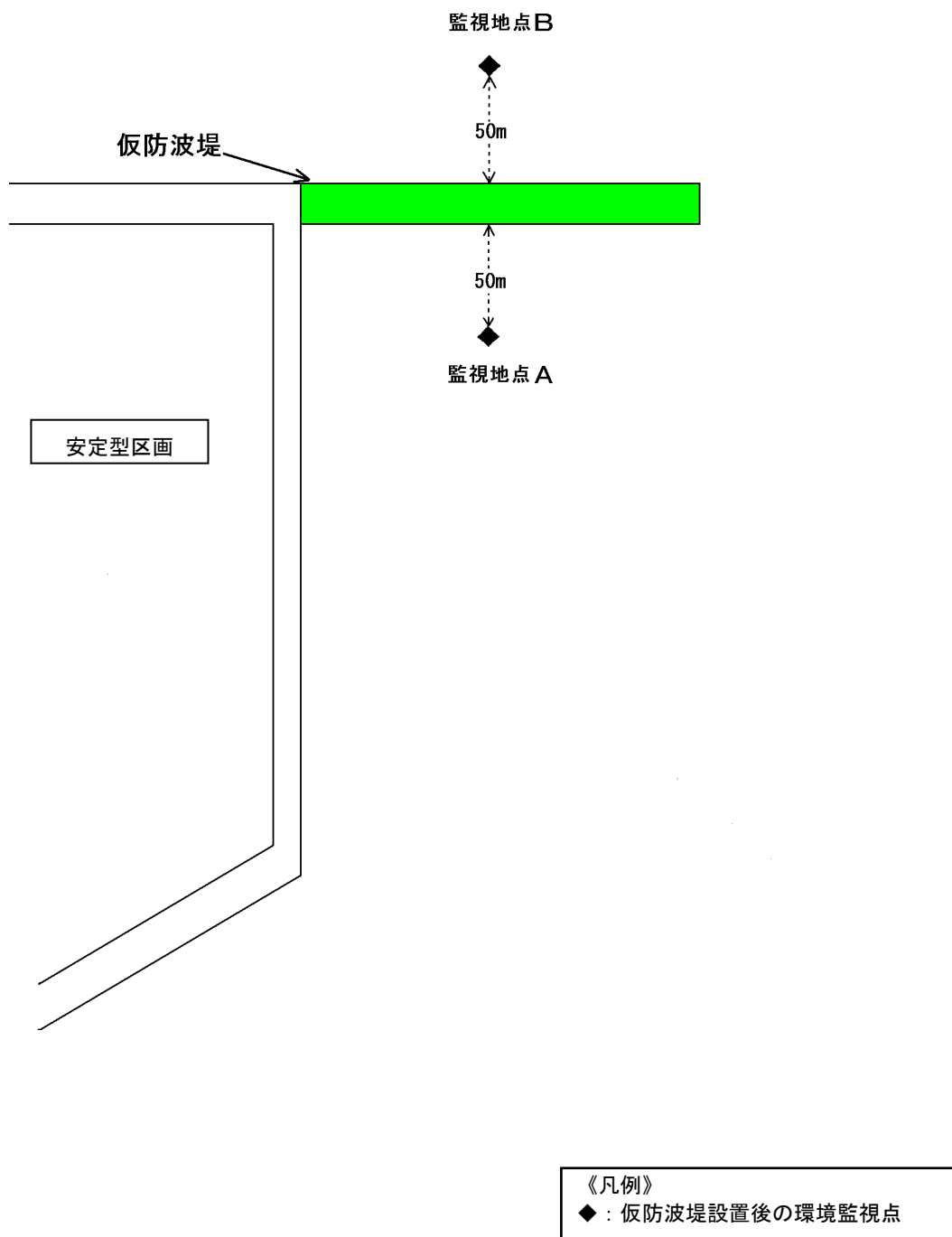


図 3-2-2 水質特別監視点位置図

3-2-2 環境監視結果

(1) 水質

ア) 監視基準

埋立処分場近傍海域の水質（濁り）の監視基準は、表 3-2-3 のとおり基本監視点（6 点）の FSS（不揮発性浮遊物質）について設定している。また、管理の目安値として濁度を基本監視点において設定している。

表 3-2-3 埋立処分場近傍海域の水質（濁り）の監視基準

区分	対象地点	項目	表層 (海面下 1m)	底層 (海底から 2m)
監視基準	基本監視点	F S S	5mg/L 以下	7mg/L 以下
管理の 目安値	基本監視点	濁度	11 度以下	9 度以下

※監視基準（管理の目安値）の取り扱い

監視基準（管理の目安値）を超えたときは、直ちに補足調査等を実施し、原因の究明を行う。

イ) 環境監視結果の評価

環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-4 環境監視結果の概要及び評価 (水質)

	監視結果の概要	評価
基本監視点 (St. 1・3・7)	<ul style="list-style-type: none"> ○ FSS の経月変化を図 3-2-3 に示す。 表層では$1\sim 4$ mg/L、底層では$1\sim 6$ mg/L の範囲にあり、いずれも監視基準値(表層 5mg/L、底層 7mg/L)以下であった。 ○ 濁度の経月変化を図 3-2-4 に示す。 表層では$1\sim 4$ 度、底層では$1\sim 6$ 度の範囲にあり、いずれも管理の目安値(表層 11 度、底層 9 度)以下であった。 ○ COD(表層)の経月変化を図 3-2-5(B 海域)及び図 3-2-7 (C 海域) に示す。 B 海域に位置する St. 6 では、7 月、9 月に環境基準値 (3mg/L) を超えた。なお、大阪府による周辺海域 (B 海域) での調査結果を図 3-2-6 に示す。 C 海域に位置する他の監視点では、環境基準値 (8mg/L) 以下であった。なお、大阪府による周辺海域 (C 海域) での調査結果を図 3-2-8 に示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ FSS の結果は全て監視基準値以下であったことから、特に問題ないと考えられる。 ○ 濁度の結果は全て管理の目安値以下であったことから、特に問題ないと考えられる。 ○ COD については、7 月、9 月に St. 6 で環境基準を超過したが、周辺海域での調査結果と概ね同様の傾向を示しており、特に問題ないと考えられる。

	監視結果の概要	評価
安定型区画内水 (St. 9)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安定型区画内水の FSS の経年変化を表 3-2-5 に示す。 平成 20 年度を除くと最大でも 10 mg/L 以下であり、平成 28 年度については 1～3 mg/L の範囲であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 28 年度における安定型区画内水の FSS は、過年度とほぼ同程度であり、特に問題ないと考えられる。
管理型区画内水 (St. 8) 及び放流水 (St. 11)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 排水処理施設からの放流水の監視結果を表 3-2-6 に示す。すべての項目について放流水の管理基準値を満足していた。 ○ 管理型区画内水及び排水処理施設からの放流水の COD の経月変化を図 3-2-9 に示す。放流水の COD 濃度は管理基準値以下で推移している。 ○ 排水処理施設からの放流水の SS の経年変化を表 3-2-9 に示す。平成 28 年度は過年度とほぼ同程度であった。 ○ 管理型区画内水の DO 及び pH 並びに内水と放流水の COD 及び T-N の経年変化を図 3-2-10 に示す。放流水の COD 濃度及び T-N 濃度は管理基準値以下で推移している。 ○ 管理型区画内水及び放流水のダイオキシン類濃度の経年変化を図 3-2-11 に示す。放流水のダイオキシン類濃度は管理基準値以下で推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 排水処理施設からの放流水は、すべての項目について管理基準値を満足しており、特に問題ないと考えられる。 ○ 管理型区画放流水の COD 濃度及び T-N 濃度は管理基準値以下であり、特に問題ないと考えられる。 ○ 管理型区画放流水のダイオキシン類濃度は管理基準値以下であり、特に問題ないと考えられる。

	監視結果の概要	評価
補助監視点 (St. 12・13)	<p>○ 管理型区画護岸近傍での健康項目の監視結果を表 3-2-10 に示す。</p>	<p>○ 管理型区画護岸近傍での健康項目の監視結果は環境基準値以下であり、特に問題ないと考えられる。</p>
水質特別監視点	<p>○ 仮防波堤の建設に伴う特別監視結果の概要を表 3-2-11 に示す。 濁度は<1~4度(中層)で、基本監視点(表層)における濁度の管理の目安値(11度)以下であった。</p>	<p>○ 特別監視の測定点での濁度は小さく、特に問題ないと考えられる。</p>
自主調査点 (St. 1・3・7)	<p>○ ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)の自主調査結果の概要を表 3-2-12 に示す。 ノニルフェノールはすべての地点で定量下限値未満、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)は<0.0006~0.0009mg/Lであった。</p>	<p>○ 自主調査の測定点での濃度は小さく、特に問題ないと考えられる。</p>

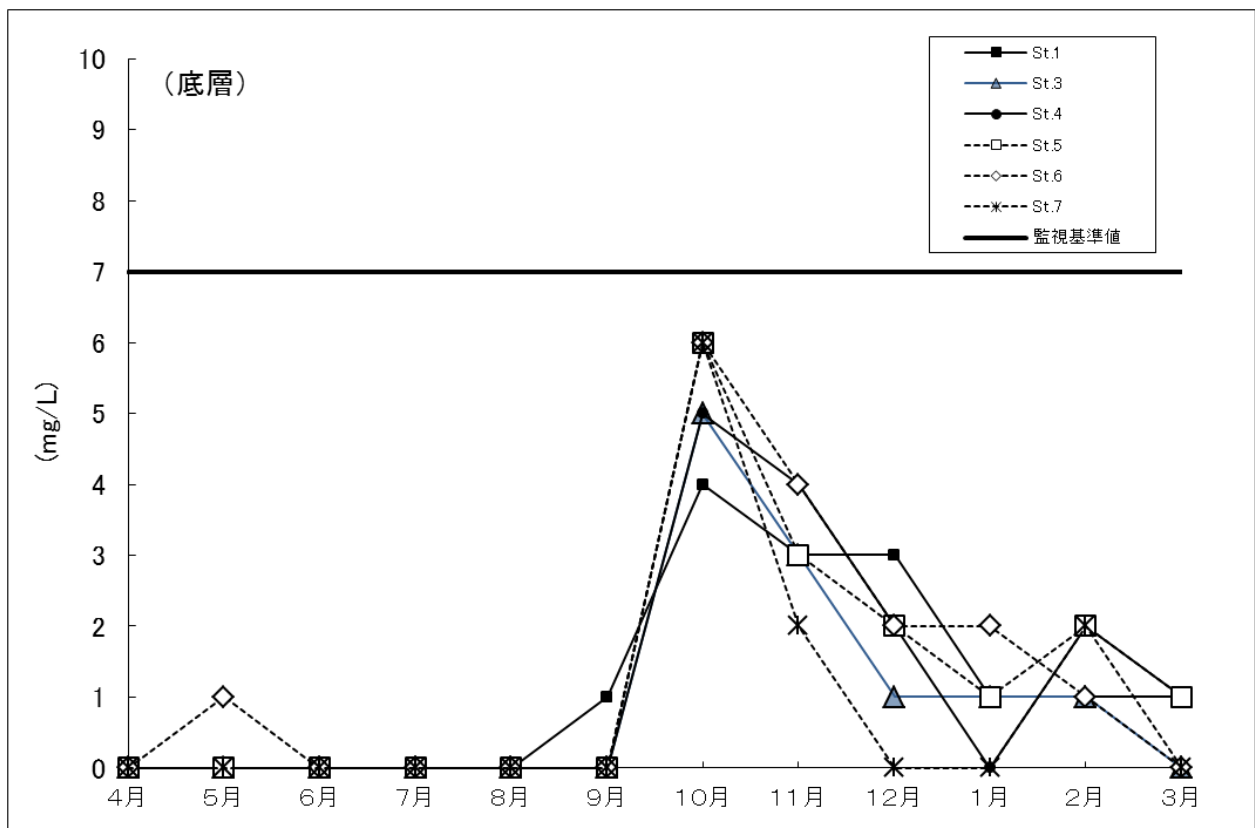
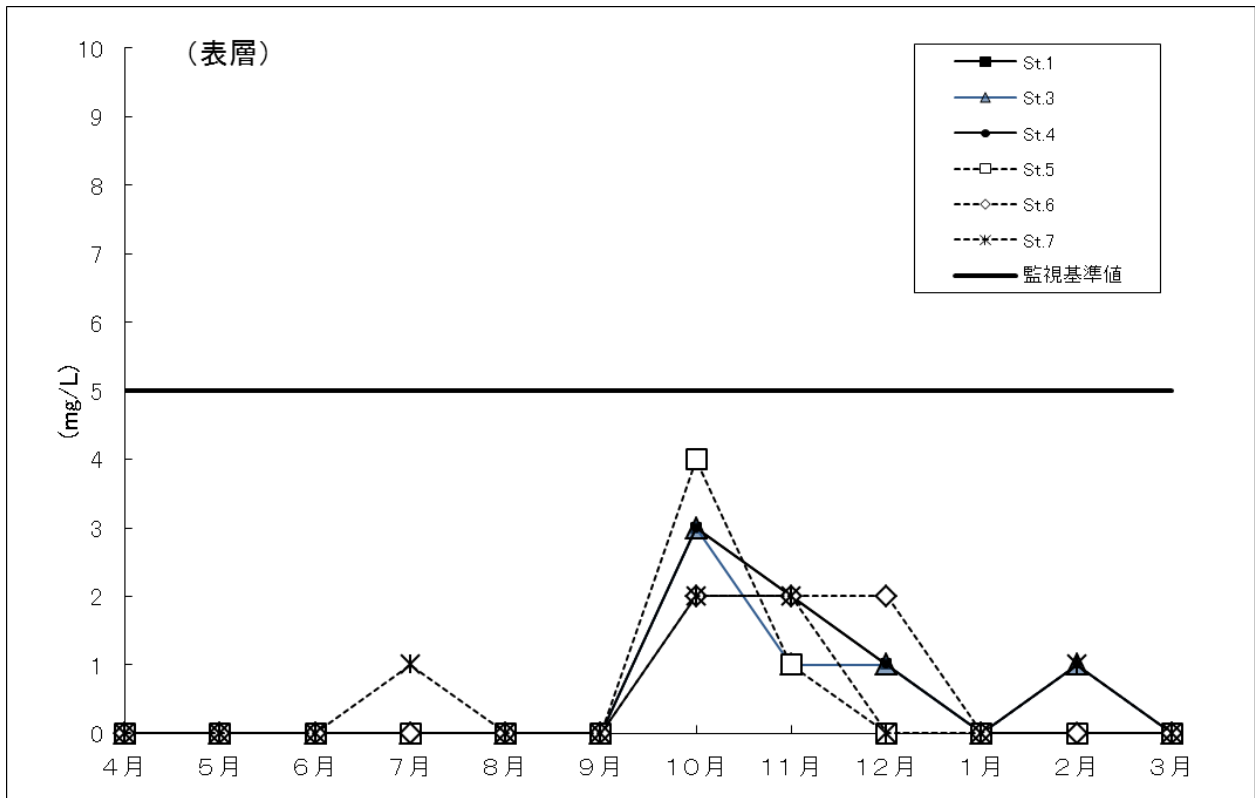


図 3-2-3 基本監視点における FSS の経月変化

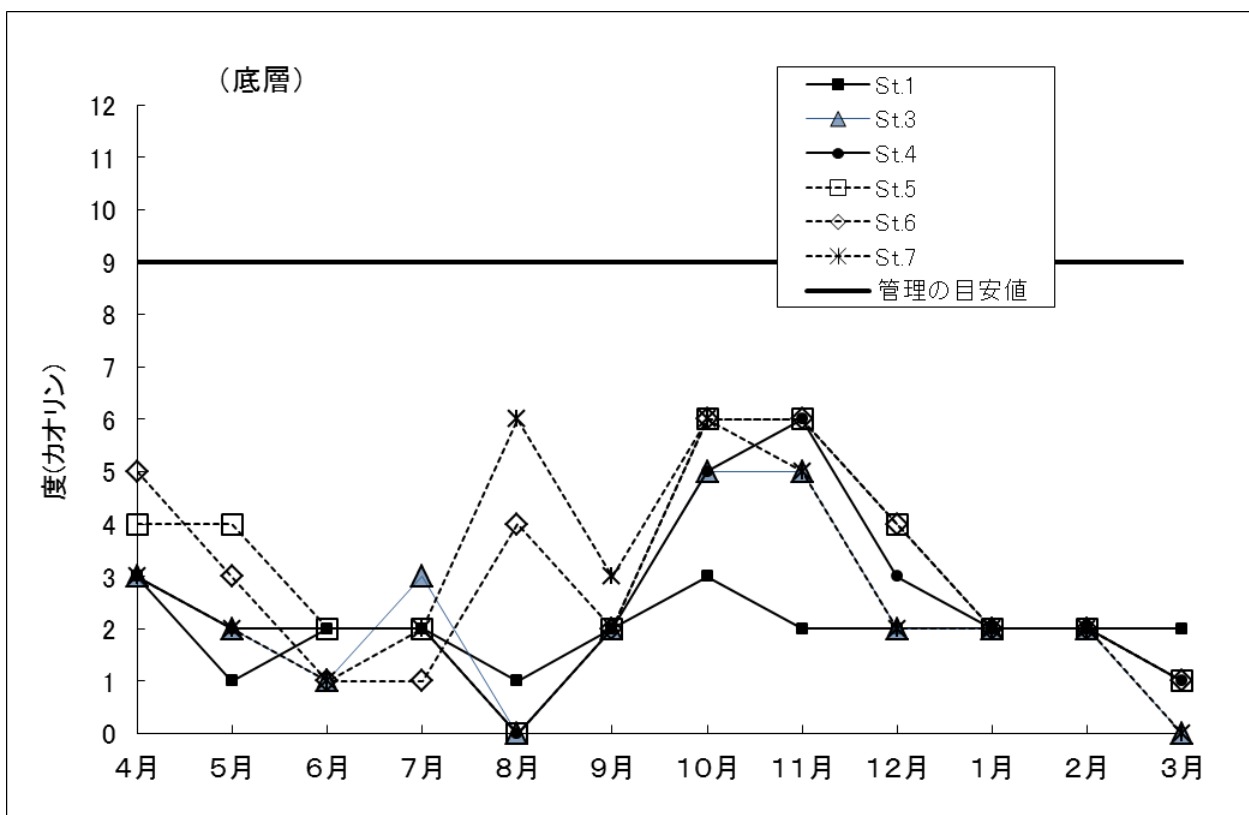
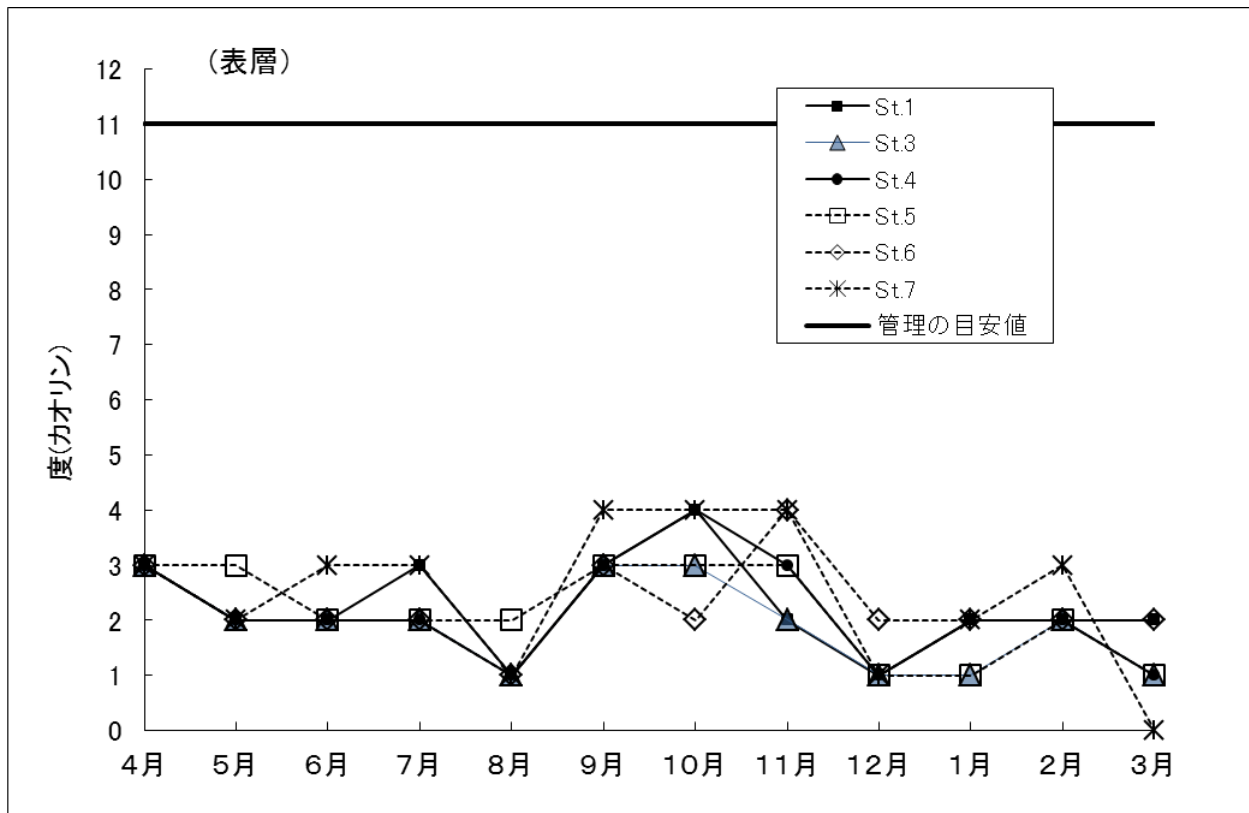


図 3-2-4 基本監視点における濁度の経月変化

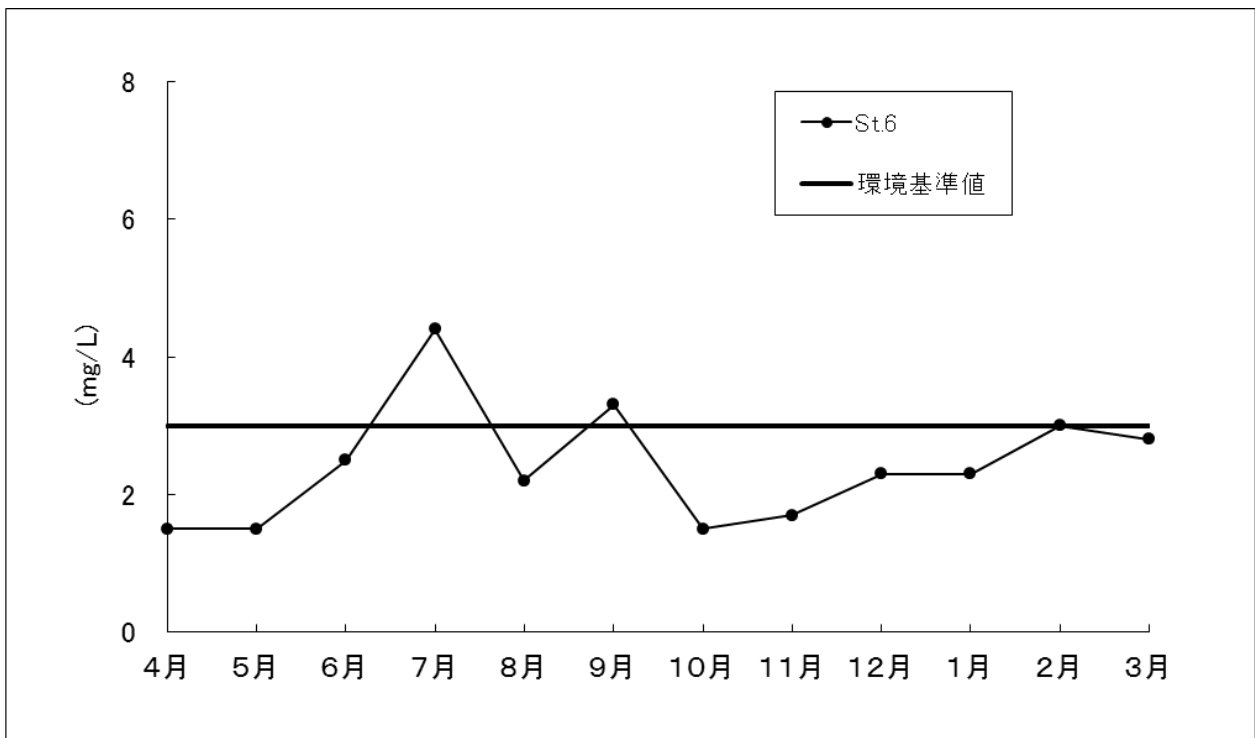


図 3-2-5 COD (表層) の経月変化
 (基本監視点 (B 海域 : 1 点) の月調査結果)

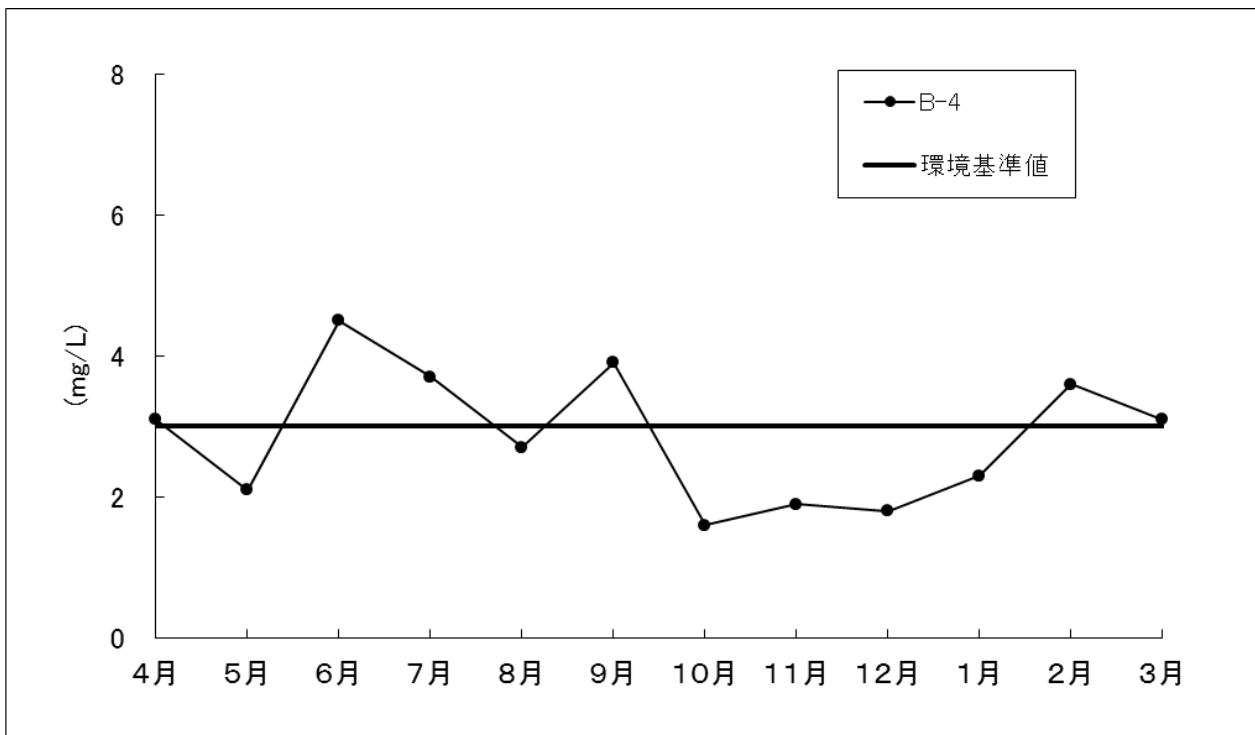


図 3-2-6 COD (表層) の経月変化
 (大阪府による周辺海域 (B 海域 : 1 点) の月調査結果)

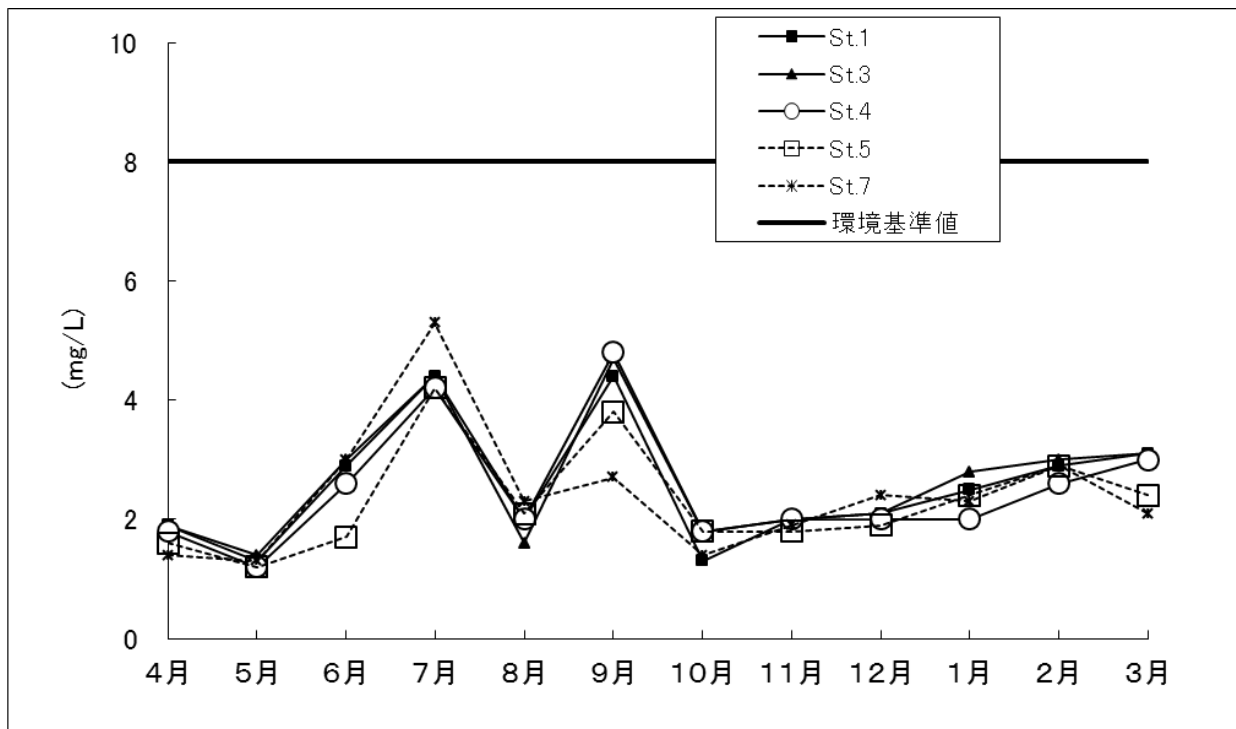


図 3-2-7 COD (表層) の経月変化
(基本監視点 (C海域 : 5 点) の月調査結果)

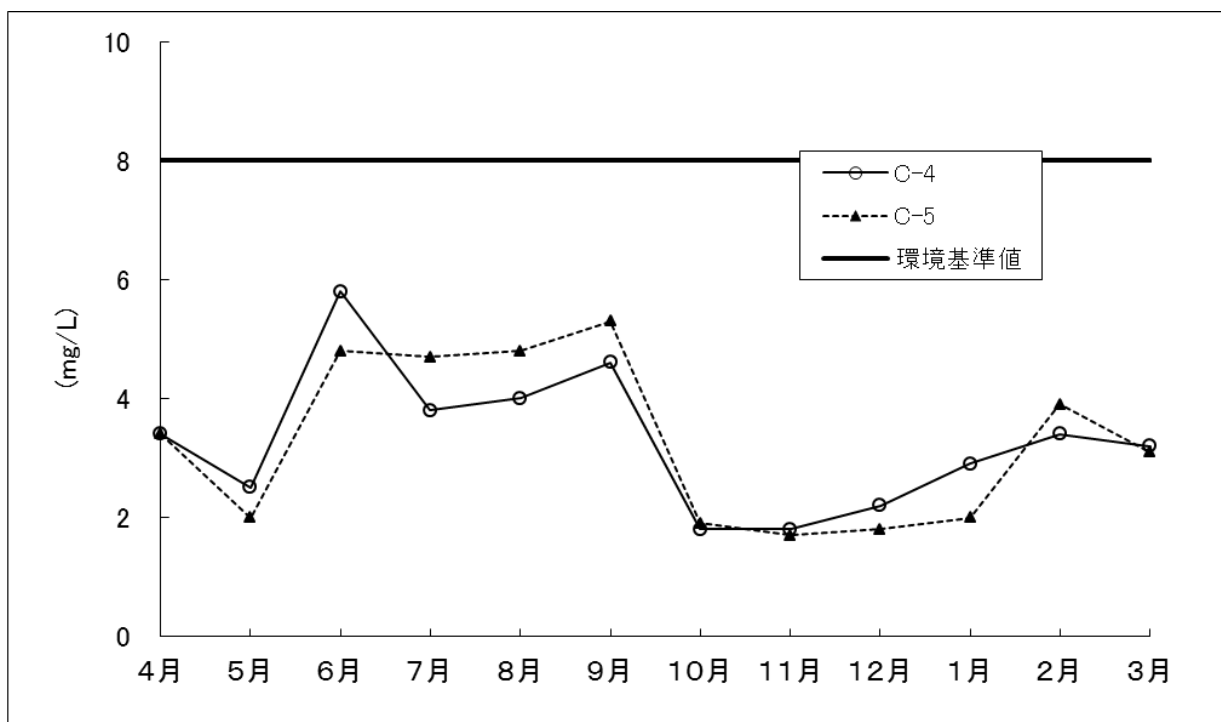


図 3-2-8 COD (表層) の経月変化
(大阪府による周辺海域 (C海域 : 2 点) の月調査結果)

表 3-2-5 安定型区画内水の FSS の経年変化(年 4 回調査結果)

	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
最小値～ 最大値	1～10	6～25	1～6	<1～6	<1～4	<1～5	2～9	<1～2	1～10	<1～3
平均値	4	13	3	3	2	2	6	1	4	2

(注) 採水地点近傍まで埋立が進んだため、平成 21 年 4 月に採水地点を 800m 北東の地点へ変更した。

表 3-2-6 管理型排水処理施設からの放流水質の監視結果

項目		測定頻度	監視結果	管理基準値
水素イオン濃度 (pH)		毎日	7.1~8.0	5.0 以上 9.0 以下
化学的酸素要求量 (COD)		毎日	7.7~18mg/L	60mg/L
浮遊物質 (SS)		週 1 回	<1~5mg/L	50mg/L
n-ヘキサン抽出物質含有量(鉱油類)		年 4 回	<0.5mg/L	5mg/L
n-ヘキサン抽出物質含有量(動植物油類)				30mg/L
大腸菌群数		年 4 回	0~1 個/cm ³	3,000 個/cm ³
窒素含有量(T-N)		月 1 回	14~34mg/L	60mg/L
燐含有量(T-P)		年 4 回	0.033~0.15mg/L	8mg/L
有害物質	カドミウム	年 4 回	<0.005mg/L	0.03mg/L
	全シアン		<0.1mg/L	1mg/L
	有機燐		<0.1mg/L	1mg/L
	鉛		<0.005mg/L	0.1mg/L
	六価クロム		<0.02mg/L	0.5mg/L
	砒素		<0.005mg/L	0.1mg/L
	総水銀		<0.0005mg/L	0.005mg/L
	アルキル水銀		—*	検出されないこと
	P C B		<0.0005mg/L	0.003mg/L
	ジクロロメタン		<0.002mg/L	0.2mg/L
	四塩化炭素		<0.0002mg/L	0.02mg/L
	1,2-ジクロロエタン		<0.0004mg/L	0.04mg/L
	1,1-ジクロロエチレン		<0.002mg/L	1mg/L
	シス-1,2-ジクロロエチレン		<0.004mg/L	0.4mg/L
	1,1,1-トリクロロエタン		<0.0005mg/L	3mg/L
	1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006mg/L	0.06mg/L
	トリクロロエチレン		<0.002mg/L	0.1mg/L
	テトラクロロエチレン		<0.0005mg/L	0.1mg/L
	1,3-ジクロロプロペン		<0.0002mg/L	0.02mg/L
	チウラム		<0.0006mg/L	0.06mg/L
	シマジン		<0.0003mg/L	0.03mg/L
	チオベンカルブ		<0.002mg/L	0.2mg/L
	ベンゼン		<0.001mg/L	0.1mg/L
	セレン		<0.005mg/L	0.1mg/L
	ほう素		0.7~1.0mg/L	230mg/L
	ふっ素		0.9~1.2mg/L	15mg/L
	アンモニア等**	10~12mg/L	1L につきアンモニア性窒素に 0.4 を乗じたもの、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の合計量が 200mg/L	
	1,4-ジオキサン	<0.05mg/L	10mg/L	
	ダイオキシン類***	0.000051~0.00013pg-TEQ/L	10pg-TEQ/L	
特殊項目	フェノール類含有量	<0.01mg/L	5mg/L	
	銅含有量	<0.005~0.008mg/L	3mg/L	
	亜鉛含有量	0.006~0.028mg/L	2mg/L	
	溶解性鉄含有量	0.13~0.22mg/L	10mg/L	
	溶解性マンガン含有量	0.10~0.24mg/L	10mg/L	
	クロム含有量	<0.03mg/L	2mg/L	

(*) アルキル水銀は、総水銀が定量下限値未満であったため、分析していない。

(**) 「アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物」を示す。

(***) ダイオキシン類 10pg-TEQ/L を遵守するため、SS10mg/L を指標値として排水処理施設の運転管理を行う。

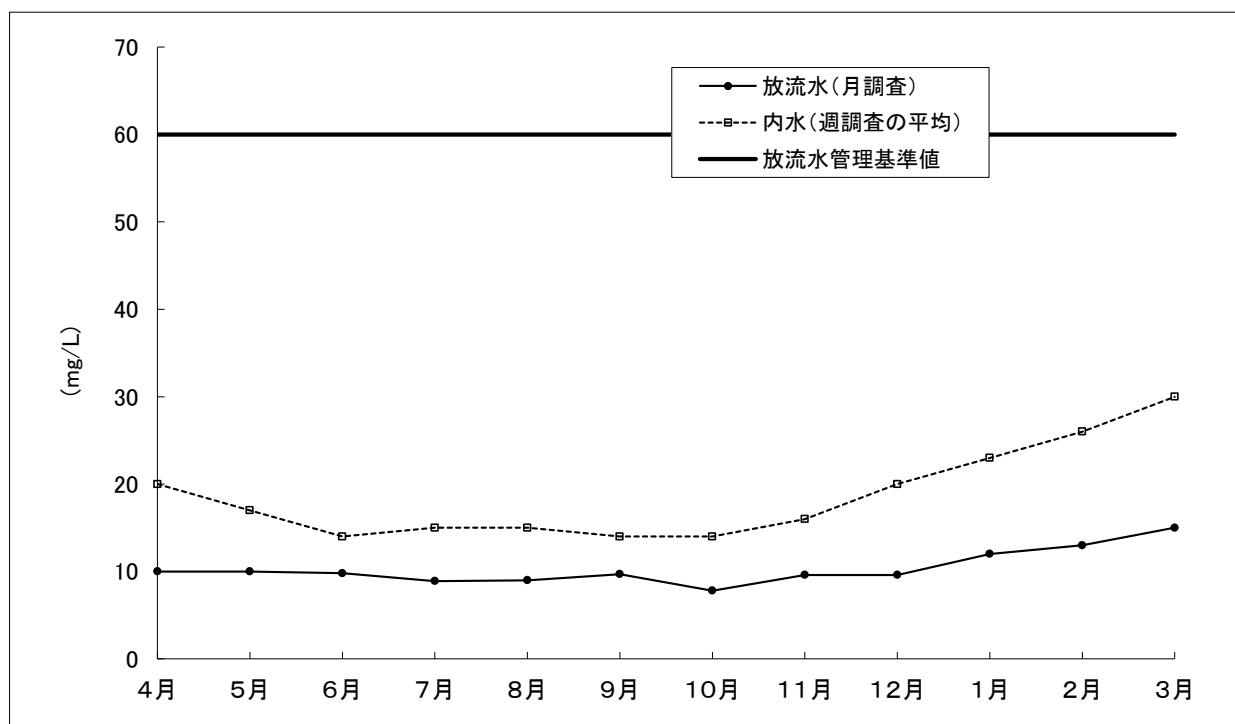


図 3-2-9 管理型区画内水及び放流水 COD の経月変化

表 3-2-7 管理型区画内水 COD の経年変化(週調査結果)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
最小値～ 最大値	44～93	22～79	47～92	55～110	38～110	49～120	22～69	13～34	11～31	12～31
平均値	69	50	73	82	85	79	39	24	19	19

(mg/L)

表 3-2-8 管理型区画放流水 COD の経年変化(日調査結果)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
最小値～ 最大値	16～59	10～57	21～59	22～58	12～56	5～54	15～40	0～40	2～29	8～18
平均値	42	30	40	41	31	32	23	17	13	12

(mg/L)

(注)最大、最小は瞬時値

表 3-2-9 管理型区画放流水 SS の経年変化(週調査結果)

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
最小値～ 最大値	<1～4	<1～6	<1～5	<1～9	1～8	<1～10	<1～8	<1～15	<1～8	<1～5
平均値	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2

(mg/L)

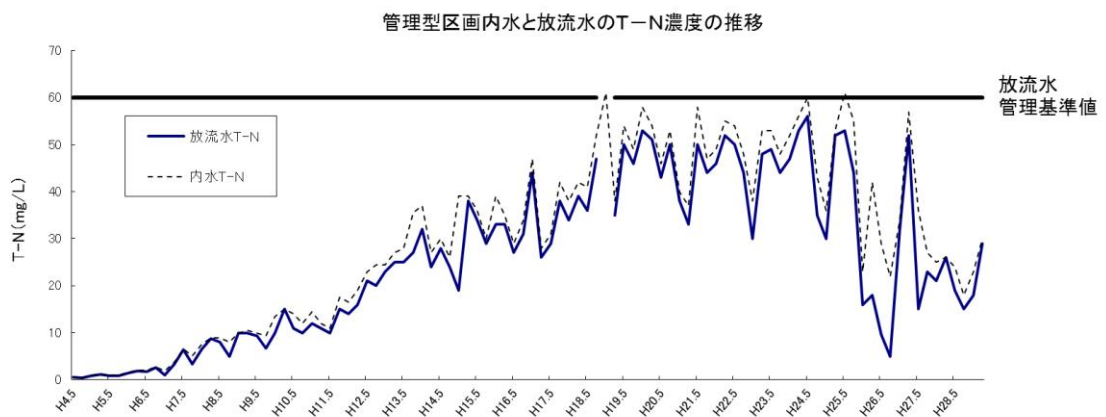
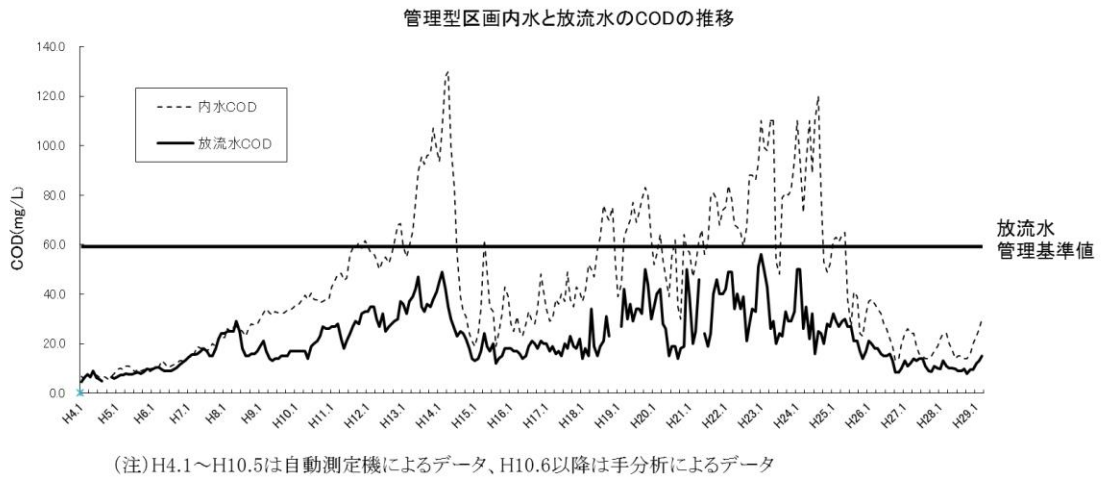
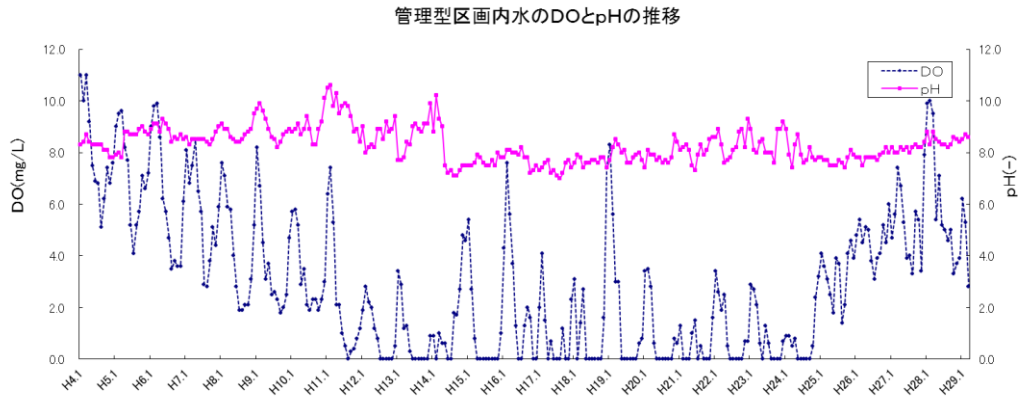
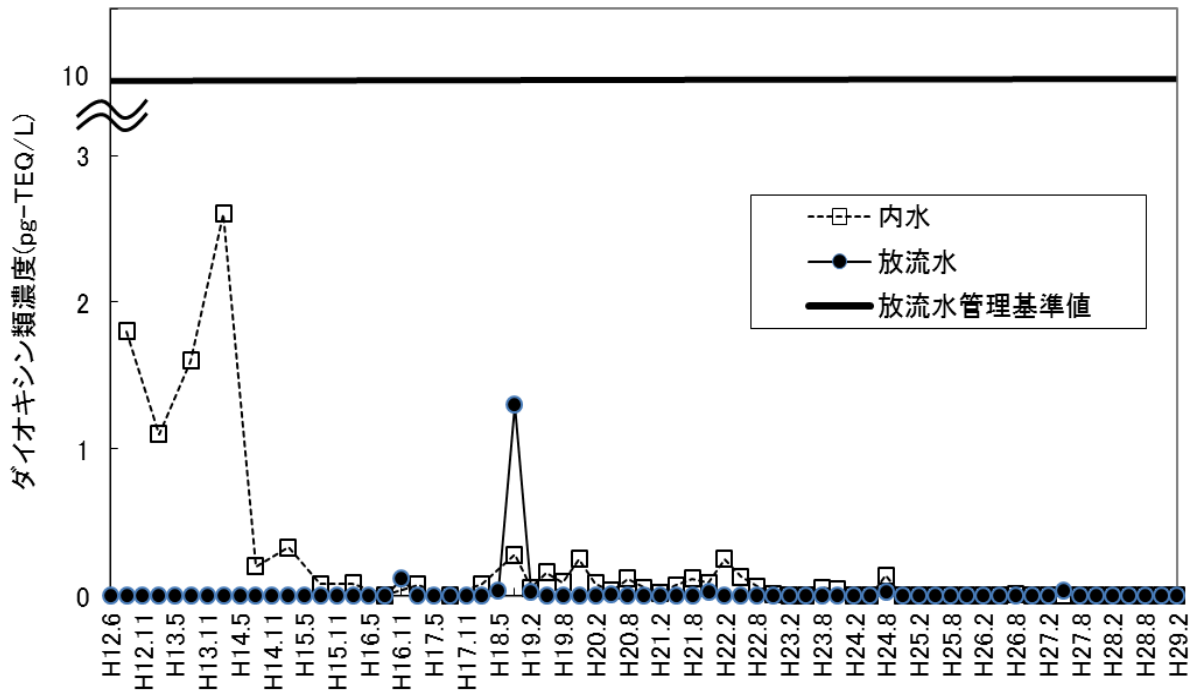


図 3-2-10 管理型区画内水及び放流水の水質の経年変化



調査回数 内水：年2回(平成12年度～18年度)、年4回(平成19年度～)
放流水：年4回

図3-2-11 管理型区画内水及び放流水中のダイオキシン類濃度の推移
(平成12年6月～平成29年2月)

表 3-2-10 補助監視点 (No.12、13) での水質 (健康項目) の監視結果

項目	測定 頻度	監視結果		環境基準値
		No. 12	No. 13	
カドミウム	年 2 回	<0.0003mg/L		0.003mg/L 以下
全シアン		<0.1mg/L		検出されないこと。
鉛		<0.002mg/L		0.01mg/L 以下
六価クロム		<0.01mg/L		0.05mg/L 以下
砒素		0.003～ 0.005mg/L	0.003～ 0.005mg/L	0.01mg/L 以下
総水銀		<0.0005mg/L		0.0005mg/L 以下
アルキル水銀		—※1		検出されないこと。
P C B		<0.0005mg/L		検出されないこと。
ジクロロメタン		<0.002mg/L		0.02mg/L 以下
四塩化炭素		<0.0002mg/L		0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン		<0.0004mg/L		0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン		<0.002mg/L		0.1mg/L 以下
トリス-1,2-ジクロロエチレン		<0.004mg/L		0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン		<0.0005mg/L		1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン		<0.0006mg/L		0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン		<0.002mg/L		0.01mg/L 以下
テトラクロロエチレン		<0.0005mg/L		0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン		<0.0002mg/L		0.002mg/L 以下
チウラム		<0.0006mg/L		0.006mg/L 以下
シマジン		<0.0003mg/L		0.003mg/L 以下
チオベンカルブ		<0.002mg/L		0.02mg/L 以下
ベンゼン		<0.001mg/L		0.01mg/L 以下
セレン		<0.002mg/L		0.01mg/L 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.045～ 0.065mg/L	<0.045～ 0.14mg/L	10mg/L 以下	
1,4-ジオキサン	<0.005mg/L		0.05mg/L 以下	
ダイオキシン類	年 4 回	0.056～0.079 pg-TEQ/L	0.059～0.089 pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L 以下

※1 アルキル水銀は、総水銀が定量下限値未満であったため、分析していない。

表 3-2-11 泉大津沖処分場仮防波堤の建設に係る環境監視結果（設置後）

年 月	測定項目 測 定 点	濁 度 (度 (カオリン))		C O D (mg/L)		S S (mg/L)		F S S (mg/L)	
		A	B	A	B	A	B	A	B
平成28年4月14日		4	3	1.3	1.1	2	3	<1	<1
平成28年5月12日		1	1	0.8	0.7	1	1	<1	<1
平成28年6月1日		2	2	2.8	1.8	3	2	<1	<1
平成28年7月12日		1	2	3.4	3.7	2	2	<1	<1
平成28年8月9日		2	2	1.9	2.3	4	4	<1	<1
平成28年9月7日		3	2	2.6	2.3	3	2	<1	<1
平成28年10月6日		3	2	1.6	1.6	5	5	2	2
平成28年11月8日		3	2	1.5	1.4	2	3	1	2
平成28年12月12日		1	2	1.9	1.8	3	4	2	1
平成29年1月18日		1	1	2.4	1.9	3	3	<1	<1
平成29年2月2日		2	2	2.8	2.9	3	3	<1	<1
平成29年3月6日		<1	<1	2.4	2.3	2	1	1	<1
平成28年4月 ～ 平成29年3月		<1～4	<1～3	0.8～3.4	0.7～3.7	1～5	1～5	<1～2	<1～2

注：測定点Aは仮防波堤内側、測定点Bは仮防波堤外側であり、採水層はいずれも中層（海面下3m）。

表 3-2-12 自主監視項目に係る環境監視結果

項目	調査年月日	平成 28 年 8 月 9 日			環境基準値	
		最小値	～	最大値		平均値
ノニルフェノール (mg/L)		<0.00006	～	<0.00006	<0.00006	0.001 以下
		定量下限値 0.00006				
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS) (mg/L)		<0.0006	～	0.0009	0.0007	0.01 以下
		定量下限値 0.0006				

(2) 底質

底質の環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-13 環境監視結果の概要及び評価（底質）

地点	監視結果の概要	評価
基本監視点	○ 基本監視点の調査結果と周辺海域の大阪府調査結果を表 3-2-14 に示す。	○ 全ての項目について、周辺海域での大阪府の調査結果と比較すると同程度であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-2-14 底質調査結果の概要（年 2 回調査）

項目	底質調査結果 (基本監視点 6 点)		大阪府所管監視点 (C-5)	
	最小値～最大値	平均値	最小値～最大値	平均値
COD(mg/g 乾泥)	5.3～22	13	20～28	24
含水率 (%)	35～68	58	60～70	65
強熱減量 (%)	3.0～10	8.0	7.2～8.9	8.1
硫化物(mg/g 乾泥)	0.2～0.5	0.4	0.15～0.65	0.4
P C B (mg/kg 乾泥)	<0.01～0.02	0.01	<0.01	<0.01
総水銀(mg/kg 乾泥)	0.10～0.68	0.35	0.20	0.20

(3) 海生生物

海生生物の環境監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-15 環境監視結果の概要及び評価

地点	監視結果の概要	評価
基本監視点	<ul style="list-style-type: none">○ 植物プランクトン、稚仔魚、漁業生物及び底生生物の出現種類数の経年変化は図 3-2-12 に示すとおりである。○ 植物プランクトン、稚仔魚、漁業生物及び底生生物とも、種類数については、過年度と同程度であった。	<ul style="list-style-type: none">○ 海生生物全体として大きな変化は認められなかった。

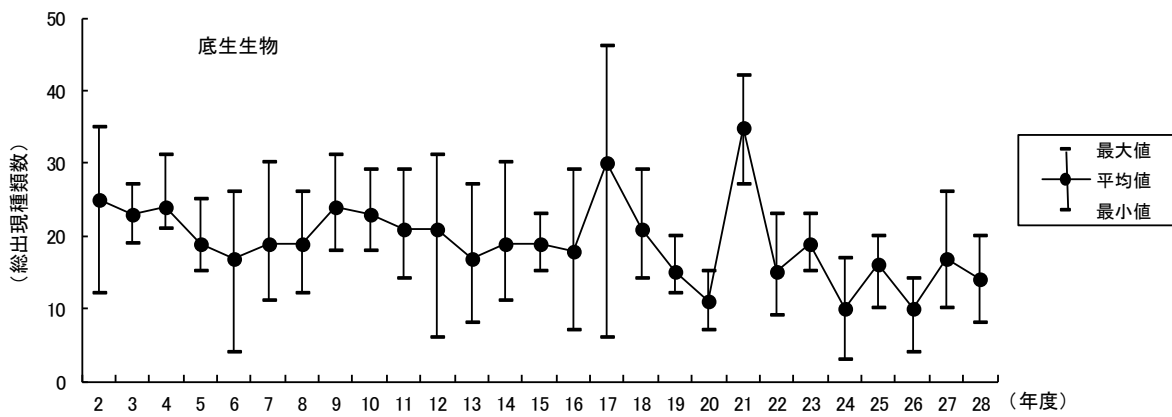
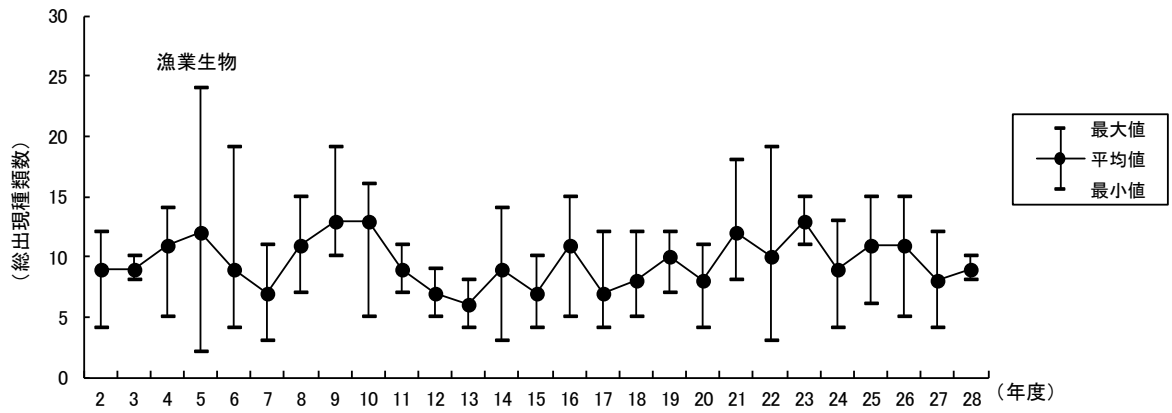
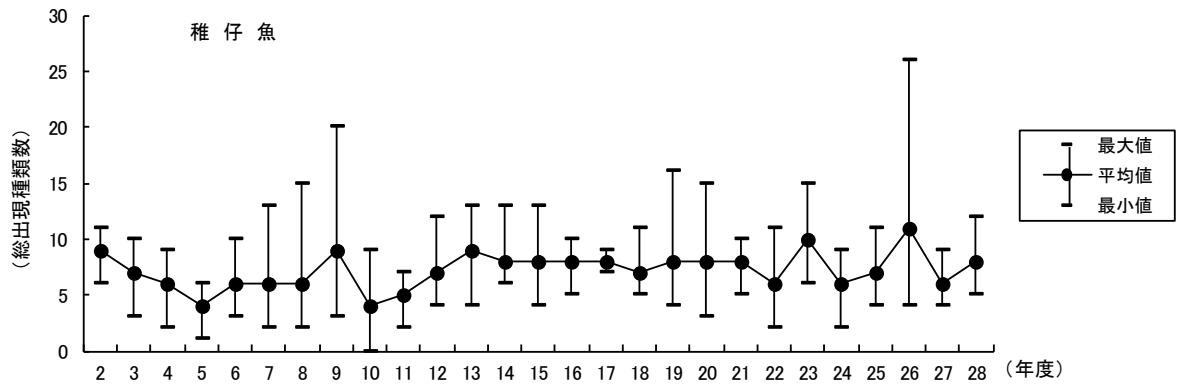
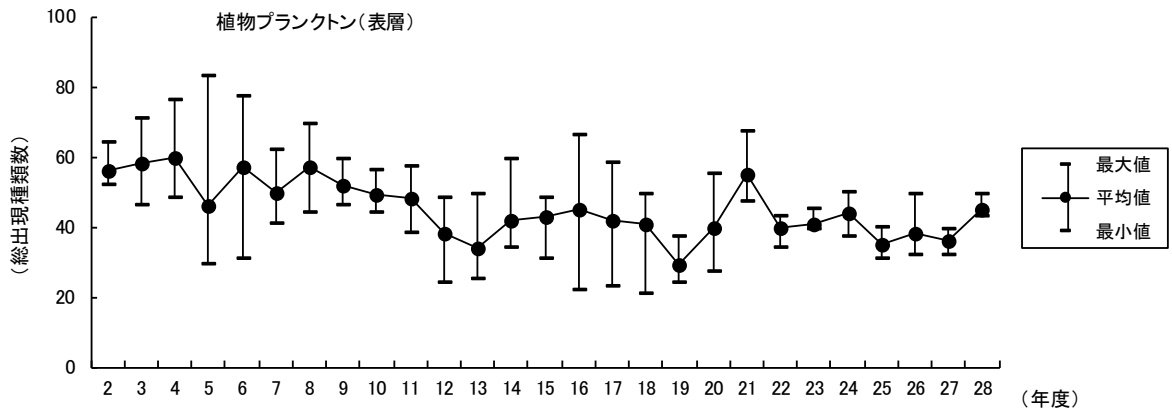


図 3-2-12 海生生物の総出現種数の経年変化

(4) 交通量

交通量の監視結果の概要を下表に示す。

表 3-2-16 環境監視結果の概要(交通量)

地点	監視結果の概要
泉 大 津 基 地 周 辺 3 地 点	<ul style="list-style-type: none">○ 各測定地点における平成 28 年度交通量調査結果の総括を表 3-2-17 に示す。○ 平成 28 年度の大型車混入率は、大阪臨海線No.A地点で 39.6%、泉大津美原線 No.B地点で 41.0%、泉大津基地近傍No.C地点で 40.8%であった。○ 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、大阪臨海線No.A地点で 0.3%、泉大津美原線No.B地点で 0.3%、泉大津基地近傍No.C地点で 8.7%であった。○ 過去 5 年間の調査結果を表 3-2-18 に示す。 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、すべての地点でほぼ横ばいであった。

表 3-2-17 交通量調査結果総括表 (平成 28 年度)

(泉大津基地)

測定地点	測定日	総交通量		総交通量に占める大型車混入率		廃棄物車数		総交通量に占める廃棄物車混入率			
		最小 (台/時)	最大 (台)	最小 (%)	最大 (%)	最小 (台/時)	最大 (台)	最小 (%)	最大 (%)	平均 (%)	
A	平成28年5月24日	1,973 (594)	3,287 (1,166)	23,280 (9,595)	22.5 ~ 52.3	0 (0)	23 (17)	90 (67)	0.0 (0.0)	~ 1.0 (1.6)	0.4 (0.7)
	平成28年8月25日	2,194 (600)	2,994 (1,271)	25,522 (9,866)	20.0 ~ 50.4	0 (0)	13 (13)	64 (56)	0.0 (0.0)	~ 0.5 (1.1)	0.3 (0.6)
	平成28年11月24日	1,907 (516)	2,994 (1,224)	23,271 (9,235)	21.2 ~ 51.7	0 (0)	11 (10)	45 (37)	0.0 (0.0)	~ 0.4 (0.8)	0.2 (0.4)
	平成29年2月21日	2,059 (654)	3,268 (1,219)	23,942 (9,311)	21.6 ~ 52.5	1 (0)	19 (15)	104 (77)	0.0 (0.0)	~ 0.9 (1.7)	0.4 (0.8)
平成28年度		1,907 (516)	3,287 (1,271)	24,004 (9,502)	20.0 ~ 52.5	0 (0)	23 (17)	76 (59)	0.0 (0.0)	~ 1.0 (1.7)	0.3 (0.6)
B	平成28年5月24日	703 (120)	1,251 (362)	8,905 (2,690)	15.0 ~ 41.6	0 (0)	9 (5)	37 (20)	0.0 (0.0)	~ 1.0 (1.7)	0.4 (0.7)
	平成28年8月25日	712 (230)	1,225 (526)	9,088 (3,939)	24.5 ~ 57.6	0 (0)	6 (4)	22 (15)	0.0 (0.0)	~ 0.6 (0.9)	0.2 (0.4)
	平成28年11月24日	801 (234)	1,277 (626)	9,251 (4,429)	25.3 ~ 64.3	0 (0)	9 (7)	35 (31)	0.0 (0.0)	~ 0.9 (1.5)	0.4 (0.7)
	平成29年2月21日	801 (228)	1,299 (518)	9,332 (3,956)	24.6 ~ 60.2	0 (0)	5 (3)	20 (14)	0.0 (0.0)	~ 0.6 (0.7)	0.2 (0.4)
平成28年度		703 (120)	1,299 (626)	9,144 (3,754)	15.0 ~ 64.3	0 (0)	9 (7)	29 (20)	0.0 (0.0)	~ 1.0 (1.7)	0.3 (0.5)
C	平成28年5月24日	173 (75)	331 (139)	2,348 (1,056)	32.5 ~ 62.0	0 (0)	55 (44)	218 (162)	0.0 (0.0)	~ 16.6 (34.4)	9.3 (15.3)
	平成28年8月25日	122 (24)	363 (149)	2,380 (848)	10.8 ~ 53.9	0 (0)	35 (24)	166 (104)	0.0 (0.0)	~ 13.8 (33.3)	7.0 (12.3)
	平成28年11月24日	88 (32)	330 (156)	2,316 (794)	13.6 ~ 47.3	0 (0)	36 (22)	204 (110)	0.0 (0.0)	~ 20.0 (43.8)	8.8 (13.9)
	平成29年2月21日	85 (37)	303 (192)	1,966 (950)	32.4 ~ 63.4	0 (0)	35 (20)	190 (104)	0.0 (0.0)	~ 15.6 (20.4)	9.7 (10.9)
平成28年度		85 (24)	363 (192)	2,253 (912)	10.8 ~ 63.4	0 (0)	55 (44)	195 (120)	0.0 (0.0)	~ 20.0 (43.8)	8.7 (13.1)

注：1) 測定時間は8時～18時(10時間)であり、総交通量及び廃棄物車数の全交通量欄には10時間合計値を示す。

2) 総交通量は1時間値に補正(一般車：10分間値×6+廃棄物車：1時間値)したものを示す。

3) 廃棄物車は1時間の全数交通量を示す。

4) 総交通量欄及び廃棄物車数欄の()内は大型車数を示す。また、総交通量に占める廃棄物車混入率欄の()内は総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の混入率を示す。

表 3-2-18 交通量調査結果の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

対象道路	地点	四季平均交通量 (台/10 時間)		大型車混入率 (%)	平均廃棄物輸送車数 (台/10 時間)	廃棄物輸送車混入率 (%)
		年度	交通量			
大阪臨海線	No.A	24 年度	23,398	36.4	118	0.5
		25 年度	23,623	35.2	116	0.5
		26 年度	23,899	23.8	70	0.3
		27 年度	23,783	30.9	42	0.2
		28 年度	24,004	39.6	76	0.3
泉大津美原線	No.B	24 年度	8,961	35.2	52	0.6
		25 年度	9,475	30.0	49	0.5
		26 年度	9,317	33.6	38	0.4
		27 年度	8,952	37.0	24	0.3
		28 年度	9,144	41.0	29	0.3
泉大津基地 近傍	No.C	24 年度	2,574	46.5	343	13.3
		25 年度	3,024	50.8	417	13.8
		26 年度	2,400	32.9	183	7.8
		27 年度	2,513	39.3	180	7.2
		28 年度	2,253	40.8	195	8.7

(5) 大気質

大気質の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-19 環境監視結果の概要および評価 (大気質)

地点	監視結果の概要	評価
泉大津基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における SO₂、NO₂、SPM の測定結果を表 3-2-20 に示す。 ○ 各測定地点における SO₂濃度の日平均値は、No.A 地点で 0.002~0.012ppm、No.B 地点で 0.002~0.011ppm で、いずれも環境基準値 (0.04ppm) 以下であった。 ○ 各測定地点における NO₂濃度の日平均値は、No.A 地点で 0.010~0.046ppm、No.B 地点で 0.004~0.049ppm で、いずれも環境基準値 (0.04~0.06ppm) のゾーン内またはそれ以下であった。 ○ 各測定地点における SPM 濃度の日平均値は、No.A 地点で 0.006~0.051mg/m³、No.B 地点で 0.005~0.045mg/m³ で、いずれも環境基準値 (0.10mg/m³) 以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SO₂、NO₂、SPM の各項目とも全ての地点で環境基準値以下であり、また、総交通量に占める廃棄物輸送車の割合は No.A 地点で 0.0~1.0%、No.B 地点で 0.0~1.0%と低く、特に問題ないと考えられる (表 3-2-17 参照)。

表 3-2-20 大気質調査結果

測定地点：N o . A

項目 区分	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	
		最大		最大		最大		最大	
調査期間		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月24日～5月30日	0.009	0.012	0.030	0.038	0.037	0.051	1.2	1.5	WNW
		0.006		0.016		0.025		0.9	
平成28年 8月25日～8月31日	0.011	0.012	0.015	0.021	0.010	0.015	1.6	2.4	WSW
		0.009		0.010		0.006		1.1	
平成28年 11月24日～11月30日	0.003	0.004	0.028	0.034	0.014	0.019	1.1	1.5	E
		0.002		0.021		0.015		0.7	
平成29年 2月21日～2月27日	0.004	0.004	0.031	0.046	0.013	0.021	1.6	1.8	W
		0.003		0.014		0.007		1.1	

測定地点：N o . B

項目 区分	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	
		最大		最大		最大		最大	
調査期間		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月24日～5月30日	0.008	0.011	0.021	0.029	0.030	0.045	1.0	1.3	NNW
		0.006		0.012		0.016		0.7	
平成28年 8月25日～8月31日	0.003	0.004	0.009	0.014	0.015	0.020	1.4	1.7	SSW
		0.002		0.004		0.012		1.2	
平成28年 11月24日～11月30日	0.003	0.004	0.025	0.033	0.011	0.015	1.1	1.7	NNW
		0.002		0.019		0.005		0.8	
平成29年 2月21日～2月27日	0.004	0.005	0.028	0.049	0.014	0.021	1.3	1.8	NNW
		0.002		0.011		0.009		0.8	

(6) 騒音・振動

騒音・振動の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-21 環境監視結果の概要及び評価（騒音・振動）

地点	監視結果の概要	評価
泉大津基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における騒音・振動の調査結果の概要を表 3-2-22 に示す。 ○ 騒音レベル(L_{Aeq})は、大阪臨海線No.A 地点で5月が64デシベル、11月が68デシベルであり、環境基準値(70デシベル)以下であった。また、泉大津美原線No.B 地点で5月が71デシベル、11月が73デシベルであり、環境基準値(70デシベル)を上回っていた。 ○ 振動レベル(L_{10})は39~44デシベルであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 泉大津美原線No.B 地点での騒音レベル(L_{Aeq})が環境基準値を上回ったが、総交通量に占める廃棄物輸送車の混入率が0.0~1.0%(年平均0.3%)と低く、また、大型車の総交通量に占める廃棄物輸送車の混入率も0.0~1.7%(年平均0.5%)と低いことから、特に問題ないと考えられる(表 3-2-17 参照)。 ○ 振動レベル(L_{10})については感覚閾値(55デシベル)以下であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-2-22 騒音・振動調査結果の概要

対象道路	地点	用途地域	地域区分	騒音レベル(L_{Aeq}) (デシベル)			振動レベル(L_{10}) (デシベル)	
				5月	11月	環境基準値(昼間)	5月	11月
大阪臨海線	No.A	準工	近接空間	64	68	70以下	44	44
泉大津美原線	No.B	準工	近接空間	71	73	70以下	39	41

※主要音源は、No.A 地点、No.B 地点ともに自動車走行音であった。

(注1) 地域区分の欄の「近接空間」とは、「幹線交通を担う道路に近接する空間」のことである。

(注2) 調査時間は8:00~18:00である。

(7) 悪臭・発生ガス

悪臭及び発生ガスの監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-23 環境監視結果の概要及び評価（悪臭・発生ガス）

地点	監視結果の概要	評価
泉大津基地周辺5地点	<p>○ 各測定地点における悪臭の調査結果の概要を表 3-2-24 に示す。 6 月及び 8 月の調査ともに、臭気指数は <10、臭気強度は 0（臭質：無臭）であった。 また、管理型区画護岸での悪臭物質（22 物質）の調査結果を表 3-2-25 に示す。これらは規制基準値を下回っていた。</p> <p>○ 管理型区画内（陸域化部分）での発生ガス調査の結果について、表 3-2-26 に示す。 発生ガス中（地中管内）のメタン濃度は、F1 が 2.5～920ppm、F2 が 3,400～4,600ppm、大気環境中のメタン濃度は、F1 が 3.3～5.8ppm、F2 が 3.1～5.4ppm であった。</p>	<p>○ 臭気指数及び悪臭物質濃度について、指導指針値又は規制基準値を下回っており、特に問題ないと考えられる。</p> <p>○ 大気環境中メタン濃度は、爆発下限値（50,000～100,000ppm）より十分小さいことから、特に問題ないと考えられるが、平成 19 年度の地盤締め固め及びアスファルト舗装実施後に高濃度が検出されて以降、ガス抜き管の設置等の対策及び調査地点数と調査回数の増加による環境監視の強化を行っており、引き続き推移を見ていく必要がある。</p>

表 3-2-24 悪臭調査結果の概要

調査月日	地点名	臭気指数	臭気指数指導指針値	臭気強度	臭質	指導指針値に相当する臭気強度 [参考]
6 月 14 日	D1（風上）	<10	10	0	無臭	2.5
	D2（風下）	<10		0	無臭	
8 月 2 日	D1（風上）	<10	10	0	無臭	2.5
	D2（風下）	<10		0	無臭	

(注)「臭気指数指導指針値」は、泉大津市悪臭公害防止指導要綱に基づく敷地境界線における指導指針値である。

表 3-2-25 悪臭物質調査結果の概要 (8月2日・調査地点:E)

(単位: ppm)

項目	測定結果	規制基準値
アンモニア	<0.1	1
メチルメルカプタン	<0.0005	0.002
硫化水素	<0.001	0.02
硫化メチル	<0.001	0.01
二硫化メチル	<0.001	0.009
トリメチルアミン	<0.001	0.005
アセトアルデヒド	<0.005	0.05
プロピオンアルデヒド	<0.005	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	<0.0009	0.009
イソブチルアルデヒド	<0.002	0.02
ノルマルバレルアルデヒド	<0.0009	0.009
イソバレルアルデヒド	<0.0003	0.003
イソブタノール	<0.09	0.9
酢酸エチル	<0.3	3
メチルイソブチルケトン	<0.1	1
トルエン	<1	10
スチレン	<0.04	0.4
キシレン	<0.1	1
プロピオン酸	<0.0004	0.03
ノルマル酪酸	<0.0004	0.001
ノルマル吉草酸	<0.0004	0.0009
イソ吉草酸	<0.0004	0.001

表 3-2-26 発生ガス調査の結果の概要

調査日		平成 28 年 8 月 2 日		平成 29 年 2 月 7 日	
調査地点		F1	F2	F1	F2
メタン (ppm)	発生ガス	920	4,600	2.5	3,400
	大気環境	3.3	3.1	5.8	5.4

(8) アスベスト

非飛散性アスベストの受入状況並びにアスベスト濃度の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-2-27 環境監視結果の概要及び評価 (アスベスト)

地点	監視結果の概要	評価
泉大津基地2地点	○ 非飛散性アスベストの受入状況を表 3-2-28 に、アスベスト濃度の調査結果の概要を表 3-2-29 に示す。	○ G1、G2 におけるアスベスト濃度はすべて<0.056 本/L であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-2-28 非飛散性アスベスト受入状況

(単位：t)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
347	421	353	365	321	234

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
337	400	424	218	304	394	4,118

表 3-2-29 アスベスト濃度調査結果

測定日 5 月 17 日～19 日

(単位：本/L)

	1 回目	2 回目	3 回目	幾何平均値
G1	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056
G2	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056

測定日 8 月 16 日～18 日

(単位：本/L)

	1 回目	2 回目	3 回目	幾何平均値
G1	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056
G2	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056

測定日 11 月 15 日～17 日

(単位：本/L)

	1 回目	2 回目	3 回目	幾何平均値
G1	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056
G2	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056

測定日 2 月 7 日、8 日、16 日

(単位：本/L)

	1 回目	2 回目	3 回目	幾何平均値
G1	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056
G2	<0.056	<0.056	<0.056	<0.056

3-3 大阪基地

3-3-1 環境監視の実施状況

大阪基地における平成 28 年度の環境監視の実施状況の概要を下表に示す。また、調査地点を図 3-3-1 に示す。

平成 28 年度においては、監視計画どおりに実施された。

表 3-3-1 大阪基地における環境監視の実施状況の概要

項目	調査頻度	調査地点数	調査項目
交通量	4 回/年	3	総交通量（大型車、大型車以外） 1 項目 廃棄物輸送車数（大型車、大型車以外） 1 項目
大気質	4 回/年	2	NO、NO ₂ 、SPM、SO ₂ 4 項目
騒音・振動	2 回/年	2	騒音レベル、振動レベル 2 項目
悪臭	2 回/年	2	臭気濃度、臭気指数、臭気強度 3 項目

(注) ・4 回/年の調査は、5 月、8 月、11 月、2 月に実施

・騒音・振動は 5 月、11 月に実施

・悪臭は 6 月、8 月に実施

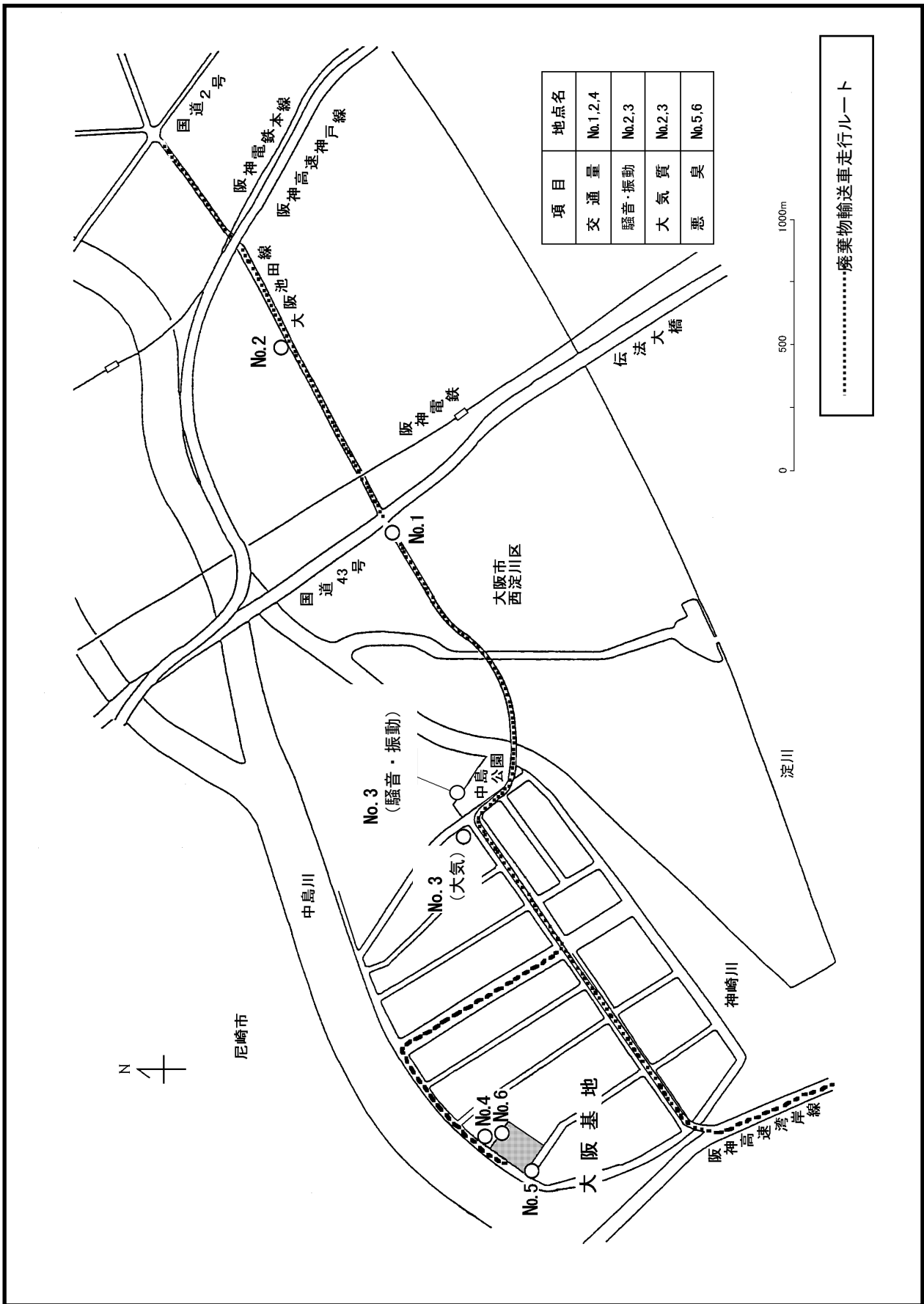


図 3-3-1 大阪基地の調査地点

3-3-2 環境監視結果

(1) 交通量

交通量の監視結果の概要を下表に示す。

表 3-3-2 環境監視結果の概要 (交通量)

地点	監視結果の概要
大阪基地周辺3地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における平成 28 年度の交通量調査結果の総括を表 3-3-3 に示す。 ○ 平成 28 年度の大型車混入率は、大阪池田線No.1 地点で 37.3%、大阪池田線 No.2 地点で 33.4%、大阪基地近傍No.4 地点で 28.9%であった。 ○ 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、大阪池田線No.1 地点で 0.2%、大阪池田線No.2 地点で 0.1%、大阪基地近傍No.4 地点で 10.0%であった。 ○ 過去 5 年間の調査結果を表 3-3-4 に示す。 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、全ての地点でほぼ横ばいであった。

表 3-3-3 交通量調査結果総括表 (平成 28 年度)

(大阪基地)

測定地点	測定日	総交通量		総交通量に占める大型車混入率		廃棄物車数		総交通量に占める廃棄物車混入率	
		最小 (台/時)	最大 (台)	最小 (%)	最大 (%)	最小 (台/時)	最大 (台)	最小 (%)	最大 (%)
No.1	平成28年5月13日	1,085 (256) ~ 1,638 (500)	13,712 (3,681)	17.8 ~ 37.9	26.8	0 (0) ~ 5 (4)	20 (15)	0.0 (0.0) ~ 0.5 (1.6)	0.1 (0.4)
	平成28年8月2日	1,033 (450) ~ 1,554 (828)	13,336 (6,776)	33.9 ~ 58.2	50.8	0 (0) ~ 7 (7)	22 (20)	0.0 (0.0) ~ 0.7 (1.3)	0.2 (0.3)
	平成28年11月7日	1,083 (474) ~ 1,500 (826)	13,484 (6,740)	35.9 ~ 60.7	50.0	0 (0) ~ 5 (5)	26 (26)	0.0 (0.0) ~ 0.4 (0.7)	0.2 (0.4)
	平成29年2月1日	1,020 (144) ~ 1,404 (411)	13,175 (2,838)	10.5 ~ 29.4	21.5	0 (0) ~ 9 (7)	35 (24)	0.0 (0.0) ~ 0.6 (2.0)	0.3 (0.8)
No.2	平成28年度	1,020 (144) ~ 1,638 (828)	13,427 (5,009)	10.5 ~ 60.7	37.3	0 (0) ~ 9 (7)	26 (21)	0.0 (0.0) ~ 0.7 (2.0)	0.2 (0.5)
	平成28年5月13日	1,146 (222) ~ 1,520 (571)	13,165 (4,567)	19.4 ~ 42.7	34.7	0 (0) ~ 3 (3)	13 (13)	0.0 (0.0) ~ 0.2 (0.7)	0.1 (0.3)
	平成28年8月2日	1,160 (318) ~ 1,520 (679)	12,957 (4,525)	25.6 ~ 44.7	34.9	0 (0) ~ 3 (3)	15 (13)	0.0 (0.0) ~ 0.2 (0.9)	0.1 (0.3)
	平成28年11月7日	1,261 (252) ~ 1,621 (674)	14,466 (4,854)	19.4 ~ 43.8	33.6	0 (0) ~ 4 (4)	12 (12)	0.0 (0.0) ~ 0.3 (0.8)	0.1 (0.2)
No.4	平成29年2月1日	1,124 (198) ~ 1,551 (704)	13,442 (4,068)	15.1 ~ 46.7	30.3	0 (0) ~ 3 (3)	14 (12)	0.0 (0.0) ~ 0.2 (0.6)	0.1 (0.3)
	平成28年度	1,124 (198) ~ 1,621 (704)	13,508 (4,504)	15.1 ~ 46.7	33.4	0 (0) ~ 4 (4)	14 (13)	0.0 (0.0) ~ 0.3 (0.9)	0.1 (0.3)
	平成28年5月13日	72 (6) ~ 251 (112)	1,610 (612)	8.3 ~ 70.0	38.0	0 (0) ~ 53 (45)	266 (234)	0.0 (0.0) ~ 28.3 (80.6)	16.5 (38.2)
	平成28年8月2日	90 (14) ~ 198 (71)	1,522 (368)	8.8 ~ 41.0	24.2	0 (0) ~ 28 (24)	118 (92)	0.0 (0.0) ~ 18.2 (100.0)	7.8 (25.0)
No.4	平成28年11月7日	84 (24) ~ 277 (83)	1,884 (524)	13.2 ~ 43.9	27.8	0 (0) ~ 39 (28)	186 (146)	0.0 (0.0) ~ 20.6 (40.0)	9.9 (27.9)
	平成29年2月1日	90 (6) ~ 317 (93)	1,754 (452)	2.7 ~ 54.0	25.8	0 (0) ~ 24 (16)	104 (74)	0.0 (0.0) ~ 19.0 (47.8)	5.9 (16.4)
平成28年度	72 (6) ~ 317 (112)	1,693 (489)	2.7 ~ 70.0	28.9	0 (0) ~ 53 (45)	169 (137)	0.0 (0.0) ~ 28.3 (100.0)	10.0 (26.9)	

注：1) 測定時間は8時～18時(10時間)であり、総交通量及び廃棄物車数の全交通量欄には10時間合計値を示す。

2) 総交通量は1時間値に補正(一般車：10分間値×6+廃棄物車：1時間値)したものを示す。

3) 廃棄物車は1時間の全数交通量を示す。

4) 総交通量欄及び廃棄物車数欄の()内は大型車数を示す。また、総交通量に占める廃棄物車混入率欄の()内は総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の混入率を示す。

表 3-3-4 交通量調査結果の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

対象道路	地点	四季平均交通量 (台/10 時間)		大型車混入率 (%)	平均廃棄物輸送車数 (台/10 時間)	廃棄物輸送車混入率 (%)
		年度	交通量			
大阪池田線	No. 1	24 年度	13,244	27.8	33	0.2
		25 年度	12,853	24.5	25	0.2
		26 年度	12,660	27.6	28	0.2
		27 年度	12,901	28.1	34	0.3
		28 年度	13,427	37.3	26	0.2
大阪池田線	No. 2	24 年度	14,283	26.2	18	0.1
		25 年度	13,833	24.2	18	0.1
		26 年度	13,409	27.0	21	0.2
		27 年度	13,490	34.0	20	0.1
		28 年度	13,508	33.4	14	0.1
大阪基地近傍	No. 4	24 年度	1,516	38.8	226	14.9
		25 年度	1,358	34.4	195	14.4
		26 年度	1,172	29.8	151	12.9
		27 年度	1,349	33.1	206	15.1
		28 年度	1,693	28.9	169	10.0

(2) 大気質

大気質の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-3-5 環境監視結果の概要及び評価 (大気質)

地点	監視結果の概要	評価
大阪基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における SO₂、NO₂、SPM の測定結果を表 3-3-6 に示す。 ○ 各測定地点における SO₂濃度の日平均値は、No.2 地点で 0.001~0.012ppm、No.3 地点で 0.002~0.009ppm で、いずれも環境基準値 (0.04ppm) 以下であった。 ○ 各測定地点における NO₂濃度の日平均値は、No.2 地点で 0.006~0.044ppm、No.3 地点で 0.006~0.045ppm で、いずれも環境基準値 (0.04~0.06ppm) のゾーン内またはそれ以下であった。 ○ 各測定地点における SPM 濃度の日平均値は、No.2 地点で 0.007~0.033mg/m³、No.3 地点で 0.005~0.041mg/m³ で、いずれも環境基準値 (0.10mg/m³) 以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SO₂、NO₂、SPM の各項目とも全ての地点で環境基準値以下であり、また、総交通量に占める廃棄物輸送車の割合は No.1 地点で 0.0~0.7%、No.2 地点で 0.0~0.3% と低く、特に問題ないと考えられる (表 3-3-3 参照)。

表 3-3-6 大気質調査結果

測定地点：No. 2

項目 区分 調査期間	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均值	日平均值	平均值	日平均值	平均值	日平均值	平均值	日平均值	
		最大		最大		最大		最大	
		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月10日～5月16日	0.007	0.012 0.004	0.019	0.031 0.006	0.019	0.029 0.010	1.9	2.6 1.1	N
平成28年 8月1日～8月7日	0.005	0.006 0.004	0.020	0.024 0.013	0.024	0.033 0.018	2.0	2.2 1.5	N
平成28年 11月4日～11月10日	0.003	0.005 0.002	0.028	0.040 0.008	0.021	0.030 0.008	1.7	3.1 1.3	N
平成29年 2月1日～2月7日	0.002	0.004 0.001	0.028	0.044 0.010	0.014	0.022 0.007	2.1	3.1 1.2	NNW

測定地点：No. 3

項目 区分 調査期間	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均值	日平均值	平均值	日平均值	平均值	日平均值	平均值	日平均值	
		最大		最大		最大		最大	
		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月10日～5月16日	0.006	0.009 0.003	0.026	0.045 0.006	0.022	0.028 0.014	2.4	3.3 1.1	NNE
平成28年 8月1日～8月7日	0.005	0.006 0.004	0.013	0.016 0.007	0.031	0.041 0.022	2.5	2.9 1.9	N
平成28年 11月4日～11月10日	0.003	0.004 0.002	0.020	0.031 0.006	0.022	0.035 0.005	2.1	3.6 1.3	NNE
平成29年 2月1日～2月7日	0.003	0.005 0.002	0.020	0.033 0.011	0.011	0.015 0.006	2.5	3.5 1.3	NW

(3) 騒音・振動

騒音・振動の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-3-7 環境監視結果の概要及び評価（騒音・振動）

地点	監視結果の概要	評価
大阪基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における騒音・振動の調査結果の概要を表 3-3-8 に示す。 ○ 騒音レベル(L_{Aeq}) は大阪池田線No.2 地点で5月が69デシベル、11月が70デシベルであり、環境基準値(70デシベル)以下であった。また、大阪池田線(中島公園) No.3 地点で5月が57デシベル、11月が56デシベルであり、環境基準値(65デシベル)以下であった。 ○ 振動レベル(L_{10})は38~45デシベルであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騒音レベル(L_{Aeq})については全ての地点で環境基準値以下であり、また、総交通量に占める廃棄物輸送車の割合は No.1 地点で0.0~0.7%、No.2 地点で0.0~0.3%と低く、特に問題ないと考えられる。(表 3-3-3 参照) ○ 振動レベル(L_{10})については全ての地点で感覚閾値(55デシベル)以下であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-3-8 騒音・振動調査結果の概要

対象道路	地点	用途地域	地域区分	騒音レベル(L_{Aeq})(デシベル)			振動レベル(L_{10})(デシベル)	
				5月	11月	環境基準値(昼間)	5月	11月
大阪池田線	No.2	準住居	近接空間	69	70	70以下	44	45
大阪池田線	No.3	1種住居	B地域	57	56	65以下	38	38

※ 主要音源は、No.2 地点、No.3 地点ともに自動車走行音であった。

(注1) 地域区分の欄の「近接空間」とは、「幹線交通を担う道路に近接する空間」のことである。

(注2) 調査時間は8:00~18:00である。

(4) 悪臭

悪臭の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-3-9 環境監視結果の概要及び評価（悪臭）

地点	監視結果の概要	評価
大阪基地周辺2地点	<p>○ 各測定地点における悪臭の調査結果の概要を表 3-3-10 に示す。 6月及び8月の調査ともに、臭気指数は<10、臭気強度は0（臭質：無臭）であった。</p>	<p>○ 臭気指数について、規制基準値を下回っており、特に問題ないと考えられる。</p>

表 3-3-10 悪臭調査結果の概要

調査月日	地点名	臭気指数	臭気指数 規制基準値	臭気強度	臭質	規制基準値に相当する臭気強度 [参考]
6月 14日	No.5（風上）	<10	10	0	無臭	2.5
	No.6（風下）	<10		0	無臭	
8月 2日	No.5（風下）	<10	10	0	無臭	2.5
	No.6（風上）	<10		0	無臭	

- (注)・「臭気指数規制基準値」は、悪臭防止法に基づく敷地境界線における規制基準値の下限値である。
 ・「規制基準値に相当する臭気強度」は、悪臭防止法に基づく規制基準値に相当する臭気強度の範囲の下限値（最も厳しい値）である。

3-4 堺基地

3-4-1 環境監視の実施状況

堺基地における平成 28 年度の環境監視の実施状況の概要を下表に示す。また、調査地点を図 3-4-1 に示す。

平成 28 年度においては、監視計画どおりに実施された。

表 3-4-1 堺基地における環境監視の実施状況の概要

項目	調査頻度	調査地点数	調査項目
交通量	4 回/年	4	総交通量（大型車、大型車以外） 1 項目 廃棄物輸送車数（大型車、大型車以外） 1 項目
大気質	4 回/年	2	NO、NO ₂ 、SPM、SO ₂ 4 項目
騒音・振動	2 回/年	2	騒音レベル、振動レベル 2 項目
悪臭	2 回/年	2	臭気濃度、臭気指数、臭気強度 3 項目

- (注) ・4 回/年の調査は、5 月、8 月、11 月、2 月に実施
・騒音・振動は 5 月、11 月に実施
・悪臭は 6 月、8 月に実施

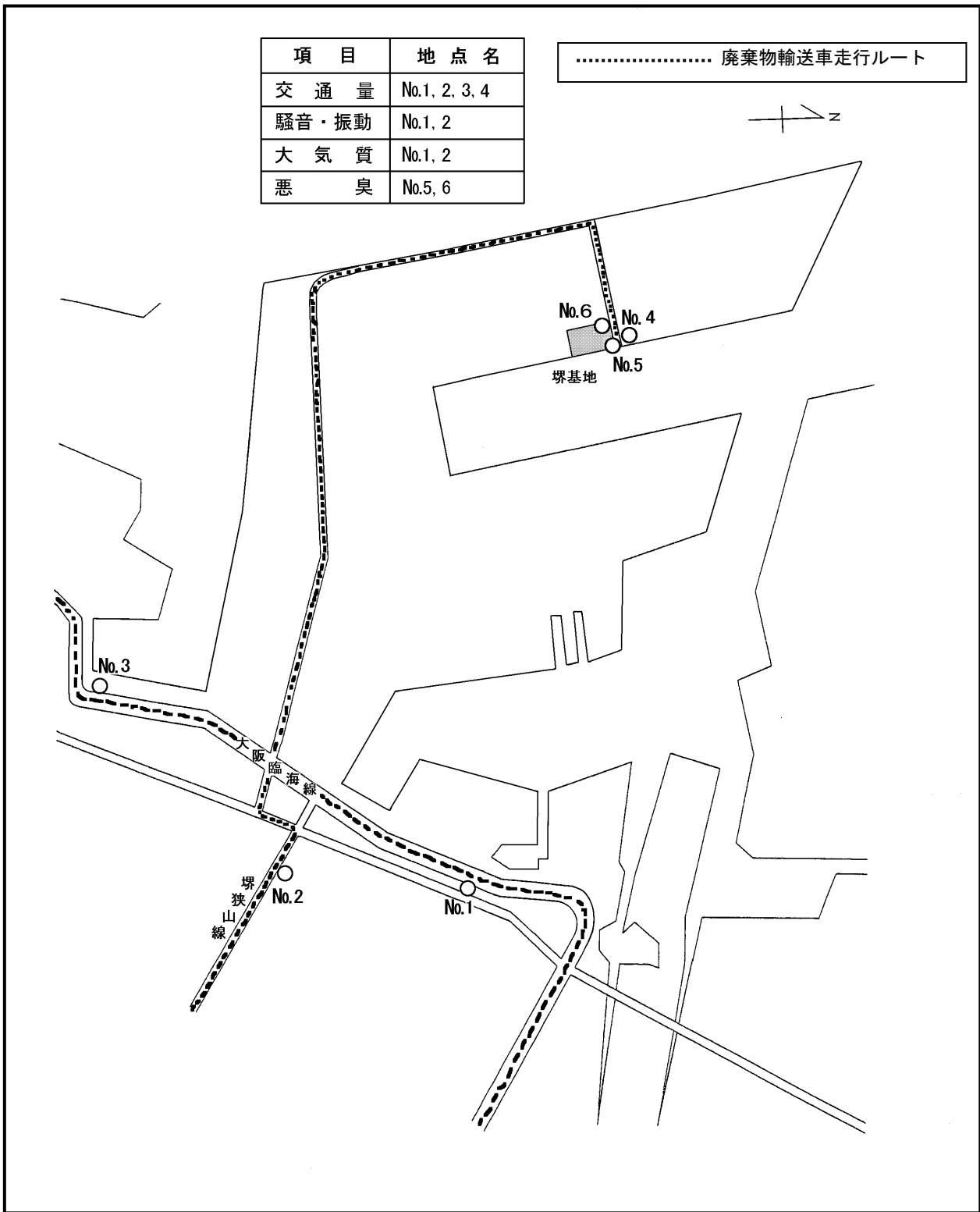


図 3-4-1 堺基地の調査地点

3-4-2 環境監視結果

(1) 交通量

交通量の監視結果の概要を下表に示す。

表 3-4-2 環境監視結果の概要 (交通量)

地点	監視結果の概要
堺基地周辺4地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における平成 28 年度の交通量調査結果の総括を表 3-4-3 に示す。 ○ 平成 28 年度の大型車混入率は、大阪臨海線No.1 地点で 36.4%、堺狭山線No.2 地点で 22.3%、大阪臨海線No.3 地点で 33.4%、堺基地近傍No.4 地点で 76.9%であった。 ○ 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、大阪臨海線No.1 地点で 0.3%、堺狭山線No.2 地点で 0.1%、大阪臨海線No.3 地点で 0.3%、堺基地近傍No.4 地点で 86.2%であった。 ○ 過去 5 年間の調査結果を表 3-4-4 に示す。 総交通量に占める廃棄物輸送車混入率は、全ての地点でほぼ横ばいであった。

表 3-4-3 交通量調査結果総括表 (平成 28 年度)

(堺基地)

測定地点	測定日	総交通量 (台/時)			総交通量に占める 大型車混入率 (%)			廃棄物車数 (台/時)			総交通量に占める廃棄物車混入率 (%)														
		最小	～	最大	全交通量 (台)	最小	～	最大	平均	最小	～	最大	平均												
No.1	平成28年5月19日	2,226	～	3,126	(1,630)	26,007	(10,666)	20.4	～	59.0	41.0	0	(0)	～	18	(15)	81	(76)	0.0	(0.0)	～	0.8	(1.9)	0.3	(0.7)
	平成28年8月17日	1,795	～	3,006	(1,126)	24,507	(8,118)	15.6	～	43.1	33.1	0	(0)	～	12	(11)	45	(42)	0.0	(0.0)	～	0.5	(1.3)	0.2	(0.5)
	平成28年11月15日	2,119	～	3,036	(1,395)	25,342	(10,034)	19.4	～	55.6	39.6	0	(0)	～	29	(28)	118	(110)	0.0	(0.0)	～	1.3	(2.3)	0.5	(1.1)
	平成29年2月17日	2,115	～	3,224	(1,093)	24,291	(7,786)	14.7	～	48.8	32.1	2	(2)	～	15	(15)	75	(70)	0.1	(0.4)	～	0.6	(2.4)	0.3	(0.9)
No.2	平成28年度	1,795	～	3,224	(1,630)	25,037	(9,151)	14.7	～	59.0	36.4	0	(0)	～	29	(28)	80	(75)	0.0	(0.0)	～	1.3	(2.4)	0.3	(0.8)
	平成28年5月19日	1,310	～	1,782	(319)	15,423	(2,323)	9.3	～	19.5	15.1	0	(0)	～	2	(2)	9	(7)	0.0	(0.0)	～	0.2	(1.0)	0.1	(0.3)
	平成28年8月17日	1,292	～	1,632	(463)	14,435	(3,146)	12.1	～	30.1	21.8	0	(0)	～	4	(3)	11	(8)	0.0	(0.0)	～	0.2	(0.7)	0.1	(0.3)
	平成28年11月15日	990	～	1,535	(610)	13,001	(3,619)	20.4	～	39.7	27.8	0	(0)	～	8	(7)	41	(37)	0.0	(0.0)	～	0.6	(2.2)	0.3	(1.0)
No.3	平成29年2月17日	1,093	～	1,722	(488)	14,120	(3,469)	15.0	～	34.4	24.6	0	(0)	～	3	(2)	8	(7)	0.0	(0.0)	～	0.2	(0.6)	0.1	(0.2)
	平成28年度	990	～	1,782	(610)	14,245	(3,139)	9.3	～	39.7	22.3	0	(0)	～	8	(7)	17	(15)	0.0	(0.0)	～	0.6	(2.2)	0.1	(0.4)
	平成28年5月19日	1,709	～	2,544	(817)	21,187	(5,980)	14.4	～	39.6	28.2	0	(0)	～	14	(9)	49	(28)	0.0	(0.0)	～	0.7	(1.6)	0.2	(0.5)
	平成28年8月17日	1,720	～	2,976	(895)	20,491	(6,038)	13.7	～	41.8	29.5	0	(0)	～	10	(7)	43	(32)	0.0	(0.0)	～	0.6	(1.3)	0.2	(0.5)
No.4	平成28年11月15日	1,823	～	3,012	(971)	22,353	(7,123)	18.5	～	45.2	31.9	0	(0)	～	14	(9)	63	(43)	0.0	(0.0)	～	0.7	(1.5)	0.3	(0.6)
	平成29年2月17日	1,827	～	2,478	(1,311)	20,734	(9,156)	21.1	～	55.7	44.2	0	(0)	～	14	(14)	76	(66)	0.0	(0.0)	～	0.7	(2.0)	0.4	(0.7)
	平成28年度	1,709	～	3,012	(1,311)	21,191	(7,074)	13.7	～	55.7	33.4	0	(0)	～	14	(14)	58	(42)	0.0	(0.0)	～	0.7	(2.0)	0.3	(0.6)
	平成28年5月19日	0	(0)	66	(51)	350	(250)	47.8	～	94.1	71.4	0	(0)	～	60	(51)	290	(250)	59.1	(100.0)	～	100.0	(100.0)	82.9	(100.0)
No.4	平成28年8月17日	1	(1)	64	(53)	288	(232)	74.4	～	100.0	80.6	1	(1)	～	58	(53)	264	(232)	76.9	(100.0)	～	100.0	(100.0)	91.7	(100.0)
	平成28年11月15日	0	(0)	91	(75)	340	(236)	47.1	～	82.4	69.4	0	(0)	～	85	(75)	274	(236)	70.0	(100.0)	～	93.4	(100.0)	80.6	(100.0)
	平成29年2月17日	3	(3)	78	(70)	348	(300)	55.0	～	100.0	86.2	3	(3)	～	66	(64)	312	(288)	40.0	(72.7)	～	100.0	(100.0)	89.7	(96.0)
	平成28年度	0	(0)	91	(75)	332	(255)	47.1	～	100.0	76.9	0	(0)	～	85	(75)	285	(252)	40.0	(72.7)	～	100.0	(100.0)	86.2	(99.0)

注：1) 測定時間は測定地点No.1～3が8時～18時(10時間)、測定地点No.4が8時～17時(9時間)であり、総交通量及び廃棄物車数の全交通量欄には当該時間の合計値を示す。
 2) 総交通量は1時間値に補正(一般車：10分間値×6+廃棄物車：1時間値)したものを示す。
 3) 廃棄物車は1時間の全数交通量を示す。
 4) 総交通量欄及び廃棄物車数欄の()内は大型車数を示す。また、総交通量に占める廃棄物車混入率欄の()内は総交通量(大型車)に占める廃棄物車(大型車)の混入率を示す。

表 3-4-4 交通量調査結果の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

対象道路	地点	四季平均交通量 (台/10 時間)		大型車混入率 (%)	平均廃棄物輸送車数 (台/10 時間)	廃棄物輸送車混入率 (%)
		年度	交通量			
大阪臨海線	No. 1	24 年度	26,355	31.7	99	0.4
		25 年度	26,645	35.5	92	0.3
		26 年度	26,390	32.4	84	0.3
		27 年度	25,115	32.0	84	0.3
		28 年度	25,037	36.4	80	0.3
堺狭山線	No. 2	24 年度	14,902	14.0	20	0.1
		25 年度	14,616	11.5	25	0.2
		26 年度	14,764	13.1	11	0.1
		27 年度	14,806	20.1	18	0.1
		28 年度	14,245	22.3	17	0.1
大阪臨海線	No. 3	24 年度	22,859	30.9	106	0.5
		25 年度	22,782	28.9	109	0.5
		26 年度	22,784	31.8	79	0.3
		27 年度	22,626	25.8	49	0.2
		28 年度	21,191	33.4	58	0.3
堺基地近傍	No. 4	24 年度	419	74.0	356	85.0
		25 年度	400	75.5	346	86.5
		26 年度	365	72.1	325	88.7
		27 年度	353	75.2	302	85.8
		28 年度	332	76.9	285	86.2

(2) 大気質

大気質の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-4-5 環境監視結果の概要および評価 (大気質)

地点	監視結果の概要	評価
堺基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における SO₂、NO₂、SPM の測定結果を表 3-4-6 に示す。 ○ 各測定地点における SO₂ 濃度の日平均値は、No.1 地点で 0.003~0.011ppm、No.2 地点で 0.002~0.014ppm で、いずれも環境基準値 (0.04ppm) 以下であった。 ○ 各測定地点における NO₂ 濃度の日平均値は、No.1 地点で 0.002~0.046ppm、No.2 地点で 0.003~0.059ppm で、いずれも環境基準値 (0.04~0.06ppm) のゾーン内またはそれ以下であった。 ○ 各測定地点における SPM 濃度の日平均値は、No.1 地点で 0.008~0.048mg/m³、No.2 地点で 0.009~0.043mg/m³ で、いずれも環境基準値 (0.10mg/m³) 以下であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SO₂、NO₂、SPM の各項目とも全ての地点で環境基準値以下であり、また、総交通量に占める廃棄物輸送車の割合は No.1 地点で 0.0~1.3%、No.2 地点で 0.0~0.6% と低く、特に問題ないと考えられる (表 3-4-3 参照)。

表 3-4-6 大気質調査結果

測定地点：No. 1

項目 区分	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	
		最大		最大		最大		最大	
調査期間		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月19日～5月25日	0.009	0.011	0.032	0.041	0.037	0.047	1.1	1.3	WNW
		0.007		0.009		0.028		1.0	
平成28年 8月17日～8月23日	0.005	0.006	0.016	0.021	0.023	0.031	1.0	1.3	NNE
		0.004		0.002		0.014		0.8	
平成28年 11月12日～11月18日	0.004	0.005	0.028	0.033	0.024	0.032	0.8	0.9	ESE
		0.003		0.020		0.015		0.6	
平成29年 2月12日～2月18日	0.005	0.008	0.030	0.046	0.020	0.048	1.1	1.5	NW
		0.004		0.014		0.008		0.6	

測定地点：No. 2

項目 区分	SO ₂ (ppm)		NO ₂ (ppm)		SPM(mg/m ³)		風速(m/s)		最多風向
	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	平均値	日平均値	
		最大		最大		最大		最大	
調査期間		最小		最小		最小		最小	
平成28年 5月19日～5月25日	0.011	0.014	0.030	0.038	0.033	0.039	1.2	1.4	W
		0.008		0.010		0.025		0.8	
平成28年 8月17日～8月23日	0.006	0.007	0.016	0.023	0.017	0.028	1.4	1.5	NNE
		0.004		0.003		0.010		1.2	
平成28年 11月12日～11月18日	0.005	0.007	0.030	0.036	0.021	0.030	0.9	1.3	NNE
		0.003		0.019		0.011		0.6	
平成29年 2月12日～2月18日	0.004	0.006	0.042	0.059	0.019	0.043	1.1	1.6	WNW
		0.002		0.023		0.009		0.8	

(3) 騒音・振動

騒音・振動の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-4-7 環境監視結果の概要及び評価(騒音・振動)

地点	監視結果の概要	評価
堺基地周辺2地点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各測定地点における騒音・振動の調査結果の概要を表 3-4-8 に示す。 ○ 騒音レベル(L_{Aeq})は、大阪臨海線No.1 地点で5月が75デシベル、11月が76デシベルであり、環境基準値(70デシベル)を上回った。また、堺狭山線No.2 地点で5月、11月ともに66デシベルであり、環境基準値(70デシベル)以下であった。 ○ 振動レベル(L_{10})は42~49デシベルであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪臨海線No.1 地点で、騒音レベル(L_{Aeq})が環境基準値を上回ったが、総交通量に占める廃棄物輸送車の混入率が0.0~1.3%(年平均0.3%)と低く、また、大型車の総交通量に占める廃棄物輸送車の混入率も0.0~2.4%(年平均0.8%)と低いことから、特に問題ないと考えられる(表 3-4-3 参照)。 ○ 振動レベル(L_{10})については全ての地点で感覚閾値(55デシベル)以下であり、特に問題ないと考えられる。

表 3-4-8 騒音・振動調査結果の概要

対象道路	地点	用途地域	地域区分	騒音レベル(L_{Aeq}) (デシベル)			振動レベル(L_{10}) (デシベル)	
				5月	11月	環境基準値(昼間)	5月	11月
大阪臨海線	No.1	1種住居	近接空間	75	76	70以下	49	49
堺狭山線	No.2	近隣商業	近接空間	66	66	70以下	44	42

※主要音源は、No.1 地点、No.2 地点ともに自動車走行音であった。

(注1) 地域区分の欄の「近接空間」とは、「幹線交通を担う道路に近接する空間」のことである。

(注2) 調査時間は8:00~18:00である。

(4) 悪臭

悪臭の監視結果の概要及び評価を下表に示す。

表 3-4-9 環境監視結果の概要及び評価（悪臭）

地点	監視結果の概要	評価
堺基地周辺2地点	<p>○ 各測定地点における悪臭の調査結果の概要を表 3-4-10 に示す。</p> <p>6 月及び 8 月の調査ともに、臭気指数は<10、臭気強度は 0（臭質：無臭）であった。</p>	<p>○ 臭気指数について、規制基準値を下回っており、特に問題ないと考えられる。</p>

表 3-4-10 悪臭調査結果の概要

調査月日	地点名	臭気指数	臭気指数 規制基準値	臭気強度	臭質	規制基準値に相当する臭気強度 〔参考〕
6 月 14 日	No.5（風下）	<10	10	0	無臭	2.5
	No.6（風上）	<10		0	無臭	
8 月 4 日	No.5（風下）	<10	10	0	無臭	2.5
	No.6（風上）	<10		0	無臭	

(注)・「臭気指数規制基準値」は、悪臭防止法に基づく敷地境界線における規制基準値の下限値である。
 ・「規制基準値に相当する臭気強度」は、悪臭防止法に基づく規制基準値に相当する臭気強度の範囲の下限値（最も厳しい値）である。

3-5 まとめ

3-5-1 環境監視結果の評価

(1) 海域監視

- 大阪沖処分場及び泉大津沖処分場の排水処理施設からの放流水の水質は規制基準値及び管理基準値等を下回っていた。
- 海域の水質及び底質については、大阪府所管の監視点と比較し大差なく、事業による影響は特に認められなかった。
- 海生生物については、過年度と同程度で事業による影響は特に認められなかった。

(2) 陸域監視

- 各基地とも、廃棄物輸送車が走行する道路における総交通量に占める廃棄物輸送車の混入率が低いことなどから、大気質及び騒音・振動に関する事業による影響は小さいものと考えられる。
- 各基地とも、悪臭に係る調査結果は規制基準値を下回っており、事業による影響は小さいものと考えられる。
- 南港中央公園における大気質、大阪南港野鳥園における騒音・低周波音及び悪臭については、環境基準値との比較等の検討の結果、事業による影響は小さいものと考えられる。

3-5-2 環境保全上の措置

- 大阪沖処分場においては、平成 21 年 10 月から廃棄物の受け入れを行っている。事業による環境への影響をできる限り軽減するため、処分場周辺等の環境調査に加えて、平成 21 年 10 月より開始した放流水、内水の監視や廃棄物運搬船、廃棄物輸送車の運行管理の徹底を継続していく必要がある。
- 泉大津沖処分場においては、メタン濃度が高濃度で検出された平成 19 年度以降、監視を強化した発生ガスの状況について、引き続き推移を見ていく必要がある。
- 廃棄物輸送車の集中による沿道環境（大気質、騒音・振動）への影響の軽減を図るため、廃棄物輸送車のルート指定対策を今後とも継続する必要がある。

参 考 资 料

「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」設置要綱

(目的)

第1条 この協議会は、大阪府域における大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る埋立処分場、積出基地周辺の環境監視及び環境保全対策の実施に関し、大阪湾広域臨海環境整備センター（以下「大阪湾センター」という。）を指導することにより、地域住民の生活環境の保全を図ることを目的とする。

(名称)

第2条 この協議会は、「大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る大阪府域環境保全協議会」（以下「協議会」という。）という。

(業務内容)

第3条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- (1) 大阪湾センターが立案する施設建設工事及び埋立処分事業に係る環境監視計画等環境監視方法に関する指導
 - (2) 大阪湾センターが行った環境監視の結果に関する評価
 - (3) 大阪湾センターが立案する環境保全対策に関する指導
 - (4) 第1号から第3号に掲げる業務に関する資料の公開
- 2 協議会が対象とする施設は、次のとおりとする。

埋立処分場	泉大津沖処分場、大阪沖処分場
積出基地	大阪基地、堺基地、泉大津基地

(組織)

第4条 協議会は、別表に掲げる職にある者をもって構成する。

- 2 協議会に会長を置き、大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長をもってこれに充てる。
- 3 協議会の会議は、会長が必要に応じ招集し、これを主宰する。
- 4 会長は、必要に応じ協議会の会議に大阪湾センター等の関係者の出席を求めることができる。

(事務局)

第5条 協議会に事務局を置く。

- 2 事務局は、大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課に置く。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

- 2 第1条の目的を達成するため、大阪湾圏域広域処理場整備事業と密接に関連する事業の事業者の協力を求めることができる。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成元年7月6日から施行する。
- 2 この要綱の一部改正は、平成10年6月5日から施行する。
- 3 この要綱の一部改正は、平成12年4月27日から施行する。
- 4 この要綱の一部改正は、平成13年5月2日から施行する。
- 5 この要綱の一部改正は、平成14年5月27日から施行する。
- 6 この要綱の一部改正は、平成15年6月5日から施行する。
- 7 この要綱の一部改正は、平成17年4月1日から施行する。
- 8 この要綱の一部改正は、平成18年4月1日から施行する。
- 9 この要綱の一部改正は、平成19年4月1日から施行する。
- 10 この要綱の一部改正は、平成20年11月1日から施行する。

- 11 この要綱の一部改正は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 12 この要綱の一部改正は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 13 この要綱の一部改正は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 14 この要綱の一部改正は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 15 この要綱の一部改正は、平成 25 年 8 月 29 日から施行する。
- 16 この要綱の一部改正は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表 協議会構成員

大阪府環境農林水産部	環境管理室環境保全課長 環境管理室交通環境課長 環境管理室事業所指導課長 水産課長 泉州農と緑の総合事務所環境指導課長
大阪市環境局環境管理部	環境管理課長 環境規制担当課長 産業廃棄物規制担当課長
堺市環境局環境保全部 環境事業部 産業振興局農政部	環境共生課長 環境対策課長 環境事業管理課長 農水産課長
泉大津市都市政策部	環境課長
地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所	水産研究部長

大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る 環境監視結果 平成 28 年度報告書

平成 29 年 9 月発行

編集発行 大阪湾圏域広域処理場整備事業に係る
大阪府域環境保全協議会

(事務局) 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16
大阪府咲洲庁舎 21 階

直通 TEL 06-6210-9580

代表 TEL 06-6941-0351 内線 3855
